

文化庁委託調査

文化政策の評価手法に関する調査研究  
報告書

2012年3月  
株式会社ニッセイ基礎研究所



## ◎ はじめに

この報告書は、ニッセイ基礎研究所が文化庁の委託を受けて実施した「文化政策の評価手法に関する調査研究」の成果をとりまとめたものである。

平成23年2月に閣議決定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針)」において、「国民への説明責任の向上に資するため、重点戦略に係る PDCA(計画、実行、検証、改善)サイクルを確立し、各施策の進捗状況を点検するとともに不断の改善を図る必要がある」と示されたように、文化芸術振興施策を推進するには、適切な評価手法を確立することが急務となっている。

同じく、第3次基本方針に掲げられた6つの重点戦略のうち「重点戦略1:文化芸術活動に対する効果的な支援」では、「文化芸術への支援策をより有効に機能させるため、独立行政法人日本芸術文化振興会における専門家による審査、事後評価、調査研究等の機能を大幅に強化し、諸外国のアーツカウンシルに相当する新たな仕組みを導入する」とされ、既に日本芸術文化振興会においてはプログラム・ディレクター、プログラム・オフィサーが起用され、「トップレベルの舞台芸術創造事業」を対象に、新たな審査・評価の仕組みづくりが始まっている。

本調査研究は、これらの流れを踏まえた上で、文化庁の実施する主要な4つの補助事業、「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」「文化芸術創造都市推進事業」「文化芸術の海外発信拠点形成事業」を対象に、各種様式例の考案を軸とした評価手法の検討を行ったものである。

近年、政府や地方公共団体のあらゆる政策分野において、政策評価、事務事業評価などが実施され、その重要性は増大する一方である。しかし、文化政策や文化事業、文化施設の評価は、他の政策領域に比べて、元来、効果、成果の測定しにくい特性を有しており、必ずしも容易ではない、と言われている。定性的なアウトカムを把握するには技術的な困難が伴うこと、事業の実施から具体的な成果が生じるのに相応の時間を要することなどが、その主な理由である。

その結果、これまでの文化芸術振興に関する評価は、入場者数、参加者数、施設稼働率といったアウトプットに関する定量データに頼りがちであった。こうしたデータは、評価の基礎指標として不可欠であるが、それだけで評価を行ったのでは、多くの参加者の見込める人気プログラムへの偏りや、短期的な成果の現れにくい事業からの撤退などを招く危険性がある。

そのため本調査研究では、定量的な側面だけではなく定性的な側面を考慮した評価手法、アウトプットだけではなくアウトカムの測定方法、さらには文化面だけではなく、社会的側面を含めた多様で幅広いインパクトを含めた評価手法を開発すべく、調査、研究を行った。

末筆ではあるが、本調査研究の機会を与えられた文化庁長官官房政策課、並びに評価手法の検討に際して貴重な御意見を頂戴した調査研究会委員や協力団体の方々に心よりお礼申し上げるとともに、この成果が日本の文化政策の評価手法の確立、ひいては文化芸術の振興に有効に活用されることを願うものである。

平成24年3月

株式会社ニッセイ基礎研究所  
芸術文化プロジェクト室



## 序章 調査研究の目的と構成

## 第1部 調査研究会議事概要

1. 第1回 文化政策の評価手法に関する調査研究会の意見要旨 ..... 3
2. 第2回 文化政策の評価手法に関する調査研究会の意見要旨 ..... 5
3. 第3回 文化政策の評価手法に関する調査研究会の意見要旨 ..... 6

## 第2部 施策別の評価手法と様式例

- ◎ 各施策に共通する基本的な考え方ー目的の明確化 ..... 11

## [A. 優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業]

1. 評価の考え方と手順 ..... 15
  - (1) 評価の基本的な考え方 ..... 15
  - (2) 施策の概要、評価指標、及びデータの収集方法と調査項目 ..... 17
  - (3) 評価の流れ ..... 19
  - (4) 様式の運用 ..... 21
2. 様式例【Ⅰ】の検討 ..... 23
  - (1) 依頼状 ..... 23
  - (2) 「①採択団体アンケート調査」 ..... 24
  - (3) 「②観客アンケート調査」 ..... 36
  - (4) 「③ワークショップ・アウトリーチ参加者アンケート調査」 ..... 40
  - (5) 「④採択団体インタビュー調査」 ..... 44
  - (6) 「⑤芸術家・芸術団体インタビュー調査」 ..... 45
  - (7) 「⑥訪問調査記入フォーム」 ..... 46
3. 様式例【Ⅱ】の検討 ..... 48
  - (1) 様式例【Ⅱ】の記入フォーム ..... 48

## [B. 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業]

1. 評価の考え方と手順 ..... 57
  - (1) 評価の基本的な考え方 ..... 57
  - (2) 施策の概要、評価指標、及びデータの収集方法と調査項目 ..... 59

(3) 評価の流れ	61
(4) 様式の運用	63
2. 様式例【Ⅰ】の検討	65
(1) 依頼状	65
(2) 「①採択団体アンケート調査」	66
(3) 「②採択団体インタビュー調査」	78
(4) 「③訪問調査記入フォーム」	80
3. 様式例【Ⅱ】の検討	82
(1) 様式例【Ⅱ】の記入フォーム	82
[C. 文化芸術創造都市推進事業]	
1. 評価の考え方と手順	91
(1) 評価の基本的な考え方	91
(2) 施策の概要、評価指標、及びデータの収集方法と調査項目	93
[D. 文化芸術の海外発信拠点形成事業]	
1. 評価の考え方と手順	97
(1) 評価の基本的な考え方	97
(2) 施策の概要、評価指標、及びデータの収集方法と調査項目	99
(3) 評価の流れ	101
(4) 様式の運用	103
2. 様式例【Ⅰ】の検討	105
(1) 依頼状	105
(2) 「①採択団体アンケート調査」	106
(3) 「②参加者アンケート調査」	116
(4) 「③採択団体、及び参加者インタビュー調査」	124
(5) 「④訪問調査記入フォーム」	126
3. 様式例【Ⅱ】の検討	128
(1) 様式例【Ⅱ】の記入フォーム	128
第3部 国内外の参考事例と提言	
1. 国内参考事例	139
(1) アサヒビール株式会社によるメセナ活動の事業評価	139

(2) (公財)セゾン文化財団の助成事業と事業評価	140
<b>2. 海外参考事例</b>	<b>142</b>
(1) 英国アーツカウンシルの芸術性評価スキーム	142
(2) エジンバラ国際フェスティバル協会のエジンバラ・フェスティバル評価研究	143
(3) 英国遺産局の歴史的な遺産のある環境の地域活性化の効果	144
(4) リバプール市の欧州文化首都のリバプールの経験	146
(5) 国際アーツカウンシル文化機関連盟の芸術家の国際的な移動を支援するプログラム	147
<b>3. 有効な評価手法に向けた提言</b>	<b>149</b>
(1) 文化政策の評価に関する実施体制	149
(2) 事前評価と事後評価の整合性、連続性	149
(3) 文化政策の評価に関する専門スタッフの人材育成	150
(4) 採択団体とのパートナーシップの形成	150
(5) 調査研究機能(シンクタンク機能)の強化	151



## 序章 調査研究の目的と構成

### 1. 調査研究の目的

文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針、平成23年2月8日閣議決定、対象期間:平成23～27年度の概ね5年間)においては、同基本方針に基づく文化芸術振興施策の着実かつ継続的な実施を図るとともに、国民への説明責任の向上に資するため、重点戦略に係るPDCA(計画、実行、検証、改善)サイクルを確立する必要があり、そのために有効な評価手法の確立に努めることとしている。

この方針を踏まえ、本調査研究は、第3次基本方針に基づく次の4つの主要施策を対象に、文化政策の評価に必要な指標や様式例を考案し、有効な評価手法の確立に資することを目的としている。

- A. 優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業
- B. 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業
- C. 文化芸術創造都市推進事業
- D. 文化芸術の海外発信拠点形成事業

### 2. 調査研究の内容と構成

#### (1) 調査研究会による検討

本調査研究の実施に際し、調査研究会を設置し、調査研究の進め方、評価指標、評価に用いる様式例、評価に関する提言などについて、検討を行った。

#### ◎文化政策の評価手法に関する調査研究会

##### [委員]

太下 義之	三菱UFJリサーチ&コンサルティング 芸術・文化政策センター長
荻原 康子	公益社団法人企業メセナ協議会 事務局長
片山 正夫	公益社団法人セゾン文化財団 常務理事
推名 慎一	財団法人アフィニス文化財団 アドバイザー
田辺 国昭	東京大学大学院法学政治学研究科 公共政策大学院院長
津村 卓	北九州芸術劇場 館長 (順不同・敬称略)

##### [文化庁]

滝波 泰	文化庁長官官房政策課企画調整官
北岡 龍也	文化庁長官官房政策課政策調整係長

##### [開催実績]

- 第1回(平成24年1月16日): 調査の進め方、各事業の評価方法
- 第2回(平成24年3月2日): 様式例【Ⅰ】【Ⅱ】の検討
- 第3回(平成24年3月21日): 様式例【Ⅰ】【Ⅱ】の検討、先進事例と提言

## (2) 様式例の考案

本調査研究では、4つの主要施策に関する評価手法を開発するため、次の二つの様式例を以下の手順に沿って検討、考案した。なお、様式例の検討・考案に際しては、調査研究会を都合3回開催し、委員の専門的な意見やアドバイスを聴取し、反映させた。

### 様式例【Ⅰ】

採択団体の事業や取組の実績や成果、課題を把握するためのアンケート調査票(一部基礎データ入力フォーム含む)、インタビュー調査項目、訪問調査記入フォーム等

### 様式例【Ⅱ】

様式例【Ⅰ】で収集した調査結果を統合し、4つの主要施策の評価、課題の整理、改善点の検討などを行う一覧表

#### ① ロジック・モデルの作成

- 各施策の応募要項や採択団体の事業内容を参照し、評価指標設定の基礎となるロジック・モデルを作成した。
- ロジック・モデルは、基本的には、施策やプログラムの最終的な成果が、その目的や目標に見合った成果かどうかを評価するための理論的なフレームワークとして活用されているもので、インプット(投入)、プロセス/アクティビティ(工程もしくは制作業務)、アウトプット(結果)、アウトカム(効果)、インパクト(波及効果)の5つの要素で構成されている。

#### ② 戦略目標、評価指標の設定

- ロジック・モデルの作成と並行して、4つの主要施策の担当部局との打合せなどに基づき、評価手法検討の基礎となる戦略目標を検討、設定した。
- その上で、アウトプット(結果)、アウトカム(成果)、インパクト(波及効果)の別に、各施策の実績や成果、効果を把握するための評価指標を設定した。

#### ③ 様式例【Ⅰ】(第1次案)の作成と検証

- ②で設定した評価指標に基づき、アンケート調査票(採択団体、観客、参加者対象)、インタビューや訪問調査の記入フォームの第1次案の作成を行った。
- ただし、「C. 文化芸術創造都市推進事業」については、事業そのものに採択団体による「評価・分析の計画作成と実施」が含まれていること、採択団体の自由な発想に基づいた「政策提案型」の事業であることから、共通の様式では適切な評価ができないことから、様式例【Ⅰ】の作成対象から除外した。
- 3つの主要施策の平成23年度採択団体(A:4団体、B:5団体、D:2団体)に協力を依頼し、様式例【Ⅰ】(第1次案)への記入を通して明らかとなった問題点や課題、様式例【Ⅰ】の改善案などを提案いただいた。

#### ④ 様式例【Ⅱ】(第1次案)の作成

- 様式例【Ⅰ】で収集した各種データや調査結果を、アウトプット(結果)、アウトカム(成果)、インパクト(波及効果)ごとの政策指標に沿って統合、整理し、各施策の評価や改善のポイントを抽出するための様式例【Ⅱ】(第1次案)を作成した。

### ⑤ 様式例【Ⅰ】【Ⅱ】(第1次案)の検証

- ②様式例【Ⅰ】(第1次案)の検証に協力いただいた採択団体(ただし B は2団体を選出)に加え、C の採択1団体に協力いただき、文化庁において、意見交換会を開催し、様式例【Ⅰ】【Ⅱ】(第1次案)に対する検証を行った。

### ⑥ 様式例【Ⅰ】、様式例【Ⅱ】の考案

- ②～⑤の成果に基づいて、様式例【Ⅰ】、様式例【Ⅱ】を考案した。

## (3) 評価手法に関する提言

本調査研究の主要な成果物である様式例【Ⅰ】【Ⅱ】の考案に加え、文化庁の主要施策に関する評価手法の開発に際して有効と思われる事項を抽出、整理するため、国内外の助成事業や文化事業に関する先進的な事例を調査・整理した。

それらの調査結果ならびに調査研究会での検討に基づいて、文化施策の評価手法に関する提言をとりまとめた。

なお、提言のとりまとめに際して調査・整理を行った国内外の事例については、主要5施策の参考となるよう、次の7つの評価事例を取り上げた。

- アサヒビール株式会社によるメセナ活動の事業評価
- (公財)セゾン文化財団の助成事業と事業評価
- 英国アーツカウンシルの芸術性評価スキーム(Artistic Assessment Scheme)
- エジンバラ国際フェスティバル協会(委託機関:BOP コンサルティング)のエジンバラ・フェスティバル評価研究(Edinburgh Festivals Impact Study)
- 英国遺産局(委託機関:AMION コンサルティング)の歴史的な遺産のある環境の地域活性化の効果(The Impact of Historical Environment Regeneration)
- リバプール市(委託機関:リバプール大学)の欧州文化首都のリバプールの経験(Creating an Impact: Liverpool's experience as European Capital Culture)
- 国際アーツカウンシル文化機関連盟(委託者:ジュディス・ステインズ)の芸術家の国際的な移動を支援するプログラム(Artists' International Mobility Programs)

## (4) 調査研究報告書の作成

(1)～(3)の調査研究の成果を、以下の3部に整理し、報告書を作成した。

### 第1部: 調査研究会議事概要

- 3回の調査研究会で委員から示された意見、提案のうち、主要なものを抽出し、要約・整理した。

### 第2部: 施策別の評価手法と様式例

- 「A. 優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」「B. 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」「C. 文化芸術創造都市推進事業」「D. 文化芸術の海外発信拠点形成事業」の別に、本調査研究で作成した評価手法、様式例【Ⅰ】【Ⅱ】などを整理した。

### 第3部: 国内外の参考事例と提言

- 文化庁の主要な文化施策の評価手法の開発に参考となる国内外の事例を整理し、調査研究全般を通じて得られた知見に基づいて提言をとりまとめた。

### 3. 調査研究体制

本調査研究は、ニッセイ基礎研究所の以下の4名で担当・実施した。

吉本光宏 主席研究員・芸術文化プロジェクト室長(統括責任者)

大澤寅雄 芸術文化プロジェクト室 研究員

稲村太郎 芸術文化プロジェクト室 研究員

吉田妙子 社会研究部門 研究アシスタント

## 第1部 調査研究会議事概要



## 1. 第1回 文化政策の評価手法に関する調査研究会の意見要旨

(2012年1月16日(月)16:00~18:00 文化庁 第2会議室)

### (1) 調査研究の進め方について

#### 評価の利用目的の明確化(内部評価/外部評価、事業評価/施策評価)

- 各施策について、文化庁の内部評価として様式を活用するのか、それとも、外部に評価を委ねるための様式なのか。内部評価としての仕切りもあるが、外部評価に活用することも可能だ。
- アンケートは、事業の評価には有効だが、施策の優先順位を変化させる場合には、アンケートが直接的に役立つわけではない。評価の利用目的を明確にすべき。

#### 評価指標をフィードバックするPDCAサイクルの明確化

- 複数のPDCAサイクルが想定されているが、どの評価指標をどのPDCAサイクルにフィードバックするのかを明確化する必要がある。
- それぞれのPDCAに評価を活用するとともに、説明の素材や説得材料としてデータを作ることも必要。
- 一つ一つの枠組みに対して、戦略目標をつくり、一つ一つの戦略目標をシンプルにしてはどうか。

#### 申請しなかった理由を聞く必要性(助成事業のプロセスのPDCAとして)

- 施策「トップレベルの舞台芸術創造事業」のプロセスに関する評価は、公募の仕方が適切かどうかも含むことになる。それは、申請した当事者だけを調査対象にするのがふさわしいか、という問題もある。
- 施策「文化芸術の海外発信拠点形成事業」も、採択団体の中に音楽がなかったが、招へい期間が30日というのが引っ掛かっているのではないか。そのような申請しなかった理由を聞く必要もある。

#### 採択された事業に対する評価か、採択団体の事業全体の評価か

- 施策「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」では、基本的に事業に対する助成だが、事後評価の中で、どれだけホール運営全体を反映するのか。

#### 継続した事業と個別単体への事業のPDCAサイクルの違い

- 個別の公演についての評価をどこにフィードバックするのか。次に申請のあるものは、別の作品になる。PDCAサイクルは継続しているものに対してしか作用できない。だから個別単体の事業への助成とPDCAサイクルは馴染まない。
- 劇場運営のメリットは、同じカンパニーが作っている創作作品を3作品は我慢して待てる。だから1作1作の事業評価と劇場の評価は別物。

#### 評価される側が採集できるデータの見極め、「どう評価されたいのか」の把握

- 評価する側が採集したいデータが、必ずしも評価される側が用意できないという問題がある。採択時点で評価に必要なデータを採集するように指示することはできるが、簡単に入手できるものではないものがある。その見極めが重要。

- 評価される側の「数だけで評価されたくない」という意見はもつともなこと。逆に、採択団体にヒアリングする機会に、「どう評価されたいのか」を聞くこともありえるのではないか。

#### 施策:「トップレベル」の様式Ⅰと様式Ⅱの検討の進め方

- 施策「トップレベル」については、他の調査研究と進め方が違う。様式Ⅰについては別の組織が進めて、様式Ⅱをここで検討するというのであれば、様式Ⅰの検討内容も共有すべき。

## (2) 各施策の評価方法について

### ○優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業

#### 設置者の財源負担の評価のあり方

- 事業収支の評価指標だが、設置者の補助金を財源として事業を運営している場合、入場率が想定よりも高かった場合には、設置者が負担する補助金は予算から減る。その場合、事業単体で見れば、設置者の財源負担は最初の想定よりは軽減されることになる。そのことがマイナス評価をされるとしたら、チケットを売る努力をしなくなってしまう。

#### 評価指標の解釈をどう設定するか

- 評価の解釈の問題はすごく重要で、最初に「こうあるべき」ということがないと、指標は作れない。例えば満足度を調査しても、先駆性を追求した公演は必ずしも満足度が高いとは限らないため、満足度の数値が個別事業の相対評価として有効だとは限らない。

#### 毎年のアンケートで中長期のインパクトを把握するか

- アウトカムやインパクトには長期間の経過が必要だが、その評価指標を毎年取る意味があるのか。特に地域社会に対するインパクトは、1年や2年では変化しない。
- これは国からの助成を受けて、どう影響があったかを把握するということがベースにある。1年目の採択団体はこの項目について聞き、2年目3年目はこの項目について重点的に聞くという形式はどうか。

#### 採択団体の地域性や目的による評価指標の違い

- 例えば、東京の劇場と地方の劇場では聞く内容が自ずと違ってくるが、同じ評価指標に乗せてしまうのはいかなものか。
- ホールが開館してからの年数、地域の都市規模、当然ミッションによって評価の前提が違う。
- 劇場ごとに1個1個カスタマイズしたアンケート票を作るのは現実的ではない。劇場ごとに違うことを認識した上で、文化庁の助成事業がどういう効果があるかを把握する手法を検討。

### ○文化芸術の海外発信拠点形成事業

#### 助成の目的と採択されたプログラムがどれほど合致しているか

- アーティスト・イン・レジデンス(AIR)に招かれたアーティストは、それぞれに目的も違う。本来は作品制作を求めてきた人にワークショップを求めてしまうと、そこで明らかに満足度は変わってしまうので、各AIRが掲げている事業とそのプログラムがどれだけ合致していたかを測る必要がある。

#### AIRの拠点相互の評価の重要性

- 特に長期的なインパクトで見た時には、日本に対する理解や、その発信拠点が国際的にどれだ

け知られるようになったか、といったことを、外部にインタビューしていくのも重要。

- アーティストは、様々な国や地域の AIR を渡り歩いていて、その拠点同士もお互いに少しずつ意識している。他の AIR からどのように評価されているのかは重要な指標。

#### 経年変化やエピソードを丁寧にみること

- この施策は、1回採択されたら5年間継続だから、経年変化やどんなエピソードが生まれていったのかを丁寧に掘みやすい。この施策によって何が起こったのか、それぞれの採択団体から丁寧に引き出したい。

## 2. 第2回 文化政策の評価手法に関する調査研究会の意見要旨

(2012年3月2日(金)11:00~12:00 文化庁 文化庁特別会議室)

### (1) 様式 I の検討事項

#### 各採択団体の事業成果をどのように PDCA サイクルに反映させるべきか

- 同じ評価項目で評価しようとする、各採択団体の特色が見えてこない。各採択団体の目的やミッションをどのように受け止めるべきか考慮する必要があるのでは。
- 採択団体の立場から考えると、なぜ補助事業を実施しているのかと主張したいのは当然で、それを聞くべきだが、各採択団体のミクロの意見を積み上げて成果とするときに、事業目的をブレイクダウンした目標を達成できたかが見えてこないと厳しいものがある。また、施策の検証や改善を考えるときに、どのように調査した情報を結びつけるのかがポイントとなるはずなので、その点に工夫が必要であろう。

#### インタビューや訪問調査を実施する専門的な人材の必要性

- インタビューや訪問調査では、担当する人によって評価のクオリティが変わる場合があるので、プログラム・オフィサーもしくは調査員のトレーニングをする必要がある。
- インタビューや訪問調査は、全ての採択団体を訪問するのは現実的ではない。調査時期によって収集可能な内容も変わってくると思うので、次のプログラムのためのサンプルとして実施するのでもよいのではないか。

#### 募集要項に記載された施策の目的と選考基準とのズレ

- 施策「文化芸術の海外発信拠点形成事業」では、拠点を形成することが最大の目的とされているが、既に拠点が形成されている団体とこれから拠点の形成に取り組む団体との両者が採択されている。実は、選考の中で、拠点を形成することではなく、どのようなアクションをするかということが重視されている。

#### 個別の施策で評価の目的や意味合いをどう設定するか

- 評価の位置付けとして、個別に評価の意味合いが違う目的があっても良いかなと思う。例えば、この評価の機会を通じて、初めて評価というものを意識し、自分たちなりの評価に取りかかるきっかけになるとか。そういうような評価の普及という意味合いもあるのではないか。

#### 事業に参加しなかった一般市民の理由を聞く必要性

- 観客向けのアンケートでは、その事業に参加していない一般市民がどのように思っているかを聞

く必要があるのではないか。日本の人口は減少していく一方なので、観客を増やすことは目標になりえないが、観客を維持していくために、観客の若返りなど、観客層開拓に目を向けることが重要だと思う。

#### 採択団体の本音を引き出すアンケートの工夫

- 採択団体向けのアンケートでは、文化庁の補助で効果がなかったとは書けないが、全て効果があったとにならないように、プライオリティをつけるとか、なるべく採択団体の本音を引き出せるような工夫をする必要がある。

### (2) 様式Ⅱの検討事項

#### 申請しなかった団体や参加しなかった一般市民の視点を取り入れる。

- 施策の募集の段階で、文化庁の目的や目標などの狙いに対して、どれくらい満足な応募があったかということを考慮に入れるべきで、採択した結果だけを追うべきではないのでは。
- 施策に申請しなかった団体に、なぜ申請をしなかったのか、また、事業に参加していない一般市民に、なぜ参加しなかったのかをヒアリングするような環境調査もあってもいいのでは。

#### 集計後のデータを分析する人材の専門性

- データの集計後に、その集計データを解釈するには、相当な経験値がないと難しい。現場を知っているプログラム・オフィサーがその役割をすると推測できるが、現場を知っている人でも、自分の育った現場がすべてというか、それを標準にしてしまう人がいる。

#### プログラムに影響を与える外部環境の分析

- プログラムを評価する場合、データの集計だけでなく、プログラムの外側にある環境を分析していく必要があって、例えば、5年経つと文化政策とかプログラムに影響を与える要素はかなり変わってくるので、外側の世界の変化を調査する機能が必要なのではないかと思う。

#### 文化庁全体の中での施策の役割や機能を意識したマクロの状況を分析

- 様式Ⅱとは別に、例えば、ステークホルダー分析など、文化庁の中で各施策がどのような特徴や役割があるのかを、マクロの状況の中で分析する必要があるだろう。

### 3. 第3回 文化政策の評価手法に関する調査研究会の意見要旨

(2012年3月21日(金)15:30～17:30 文化庁 文化庁特別会議室)

#### (1) 各施策の評価手法について(評価の流れと様式の運用、様式Ⅰ、様式Ⅱ)

#### 選考のプロセスと評価のプロセスの整合性をどのように整理するのか

- 評価のために収集されたデータ、特に採択団体アンケートは、選考には影響しないというのが前提だが、選考に当たる選考委員がその結果をみるのではないか。
- 継続して助成を受ける採択団体の選考を想定した場合、評価のために収集されたデータも経年変化や改善点を把握する資料として、審査のプロセスの中で活用されるべきだ。

#### 様式Ⅱの集計、分析に関する実施体制、評価委員会の設置の検討

- 様式Ⅱについて、誰が集計、分析をするのかということを考えなければいけないだろう。文化庁の

施策の評価ということから、おそらく、少し距離を置く必要があるので、民間に委託をして、評価委員会がそれを受け取るというのが適当ではないか。

- 外部の離れた人が集計されたデータを読み取ってプログラムの改善につなげるという仕組みが必要である。評価のために委員会を設置する場合、選考委員会と同じメンバーで構成されるのがよいのではないか。
- 公演や芸術団体の審査をされている人たちの中には、舞台で行われていること以外に関心がない人もいるため、必ずしも、選考委員が評価委員として適切とは限らない。
- 選考委員会と評価委員会が違うグループの場合、どのように情報を共有するのかということが問題になるので、選考委員会のメンバーの一部が評価委員会のメンバーになるというのではどうか。

### ○優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業

#### 観客アンケートのあり方と実施方法

- 劇場・音楽堂の観客アンケートで、こちらがあらかじめ想定する回答と同じものが戻ってくるだけなのであれば、質問を変えて、例えば、「公的な補助金をどういうことに使ったらいいでしょうか？」など、政策を考えるために参考になるような意見を聞いてみたい。
- 観客アンケートに関しては、回答数を増やしたいと思うので、キャンペーンをするとか、回答者が面白いと思えるような WEB アンケートを開発するなど、工夫をする必要がある。

### ○文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

#### データの収集のタイミングと方法

- 各団体の事業や活動が地域活性化につながるか、観光資源になるかどうかには時間がかかるので、3年計画であれば、その初年度と事業の終了間際に訪問するのが適当だ。
- 採択団体数が非常に多く、全ての採択団体にインタビューや訪問調査するのは現実的でないが、アンケートに関しては、全ての採択団体に提出してもらうべきだ。

#### 評価のプロセスから採択団体の活動状況を把握し、プログラムの見直しや再編へ

- 施策の枠組みが非常に広く、これをやらなければいけないというポジションが明確でないので、3年間の施策なのであれば、評価を通してプログラムを再編する必要がある。
- 「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の共同制作公演への支援は、政策誘導型で、全国に共同制作公演が広まりつつある。そのような意味で、「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」も何か明確な方向づけをする必要がある。

### ○文化芸術の海外発信拠点形成事業

#### 評価と選考の連携の必要性

- 現在のプログラムに関して、選考でもいくつかの課題が抽出されていて、どうやってプログラムを再編するのかを考慮に入れ、評価を検討する必要があり、選考委員会と評価委員会の連携を検討すべき。

#### プログラムのサイクルの問題点

- 毎年、5年間継続前提で採択され続けているため、プログラムを変更するサイクルがない。

## (2) 評価指標に関する提言について

### 様式Ⅱの実施体制をどのように整備するかが重要な課題

- 全体的に評価のための情報を集めるということは形になっているが、その集めた情報をどのように加工するのかということが重要で、それを文化庁の中で処理するのは、忙しいという意味で無理だと思うので、第三者が情報の加工をする体制をつくるべきだ。
- 評価を継続的に実施するチームが必要であるというのであれば、それはアーツカウンシルではないかと思う。日本芸術文化振興会で審査と評価をできるようにアーツカウンシルの体制をもっと強化する必要がある。
- 文化庁の中にシンクタンクをつくるとか、文化審議会に評価部会をつくるとかも選択肢として考えられるので、いくつかの選択肢を用意するのがいいのではないか。

## 第2部 施策別の評価手法と様式例



## ◎ 各施策に共通する基本的な考え方ー目的の明確化

本調査研究では、文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針)に基づいて、文化庁の4つの主要施策を対象に評価手法の検討を行った。

調査研究会での検討、様式例【 I 】の検証・考案過程で、評価目的の明確化が重要であることが明らかとなったため、ここでは、施策別の評価手法と様式例の前に、4つの施策に共通する基本的な考え方として、評価の目的を次の3点に整理した。

### (1) 各施策の PDCA サイクルの確立と改善

まず、ここで整理した評価手法は文化庁の主要な施策を対象にした評価であり、採択団体の事業の成果や効果の評価することを主な目的とはしていない、という点に留意する必要がある。後述する様式例【 I 】で検討、考案したアンケート調査、インタビュー調査、訪問調査などは、一義的には採択団体の事業や活動の成果、効果を把握するためのものであるが、そのことが採択団体の評価、あるいは、当該団体の次年度の採択の有無(審査)に直接的に関係するものではない。

様式例【 I 】を通して収集したデータや調査結果、当該事業の成果、効果を物語るエピソードなどを、様式例【 II 】を活用することで、総合的に分析・整理し、施策の問題点や課題、改善策などを抽出し、施策をよりよいものに導いていくこと、すなわち施策の PDCA(計画、実行、検証、改善)を確立することが、ここで検討した評価手法の第一の目的であることを明確にしておく必要がある。

### (2) 採択団体の PDCA サイクルの確立と改善への寄与

一方で、様式例【 I 】で収集したデータや調査結果は、採択団体の事業の問題点や課題を客観的に把握し、改善などを検討するのにも極めて有効だと考えられる。したがって、この評価手法を通じて得られた結果を、採択団体にフィードバックし、採択団体自らが、自身の事業や運営の改善、あるいは PDCA の確立に取り組めるよう、連携することが重要である。

そのことによって、補助をする立場の文化庁と、補助を受ける立場の採択団体の間に「評価する側ーされる側」を超えたパートナーシップが形成され、各施策の戦略目標の達成に向けた取組を行う、という協働の姿勢が、評価をより意味のあるものにしていくと考えられる。

### (3) 国民への説明責任と施策の成果・必要性のアピール

評価のもう一つの重要な目的は、評価結果を広く公表し、国民に対する説明責任を果たすことである。その場合、観客数や公演回数などの output(結果)だけではなく、様式例【 I 】で明らかとなった outcome(成果)を示す調査結果や impact(波及効果)を物語るエピソードなどを積極的に公表し、施策の成果・必要性をアピールする取組も重要である。



## A. 優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業

---

1. 評価の考え方と手順	15
(1) 評価の基本的な考え方	15
(2) 施策の概要、評価指標、及びデータの収集方法と調査項目	17
(3) 評価の流れ	19
(4) 様式の運用	21
2. 様式例Ⅰの検討	23
(1) 依頼状	23
(2) 「①採択団体アンケート調査」	24
(3) 「②観客アンケート調査」	36
(4) 「③ワークショップ・アウトリーチ参加者アンケート調査」	40
(5) 「④採択団体インタビュー調査」	44
(6) 「⑤芸術家・芸術団体インタビュー調査」	45
(7) 「⑥訪問調査記入フォーム」	46
3. 様式例Ⅱの検討	48
(1) 様式例Ⅱの記入フォーム	48



## 1. 評価の考え方と手順

### (1) 評価の基本的な考え方ー戦略目標と評価指標、様式例

本調査研究における評価手法は、文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針)に基づいて文化芸術振興施策の着実かつ継続的な実施を図るとともに、国民への説明責任の向上に資するため、「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」のPDCA(計画、実行、検証、改善)サイクルを確立するために検討を行ったものである。

今年度は、施策の成果や効果をより適切かつ効率的に把握できる評価方法を検討するため、様式例【Ⅰ】アンケート調査、インタビュー調査、訪問調査、及び【Ⅱ】施策全体の評価フォームを考案し、様式例【Ⅰ】については、平成23年度の複数の採択団体に対して、その実用性や有効性を検証した。平成24年度には、今回の調査研究の成果に基づいた評価方法の試行を行い、平成25年度の事業から本格実施する予定となっている。

まず、評価手法を検討するための前提条件として、施策ごとに戦略目標の検討を行った。「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」については、応募要領に記載された内容や採択団体が実施した事業内容などを参照し、文化庁の担当課とも意見交換を行った上で、次の5つの戦略目標を設定した。

1. 自主企画制作による舞台芸術公演の質を向上させること
2. 優れた舞台芸術の鑑賞機会を地域住民に提供すること
3. 居住地域に関わらず文化芸術を鑑賞する機会を提供すること
4. 居住地域に関わらず地域住民に参加・創造する機会を提供すること
5. アートマネジメント人材や舞台スタッフを育成すること

次いで、この戦略目標に照らし合わせて、「output(結果)」「outcome(成果)」「impact(波及効果)」に対応した評価指標を設定した上で、評価に必要なデータや調査内容を検討し、様式例【Ⅰ】の設問項目を整理した。

その結果、「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」では、次のとおり3種類のアンケート調査、2種類のインタビュー調査、訪問調査に関する様式例【Ⅰ】とそれらを活用して収集したデータや調査結果を集約する様式例【Ⅱ】を作成した。

#### 【様式例Ⅰ】

##### ① 採択団体アンケート調査

採択団体が、補助(助成)を受けた立場から事業の実績等について回答いただくアンケート調査票である。採択団体の回答結果から、「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の実績や成果、効果を把握するとともに、採択団体自身が、事業の成果についての振り返りや改善を行うことを目的にしている。

なお、実際にこのアンケート調査を実施する際には、別途、採択団体に提出を依頼している事業完了報告書との過不足を調整し、採択団体に過度の負担とならない工夫が必要である。

## ② 観客アンケート調査

「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の補助対象のうち、公演事業の観客が、公演を鑑賞した立場での、来場の経緯や動機、事業や運営に対する感想や意見などを回答いただくアンケート調査票である。観客の回答結果から、「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の実績や成果、効果を把握するとともに、採択団体自身が、事業の成果についての振り返りや改善を行うことを目的にしている。

各館が独自に実施している観客アンケート票を統合し、集計は文化庁で一括実施のうえ、施設別の集計結果を各館にフィードバックするような方法も検討すべきだと考えられる。

## ③ 参加者アンケート調査

「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の補助対象のうち、教育普及事業や人材育成事業の参加者が、企画に参加した立場での、参加の経緯や動機、事業や運営に対する感想や意見などを回答いただくアンケート調査票である。参加者の回答結果から、「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の実績や成果、効果を把握するとともに、採択団体自身が、事業の成果についての振り返りや改善を行うことを目的にしている。

## ④ 採択団体インタビュー調査

文化庁の調査員もしくは当該分野の専門家が、「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の実施中に現地を訪問し、採択団体にインタビュー調査を行うための項目を整理したものである。「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の実績や成果、効果について、アンケート調査では把握しきれないエピソードや定性的な効果などを調査、把握することを目的としている。

## ⑤ 芸術家・芸術団体インタビュー調査

文化庁の調査員もしくは当該分野の専門家が、「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の実施中に現地を訪問し、事業に協働した芸術家・芸術団体等にインタビュー調査を行うための項目を整理したものである。「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の実績や成果、効果について、アンケート調査では把握しきれないエピソードや定性的な効果などを調査、把握することを目的としている。

## ⑥ 訪問調査記入フォーム

文化庁の調査員もしくは当該分野の専門家が、「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の実施中に現地を訪問し、事業の実施状況の観察、関係者へのインタビュー調査などの結果に基づいたレポートを作成するための項目を整理したものである。第3者の立場から、「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の実績や成果、効果を把握するための基礎的な資料を作成することを目的としている。

### 【様式例Ⅱ】

上記の様式例【Ⅰ】によって個別の採択団体から収集したデータや調査結果を、「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」全体として集約するフォームである。その際、output(結果)、outcome(成果)、impact(波及効果)などそれぞれの評価の視点から①～⑤までの調査結果を整理・分類した上で調査結果を統合・分析し、評価や改善が必要な点を検証するための様式例となっている。

(2) 施策の概要、評価指標、及びデータの収集方法と調査項目

施策の概要

政策の中での位置付け	
文部科学省(文化庁)の政策体系の中での位置付け	
①芸術文化の振興	優れた芸術文化への支援、新進芸術家の人材育成、子どもの芸術文化体験活動、地域における芸術文化活動の推進等を通じて、我が国の芸術文化活動水準の向上を図るとともに、国民全体が、芸術文化活動に参加できる環境を整備する。 ○芸術文化の振興を図るため、優れた芸術文化への支援を継続し、芸術文化創造活動を活性化させる。 ○子どもたちが本物の舞台芸術や伝統文化に触れ豊かな感性と創造性を育むとともに、地域における文化活動の活性化を図り、地域の住民が質の高い芸術文化活動に触れられる機会を充実する。
第3次基本方針の中での位置付け	
重点戦略1 文化芸術活動に対する効果的な支援	○地域の核となる文化芸術拠点において、優れた文化芸術が創造され、国内外に発信されるよう、その活動への支援を充実する。
重点戦略2 文化芸術を創造し、支える人材の充実	○雇用の増大を図ることも念頭に置き、文化芸術活動や施設の運営を支える専門的人材の育成・活用に関する支援を充実する。
施策目的	
既存資料の抜粋(応募要領「I. 募集について 1. 事業の概要」より)	
○我が国の舞台芸術水準の向上を図ること ○広く国民が享受できる環境を醸成すること	
評価指標づくりに向けた戦略目標	
1 自主企画制作による舞台芸術公演の質を向上させること 2 優れた舞台芸術の鑑賞機会を地域住民に提供すること 3 居住地域に関わらず文化芸術を鑑賞する機会を提供すること 4 居住地域に関わらず地域住民に参加・創造する機会を提供すること 5 アートマネジメント人材や舞台スタッフを育成すること	

事業内容(平成23年度)	
事業の枠組み	
①重点支援劇場・音楽堂(舞台芸術の水準を向上)	自主企画制作公演、教育普及事業、人材育成事業、スタッフ人材育成交流事業
②地域の中核劇場・音楽堂(地域のリーダー的役割)	地域住民や芸術団体と取り組む公演、教育普及事業、人材育成事業、スタッフ人材育成交流時事業
③共同制作公演(新たな創造活動)	新たな創造活動の公演
主な採択団体・補助事業名	
①重点支援劇場・音楽堂 採択件数:12件	◆世田谷文化生活情報センター(世田谷パブリックシアター)◎ ◆彩の国さいたま芸術劇場 ◆兵庫県立芸術文化センター◎
②地域の中核劇場・音楽堂 採択件数:67件	◆いづみホール◎ ◆杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」 ◆可児市文化創造センター◎
③共同制作公演 採択件数:2件	◆滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

評価指標、評価データの収集方法と調査項目

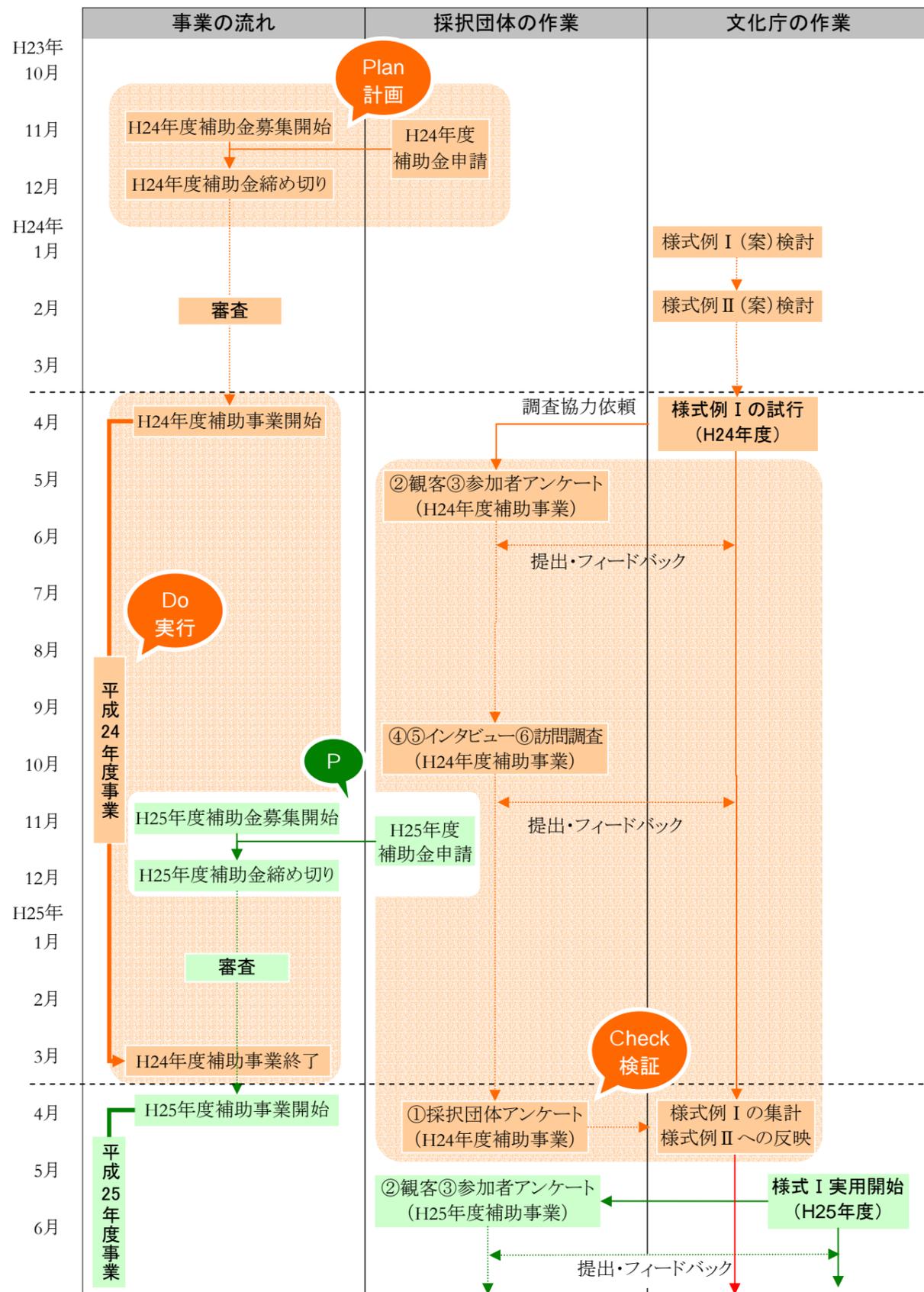
評価指標	output(結果)	outcome(成果)	impact(波及効果)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種事業における鑑賞機会や参加機会の供給量(公演回数、総客席数等)、需要量(入場者数、入場率、参加者数等)</li> <li>観客や参加者等の来館経験、頻度</li> <li>パブリシティの取組、実績</li> <li>事業収支、設置者の財源負担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観客や参加者等の満足度、舞台芸術作品に対する芸術面の評価</li> <li>劇場・音楽堂の事業運営全体に及ぼす効果、影響</li> <li>芸術団体や教育機関等とのネットワーク、地方公共団体の理解、協力、協働</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域における劇場・音楽堂が果たす社会的役割、文化芸術環境の満足度</li> <li>文化芸術の鑑賞・参加・創造による生活の質の向上</li> <li>周辺地域における経済や雇用に対する影響、地域イメージの変化、地域ブランドの向上</li> </ul>

様式例【I】 アンケート調査票の設問項目			
①採択団体 アンケート調査 (事業完了報告書と連動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主企画制作公演の企画本数、自主企画制作公演の公演回数、総客席数、入場者数、入場率</li> <li>教育普及事業、人材育成事業、人材育成交流事業の企画本数、実施回数、参加者数</li> <li>宣伝、告知、批評、論評等の掲載量</li> <li>事業収支、設置者の財源負担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金によって充実できた事項(事業の質の向上、鑑賞機会の増加、地域住民への普及、人材育成等)</li> <li>事業の水準(卓越性)を示す特記事項</li> <li>自主企画制作公演以外の公演回数、総客席数、入場者数、入場率</li> <li>施設の年間利用率、諸室別・利用内容別の利用率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>劇場・音楽堂が果たす地域の社会的役割(例えば教育、福祉、まちづくり等における役割)</li> <li>劇場・音楽堂による地域の文化芸術団体の発足、活動の変化</li> <li>周辺地域における経済や雇用に対する劇場・音楽堂の影響</li> </ul>
②観客 アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>舞台芸術の鑑賞頻度(舞台芸術の参加・創造活動の経験)</li> <li>当該劇場・音楽堂への来館経験、年間来館回数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来場した自主企画制作公演の満足度</li> <li>来場した自主企画制作公演に対する感想(批評性の高いものを抽出)</li> <li>劇場・音楽堂の事業方針への支持</li> <li>今後の劇場・音楽堂への来館の意向</li> <li>今後の舞台芸術の鑑賞機会の意向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>回答者自身の文化芸術の重要性</li> <li>劇場・音楽堂による回答者自身の生活の変化や満足度</li> <li>地域における劇場・音楽堂の重要性</li> <li>劇場・音楽堂による地域の芸術文化環境の変化や満足度</li> </ul>
③参加者 アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>舞台芸術の鑑賞頻度(舞台芸術の参加・創造活動の経験)</li> <li>当該劇場・音楽堂への来館経験、年間来館回数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加した教育普及事業や人材育成事業等の満足度</li> <li>劇場・音楽堂の事業方針への支持</li> <li>今後の劇場・音楽堂への来館の意向</li> <li>今後の舞台芸術の鑑賞機会の意向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>回答者自身の文化芸術の重要性</li> <li>劇場・音楽堂による回答者自身の生活の変化や満足度</li> <li>地域における劇場・音楽堂の重要性</li> <li>劇場・音楽堂による地域の芸術文化環境の変化や満足度</li> </ul>

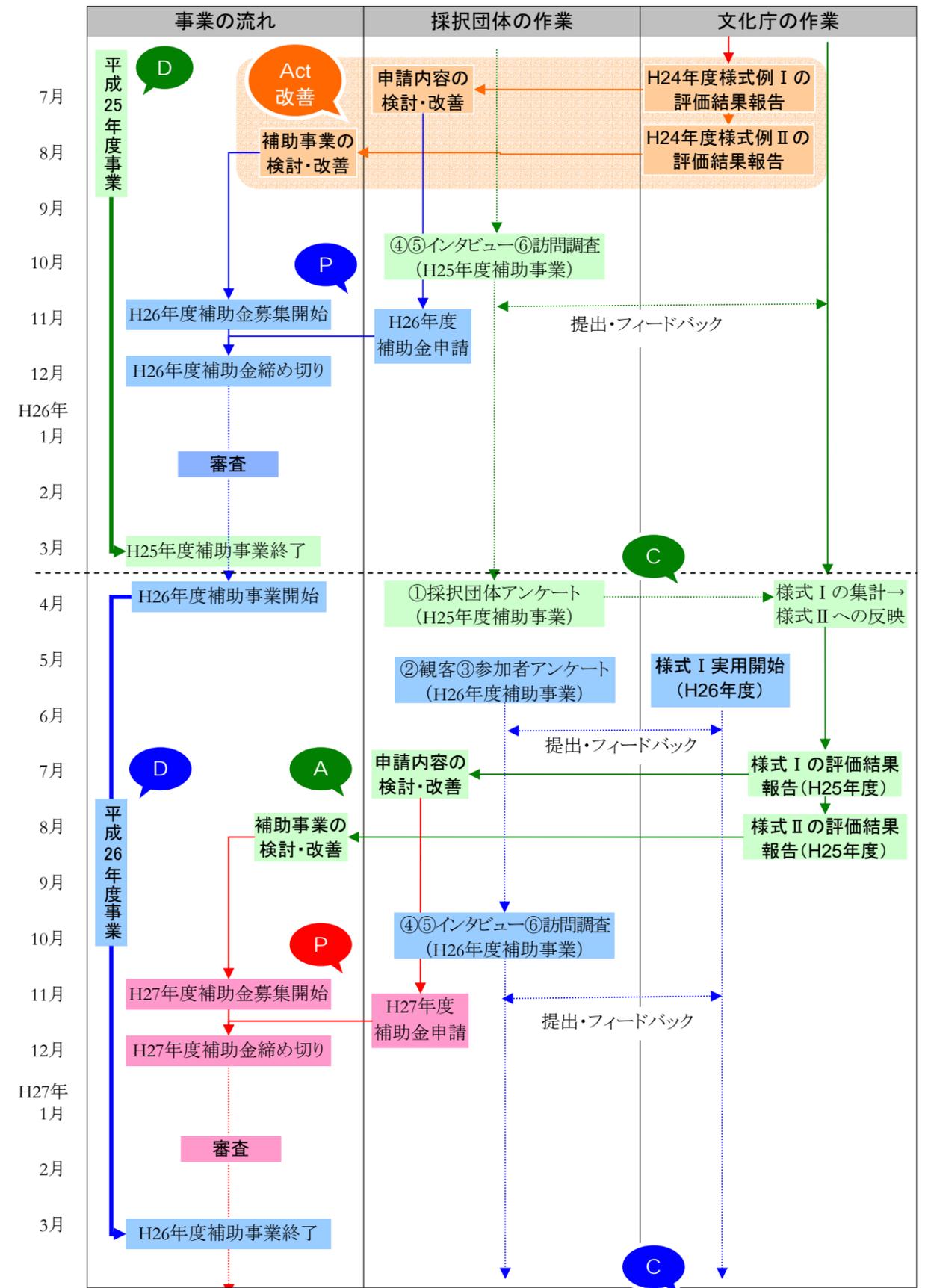
様式例【I】 グループインタビュー、訪問調査の記入フォームの設問項目			
④採択団体 ⑤芸術家・芸術団体 インタビュー調査		<ul style="list-style-type: none"> <li>自主企画制作公演に関する芸術面の水準(卓越性)の評価</li> <li>教育普及事業、人材育成事業、人材育成交流事業の評価</li> <li>劇場・音楽堂による地域の芸術団体の新たな発足、芸術家の活動の変化</li> <li>地域の芸術家、芸術団体の意識の変化、芸術家相互の交流機会</li> <li>国及び周辺地域における劇場・音楽堂の位置付け、役割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>劇場・音楽堂が果たす地域の社会的役割(特に地域の新進芸術家や子どもに対する役割)</li> <li>周辺地域における経済や雇用に対する劇場・音楽堂の影響</li> <li>劇場・音楽堂による地域イメージの変化、地域ブランドの向上</li> </ul>
⑥訪問調査 記入フォーム		<ul style="list-style-type: none"> <li>自主企画制作公演に関する芸術面の水準(卓越性)の評価</li> <li>スタッフの専門的知識や技術の向上(制作、広報、舞台技術、資金調達等)</li> <li>観客や参加者の新規顧客の開拓、リピーターの獲得</li> <li>芸術団体、教育機関、NPO、市民団体等とのネットワークによる効果</li> <li>劇場・音楽堂に対する地方公共団体の理解や協力の姿勢、協働体制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>劇場・音楽堂が果たす地域の社会的役割(特に地域の新進芸術家や子どもに対する役割)</li> <li>劇場・音楽堂が輩出した芸術家・芸術団体、スタッフ等の人材のプロフィール</li> <li>地方公共団体の文化芸術振興に関する条例・ビジョン等における位置付け</li> <li>劇場・音楽堂を支える持続可能な基盤の形成(地方公共団体、協賛・協力者、観客等との安定した関係づくり)</li> </ul>

(3) 評価の流れ

…平成24年度事業に関連する流れ    …平成25年度事業に関連する流れ



…平成26年度事業に関連する流れ    …平成27年度事業に関連する流れ



(4) 様式の運用

様式例Ⅰ	①採択団体アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体に対して、本アンケート調査の回答が、次年度以降の採択を直接左右するものではなく、採択団体の実態や施策全体の成果や効果を把握することが目的であることを、理解していただく。</li> <li>各採択団体が事業終了後に提出する事業完了報告書が求める記入内容との重複を避けて、回答に負荷がかからないようにする。</li> </ul>
	②観客アンケート調査 ③ワークショップ・アウトリーチ参加者アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体に対して観客への配布・回収作業への協力を依頼する。また、文化庁が集計・分析を行い、個別の採択団体や全体との相対比較など、分析結果を採択団体にフィードバックする。</li> <li>アンケート調査の主体や目的(文化庁が、施策の今後のあり方について調査すること)を調査票に明記する。</li> <li>回収率が公演によって大きく変化しないように、採択団体に理解と協力を求める。</li> </ul>
	④採択団体インタビュー調査 ⑤芸術家・芸術団体インタビュー調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>インタビューを行う担当者(文化庁職員もしくは PD・PO 等の専門官)の、芸術性や社会性に対する理解や解釈の能力(リテラシー)に、一定の水準が必要である。</li> <li>抽象的な理念や傾向よりも、具体的な経験やエピソードなどの発言を引き出す。</li> </ul>
	⑥訪問調査記入フォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価できる点、課題と思われる点については、採択団体の設置目的(ミッション)、都市規模、立地特性、開館年数などの要素を把握した上で、施策の目指す目的に沿って記述する。</li> </ul>
	調査結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査の集計の結果は、単純合計や全体の平均値だけでなく、調査指標に応じてクロス集計や経年変化などの分析を加えた上で、多面的に傾向を把握する。</li> <li>インタビュー調査の結果から特徴的なものを抽出する場合は、評価や課題のポイントが見えやすいものを、できるだけ属性に偏りがないように、幅広く抽出する。</li> </ul>
様式例Ⅱ	評価・改善のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査結果の概要について、施策の目的や戦略目標に照らし合わせながら、総体としての評価や課題を浮き彫りにする。</li> <li>評価が明確に浮かび上がるポイントについては、できるだけ定量的なデータとエピソードを合わせて記述する。</li> <li>課題が明確に浮かび上がるポイントについては、課題の要因を掘り下げて考察する。</li> </ul>



## 2. 様式 I の検討

### (1) 依頼状

〇〇〇〇年〇月〇日

〇〇〇〇〇御中

文化庁文化部芸術文化課

「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の評価・改善に関する御協力をお願い

拝啓 時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の実施に当たりましては、平素より御協力を賜り厚くお礼申し上げます。文化庁では、本事業の効果や問題点、課題を把握し、事業の内容や仕組みの改善に取り組むとともに、より効果的な事業や文化政策のあり方の検討につなげていく予定です。

そのため、このたび、文化庁では、①採択団体アンケート調査、②観客アンケート調査、③ワークショップ・アウトリーチ参加者アンケート調査、④採択団体及び芸術家・芸術団体インタビュー調査、⑤訪問調査を実施することといたしました。これらの調査等は、貴団体の事業や成果を評価するためのものではなく、文化庁の「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の成果や課題を把握し、改善していくために実施するものです。

つきましては、御多忙のところ誠に恐縮ですが、趣旨を御理解いただき、何とぞ御協力くださるよう、よろしく願い申し上げます。

敬具

問い合わせ先:

文化庁文化部芸術文化課 〇〇〇〇、〇〇〇〇

電話: XX-XXXX-XXXX

住所: 〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

(2) 「①採択団体アンケート」

I 平成23年度の貴劇場・音楽堂の活動全体についてお答えください。

Q1 平成23年度の貴劇場・音楽堂の組織体制<sup>※1</sup>についてお答えください。

	常勤職員	非常勤職員	計
企画制作の専門的職員 <sup>※2</sup>	人	人	人
舞台技術の専門的職員	人	人	人
その他の職員（総務・経理、施設利用等）	人	人	人
計	人	人	人
ボランティア（年間を通じて事業運営に協力された方々の実質的な人数）			人

※1 貴劇場・音楽堂の運営主体となる事務局の組織体制について、平成23年4月1日時点の職員数でお答えください(理事会、評議会、委託業者等は除く)。

※2 広報、営業、学芸等、企画制作と密接に連携する専門的職員の方も含めてカウントしてください。

Q2 平成23年度の貴劇場・音楽堂の主催事業（優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業を含む）、共催・提携事業、貸館事業における、年間の舞台芸術公演の開催実績をお答えください。

	事業数	公演回数	入場者数 <sup>※3</sup>	平均入場率 <sup>※4</sup>
主催事業による公演	件	回	人	%
共催・提携事業による公演 <sup>※5</sup>	件	回	人	%
貸館事業による公演	件	回	人	%
計	件	回	人	%

※3 「入場者数」は、各事業における舞台芸術公演での入場者数の合計で、式典、講演会、セミナー等は含みません。舞台芸術公演の場合、例えば貸館事業で、特定の団体会員を対象とする公演等、あらかじめ入場者が限定されている公演も入場者数に含めてください。

※4 「平均入場率」は、当該年度における各事業の入場者数÷入場可能座席数(見切れ席、事故席、入場不可のエリアの席などを客席数より差し引く)の合計×100で記載してください。

※5 貴劇場・音楽堂の事業体系に「共催事業」「提携事業」という区分がない場合は、空欄で結構です。

Q3 平成23年度の貴劇場・音楽堂における、年間の施設利用の実績をお答えください。

	ホール① [ ] <sup>※6</sup>	ホール② [ ]	ホール③ [ ]
主催事業利用日数 <sup>※7</sup>	日	日	日
共催・提携事業利用日数	日	日	日
貸館事業利用日数	日	日	日
年間稼働率 <sup>※8</sup>	%	%	%
	諸室① [ ] <sup>※9</sup>	諸室② [ ]	諸室③ [ ]
主催事業利用日数	日	日	日
共催・提携事業利用日数	日	日	日
貸館事業利用日数	日	日	日
年間稼働率	%	%	%
	諸室④ [ ]	諸室⑤ [ ]	諸室⑥ [ ]
主催事業利用日数	日	日	日
共催・提携事業利用日数	日	日	日
貸館事業利用日数	日	日	日
年間稼働率	%	%	%

※6 ホールに名称や愛称がある場合は、[ ]にお書きください(例:[大ホール]、[中劇場]、[マルチホール])。

※7 主催事業、共催・提携事業、貸館事業の「利用日数」で、同じホールや諸室で、同じ日の異なる利用区分に複数の利用件数があった場合でも、利用日数は「1日」とカウントしてください。同じ日の異なる利用区分に主催事業と貸館事業の利用があった場合は、主催事業を優先してカウントしてください。

※8 各事業で、ホールや諸室ごとの年間稼働率を算出してください。稼働率は、実際の利用日数÷利用可能日数(休館日、設備点検は差し引く)×100で算出してください。

※9 ホール以外に利用に供する諸室がある場合は[ ]にお書きください(例:「リハーサル室」、「練習室」、「会議室」)。

(2) 「①採択団体アンケート」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
Q1～Q3 団体の概要把握	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 当該事業を実施している団体の規模を把握。</li></ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 経年変化の把握・分析（採択団体別及び採択団体全体）。当該事業（採択団体）の規模の変化を把握。</li></ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 採択団体の発展をアピール。</li></ul> <p><b>【平成23年度の事業完了報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 記載項目には含まれているが、項目を整理、追加。</li></ul>

(2) 「①採択団体アンケート」

Q4 平成23年度の財務計画と実績についてお答えください。

収入	申請時の予算	平成23年度実績(見込)
事業収入	百万円	百万円
指定管理料	百万円	百万円
補助金（地方公共団体）	百万円	百万円
補助金（文化庁）	百万円	百万円
助成金（文化庁以外の公的団体）	百万円	百万円
助成金・協賛金（民間財団/企業等）	百万円	百万円
その他	百万円	百万円
収入 計	百万円	百万円
支出	申請時の予算	平成23年度実績(見込)
事業費	百万円	百万円
管理費	百万円	百万円
人件費	百万円	百万円
その他	百万円	百万円
支出 計	百万円	百万円

II 平成23年度の文化庁の補助事業によって実施した活動の実績と補助の効果についてお答えください。

Q5 「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の補助対象事業（以下、「補助対象事業」）の活動実績についてお答えください。

① 自主企画制作公演

ジャンル※1	公演名	公演回数	入場者数※2	入場率※2
		回	人	%
		回	人	%
		回	人	%
		回	人	%
		回	人	%
上記5公演以外の自主企画制作公演の実績		回	人	%
自主企画制作公演 計		回	人	%

② 教育普及事業・人材育成事業

ジャンル	企画名	実施日数※3	実質参加人数※4	延べ参加人数※5
		日	人	人
		日	人	人
		日	人	人
		日	人	人
		日	人	人
上記5事業以外の教育普及事業・人材育成事業の実績		日	人	人
教育普及事業・人材育成事業 計		日	人	人

※1 「ジャンル」の欄には「オペラ」、「オーケストラ」、「合唱」、「室内楽・独奏・独唱」、「バレエ」、「舞踊」、「演劇」、「ミュージカル」、「伝統芸能」、「邦楽」、「大衆芸能」、「その他」のうち、いずれか該当するジャンルを記載してください。

※2 自主企画制作公演の「入場者数」の欄には、有料・無料を問わず公演を鑑賞した観客の人数を記載してください。「入場率」は、自主企画制作公演の入場者数÷入場可能座席数（見切れ席、事故席、入場不可のエリアの席などを客席数より差し引く）×100で算出してください。

※3 教育普及事業・人材育成事業の「実施日数」は、1日に複数回の事業を行う場合も「1日」としてカウントしてください。

※4 「実質参加人数」は、1つの事業を継続して実施した場合、例えば5回の講座に1回参加した人も「1人」、5回参加した人も「1人」としてカウントしてください。

※5 「延べ参加人数」は、1つの事業を継続して実施した場合、例えば5回の講座に1回参加した人は「1人」、5回参加した人は「5人」としてカウントしてください。

(2) 「①採択団体アンケート」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
<p>Q4 団体の概要把握</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当該事業を実施している団体の規模を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経年変化の把握・分析（採択団体別及び採択団体全体）。当該事業（採択団体）の規模の変化を把握。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の発展をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業完了報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>記載項目には含まれているが、項目を整理、追加。</li> </ul>
<p>Q5 output(結果)</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当該事業における実績、具体的な活動内容を把握。</li> <li>公演回数、入場率、実施日数、参加人数等の多寡によって評価は行わない。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>回数、入場率、参加人数等については経年変化の把握・分析（採択団体別、地域別及び採択団体全体）。</li> <li>2～3年の実績に基づいて、必要な場合、分野、対象事業の見直し、地域や採択団体間の実績比較等に活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な分野の優れた舞台芸術公演が劇場・音楽堂を拠点として創造されたこと、教育普及事業や人材育成事業によって地域に根ざした活動が生まれたことを数字（例：総延べ事業数、公演・実施回数、入場者・参加者数等）でアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業完了報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>記載項目には含まれているが、項目を簡略化。</li> </ul>

(2) 「①採択団体アンケート」

**Q6 補助対象事業の自主企画制作公演で、他の劇場・音楽堂との公演の共同開催や巡回公演等<sup>※1</sup>の実績があれば、お答えください。**

公演名	会場名	公演回数	入場者数	入場率
		回	人	%
		回	人	%
		回	人	%
		回	人	%
		回	人	%
上記5公演以外の共同開催や巡回講演等の実績		回	人	%
共同開催・巡回講演 計				

※1 ここで実績として取り上げる共同開催や巡回公演等は、貴劇場・音楽堂が主催するもの以外にも、他の主催者による公演も含めてください。また、他の主催者による公演で、入場者数や入場率の不明な場合は公演回数のみお答えください。

**Q7 補助対象事業に関わる批評・論評の掲載<sup>※2</sup>やメディアへの紹介等の実績（宣伝・広告は除く）についてお答えください。**

公演名・企画名	新聞	雑誌	TV・ラジオ	計
	件	件	件	件
	件	件	件	件
	件	件	件	件
	件	件	件	件
	件	件	件	件
上記以外の補助対象事業の掲載・紹介実績	件	件	件	件
掲載・紹介件数 計	件	件	件	件

※2 新聞・雑誌等の主要な掲載記事(特に批評や論評)はコピーを添付してください。

(重点支援劇場・音楽堂向け設問)

**Q8 補助対象事業の公演作品や出演者・スタッフに対する受賞実績や、今後の貴劇場・音楽堂での再演や国内外の劇場・音楽堂での巡回公演の計画等があれば、箇条書きで簡潔に御記入ください。**

(地域の中核劇場・音楽堂向け設問)

**Q8 補助対象事業として、重点支援劇場・音楽堂の企画制作現場における実務研修に派遣した実績や、重点支援劇場・音楽堂からの指導職員を招へいた実績があれば、お答えください。**

	人数 <sup>※3</sup>	日数	研修分野 <sup>※4</sup>
重点支援劇場・音楽堂での実務研修への派遣	人	日	
貴劇場・音楽堂への指導職員の招へい	人	日	
上記以外の企画制作現場における研修実績	人	日	

※3 「人数」欄で複数名を派遣や招へいた場合は、「日数」欄に個別の派遣や招へいの日数を足し合わせた延べ日数を記載してください。

※4 「研修分野」欄は「企画制作」、「舞台技術」、「その他」のうち当てはまるものをお答えください。

(2) 「①採択団体アンケート」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
<p>Q6 output(結果)</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当該事業における実績、具体的な活動内容を把握。</li> <li>公演回数、入場率、実施日数、参加人数等の多寡によって評価は行わない。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>回数、入場率、参加人数等については経年変化の把握・分析（採択団体別、地域別及び採択団体全体）。</li> <li>2～3年の実績に基づいて、必要な場合、分野、対象事業の見直し、地域や採択団体間の実績比較等に活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な分野の優れた舞台芸術公演が劇場・音楽堂を拠点として創造されたこと、教育普及事業や人材育成事業によって地域に根ざした活動が生まれたことを数字（例：総延べ事業数、公演・実施回数、入場者・参加者数等）でアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業完了報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>記載項目には含まれているが、項目を簡略化。</li> </ul>
<p>Q7～Q8 output(結果) outcome(成果)</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パブリシティの件数、内容を把握。件数の多寡によって評価は行わない。</li> <li>受賞や今後の再演・巡回公演等によって、補助による効果を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主要な記事の内容から outcome（成果）に関するエピソードを収集。</li> <li>受賞や今後の再演・巡回公演等から outcome（成果）を把握。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>outcome（成果）のエピソードに基づいて事業の成果をアピール。また、受賞件数や再演・巡回公演の予定をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業完了報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし（出演団体の過去の受賞歴についての項目あり）。</li> </ul>

(2) 「①採択団体アンケート」

Q9 文化庁の補助によって「補助対象事業」にどのような成果があったかお答えください（〇はいくつでも可）

- |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 作品の内容や質が向上した       | 2. 意欲的・実験的な作品に取り組めた   |
| 3. 出演者やスタッフが充実できた     | 4. チケット価格を低廉化できた      |
| 5. パブリシティを充実できた       | 6. 新たな観客層を開拓した        |
| 7. 舞台芸術への参加機会を提供できた   | 8. 企画制作スタッフを育てることができた |
| 9. 舞台技術スタッフを育てることができた | 10. その他               |

補助によって「補助対象事業」にどのような成果があったか、簡潔に御記入ください。

上記1～10の選択肢のうち、特に成果があったと思われる項目について、成果の大きいものから順番に3つまで番号を御記入ください。

①		②		③	
---	--	---	--	---	--

Q10 文化庁の補助によって「地域社会との関わり」にどのような効果があったかお答えください（〇はいくつでも可）

1. 貴劇場・音楽堂と地域の教育機関、福祉施設、公共施設との間にネットワークを形成できた。
2. 貴劇場・音楽堂と地域の芸術団体や芸術家との間にネットワークやコミュニティを形成できた。
3. 貴劇場・音楽堂を介して、地域住民と地域の芸術団体や芸術家との双方向の関係が形成できた。
4. 子どもや高齢者、障害者などに対して劇場・音楽堂の事業に参加を促すような取組ができた。
5. 地域住民からの寄付やボランティア、企業による協賛金等の支援や協力を得ることができた。
6. その他（以下の自由記述欄に具体的に充実できた内容を御記入ください）

補助によって地域社会との関わりにどのような効果があったか、簡潔に御記入ください。

上記1～6の選択肢のうち、特に効果があったと思われる項目について、効果の大きいものから順番に3つまで番号を御記入ください。

①		②		③	
---	--	---	--	---	--

Q11 「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」では、文化庁が設定した以下の5つの戦略目標があります。

1. 自主企画制作による舞台芸術公演の質を向上させること
2. 優れた舞台芸術の鑑賞機会を地域住民に提供すること
3. 居住地域に関わらず文化芸術を鑑賞する機会を提供すること
4. 居住地域に関わらず地域住民に参加・創造する機会を提供すること
5. アートマネジメント人材や舞台スタッフを育成すること

① 平成23年度の貴劇場・音楽堂の事業計画では、上記の5つの項目について、どの程度重点を置いていましたか。より重点を置いた項目から順番に1～5の番号を記入してください（取り組んでいない項目は記入不要です）。

①		②		③		④		⑤	
---	--	---	--	---	--	---	--	---	--

② 貴劇場・音楽堂の補助対象事業では、上記の5つの項目について、文化庁の補助金はどの程度効果があったと思われますか。より効果があったと思われる項目から順番に1～5の番号を記入してください（申請していない項目は記入不要です）。

①		②		③		④		⑤	
---	--	---	--	---	--	---	--	---	--

③ 上記の5つの項目に関して、特に効果があったと思われることがあれば、具体的な内容を簡潔に御記入ください。

--

(2) 「①採択団体アンケート」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
Q9～Q10 outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>補助による具体的な成果を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2～3年の実績に基づいて、必要な場合、対象事業等の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>outcome(成果)の内容をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業完了報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>記載項目には含まれているが、自由記述形式。</li> </ul>
Q11 outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体からみた補助事業の目的に対する重点の置き方と、目的達成度を把握。自由記述欄から outcome(成果)に関するエピソードを収集。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3～5年の実績に基づいて、事業の目的や内容の見直しに活用。</li> <li>重点を置く取組や効果の経年変化を比較することで、制度や仕組み、応募要領の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>補助事業の目的達成度、エピソードの内容をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業完了報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>記載項目には含まれているが、自由記述形式。</li> </ul>

(2) 「①採択団体アンケート」

- ④ 前頁 Q11の5つの項目に関して、「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」を継続することで、5年後、10年後にどのような効果が期待できると思われますか。より期待される項目から順番に1～5の番号を記入してください（今後も取り組む予定のない項目は記入不要です）。

①		②		③		④		⑤	
---	--	---	--	---	--	---	--	---	--

**Q12 「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の仕組みについて、改善や変更を希望するものはありますか。（〇はいくつでも可）**

1. 募集や審査、内定通知の時期や期間（具体的な内容は平成24年度の応募要領（共通）p.4 を御覧ください）
2. 補助の対象となる者として満たすべき劇場・音楽堂の要件（平成24年度の応募要領（重点）p.1）
3. 対象事業（同 p.2）
4. 補助金の額（同 p.3）
5. 補助期間（同 p.6）
6. 審査の視点（同 p.7）
7. 事業実施後の評価（同 p.8）
8. 補助対象経費、補助対象外経費（同 p.10～12）
9. その他（以下の自由記述欄に具体的な内容を御記入ください）

Q12で選択した項目について、具体的な改善や変更を希望する内容について、簡潔に御記入ください。

**Ⅲ 平成23年度の貴劇場・音楽堂の活動全体の概要と補助金の効果をお答えください。**

**Q13 平成23年度の貴劇場・音楽堂の主催事業で、「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」以外に実施している主な活動について、箇条書きで簡潔に御記入ください。**

**Q14 文化庁の補助金は貴劇場・音楽堂の事業や活動全体にとってどのような効果があったと思われますか（〇はいくつでも可）。**

1. 地域住民の舞台芸術へのニーズを把握することや、新たに開拓することができた。
2. 地域の芸術団体・芸術家や、他の劇場・音楽堂とのネットワークを構築することができた。
3. 貴劇場・音楽堂の取組に対する地域住民の理解を促し、地元企業や各種団体の信頼が高まった。
4. 貴劇場・音楽堂の取組が行政の中長期的な施策に位置付けられた。またはそうした機運が高まった。
5. 複数年継続の補助金を受けられたことで事業が安定し、その結果、運営体制を強化することができた。
6. 複数年継続の補助金を受けられたことで事業が安定し、その結果、財政基盤を安定化させることができた。
7. 複数年継続の補助金を受けられたことで事業の方向性を転換でき、将来の展望を描けるようになった。
8. その他

文化庁の補助金による活動全体への具体的な効果の内容を簡潔に御記入ください。

上記1～8の選択肢のうち、特に効果があったと思われる項目について、効果の大きいものから順番に3つまで番号を御記入ください。

①		②		③	
---	--	---	--	---	--

(2) 「①採択団体アンケート」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
<p>Q12 制度や仕組みの見直し</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>制度や仕組みの見直しに関する要望を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>制度や仕組み、応募要領の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>制度や仕組みの改善をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業完了報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし。</li> </ul>
<p>Q13 団体の概要把握 outcome(成果)</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当該事業を実施している団体の特性や事業・活動の内容を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業の目的や内容の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の特性や活動の広がりをアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業完了報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交付申請書の「施設の概要」に該当項目あり。</li> </ul>
<p>Q14 outcome(成果)</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>優れた劇場・音楽堂からの創造発信にとって補助事業が、どのような outcome (成果) をどの程度有するかを把握</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3～5年の実績に基づいて、事業の目的や内容の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>優れた劇場・音楽堂からの創造発信における補助事業の重要性をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業完了報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし</li> </ul>

(2) 「①採択団体アンケート」

**Q15 総合的に判断して、貴劇場・音楽堂の事業や活動全体にとって、文化庁の補助金はどの程度の成果があったと思われますか（○はひとつを選択）。**

1. 大いにあった                      2. ある程度あった                      3. あまりなかった                      4. ほとんどなかった

**Q16 中長期的に見て、貴劇場・音楽堂には、我が国の舞台芸術の創造に対してどのような波及効果をもたらすことが可能だと思われますか。あてはまるものを選択してください。（○はいくつでも可）**

1. 我が国の舞台芸術創造の水準（例えば表現の卓越性、秀逸性、先駆性、革新性等）を牽引する。  
2. 国内外の優れた舞台芸術作品を紹介し、国際的な文化交流や文化芸術の発展に貢献する。  
3. 我が国の劇場・音楽堂を介した人材の交流を促進し、ネットワークを形成する。  
4. 我が国の舞台芸術を牽引する優れた人材を輩出し、キャリアパスを形成する。  
5. その他（具体的に\_\_\_\_\_）

上記1～5の選択肢のうち、最もあてはまるものを一つだけ番号で御記入ください。

**Q17 中長期的に見て、貴劇場・音楽堂には、地域社会に対してどのような波及効果をもたらすことが可能だと思われますか。あてはまるものを選択してください。（○はいくつでも可）**

1. 子どもの教育や青少年の育成、幅広い世代の生涯学習を活性化させる。  
2. 地域住民の地域に対する誇りや愛着心（シビックプライド）を培う。  
3. 地域に対する魅力的なイメージ（地域ブランド）を地域外に発信する。  
4. 社会的な援護を必要とする人々を排除せず、支え合う関係を形成する。  
5. 中心市街地や商店街の活性化、観光振興や地場産業の振興に寄与する。  
6. 文化芸術の創造性を活かした起業を促し、地域の雇用や経済に寄与する。  
7. その他（具体的に\_\_\_\_\_）

上記1～7の選択肢のうち、最もあてはまるものを一つだけ番号で御記入ください。

**Q18 貴劇場・音楽堂の事業運営面で、今後改善したいと思われることはありますか。（○はいくつでも可）**

1. 当該劇場・音楽堂ならではの独自性のある自主企画制作公演を追求したい。  
2. 地域住民が公演事業に求めるニーズに答えきれていない状況を改善したい。  
3. 作品創造や教育普及、人材育成を行うためのスペースを今より充実させたい。  
4. 運営体制を強化したい。  
5. スタッフの能力や経験を高めたい。  
6. 財政基盤を安定化させたい。  
7. その他（具体的に\_\_\_\_\_）

上記1～7の選択肢のうち、最もあてはまるものを一つだけ番号で御記入ください。

(2) 「①採択団体アンケート」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
Q15 outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>優れた劇場・音楽堂からの創造発信にとって、補助事業がどのような outcome (成果) をどの程度有するかを把握</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3～5年の実績に基づいて、事業の目的や内容の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>優れた劇場・音楽堂からの創造発信における補助事業の重要性をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業完了報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし</li> </ul>
Q16・Q17 impact(波及効果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>優れた劇場・音楽堂からの創造発信にとって補助事業が及ぼす impact (波及効果) の可能性を把握</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3～5年の実績に基づいて、事業の目的や内容の見直しに活用。</li> <li>次期の「文化芸術の振興に関する基本的な方針」の策定に活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>補助事業の長期的な成果、波及効果をアピール。</li> <li>文化芸術の振興に関する基本的な方針の次なる展望をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業完了報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし</li> </ul>
Q18 制度や仕組みの見直し	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の抱える問題点や課題、将来展望を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業の目的や内容の見直し、新たな支援制度の検討、種の発掘に活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>制度や仕組みの改善をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業完了報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし。</li> </ul>

### (3) 「②観客アンケート調査」

このアンケートは、文化庁による「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の助成を受けた公演を御覧になったお客様に、今後の文化政策や事業のあり方の参考とさせていただくために、御意見などをお伺いするものです。何とぞ御協力のほど、よろしくお願いいたします。

I 最初に、本日の公演に御来場いただいた経緯や動機をお尋ねします。

Q1 本日の公演の情報はどのようにして入手されましたか。(〇はいくつでも可)

1. 雑誌・タウン情報誌 (誌名: \_\_\_\_\_) 2. 新聞 (紙名: \_\_\_\_\_)
3. TV・ラジオ 4. 〈施設名〉が発行する機関紙
5. チラシ・ポスター 6. 自治体広報紙 (例: 県民だより、市政だより)
7. ダイレクトメール 8. 他の公演会場で配布されたチラシ
9. インターネット 10. 友人・知人から聞いた
11. 出演者、公演関係者から聞いた 12. プレイガイドの店頭
13. その他 (具体的に \_\_\_\_\_)

Q2 本日の公演に来られた主な理由をお聞かせください。(〇はいくつでも可)

1. 出演者、出演団体が好きだから 2. 出演者、出演団体の名前をよく聞くから
3. 公演内容が面白そうだったから 4. 劇場・ホールに来てみたかったから
5. 劇場・ホールが近くだったから 6. 出演者や関係者が知り合いだから
7. 人に誘われたから 8. 人に勧められたから
9. その他 (具体的に \_\_\_\_\_)

II 次に、本日の公演と、〈施設名〉に対するあなたのお考えをお伺いします。

Q3 本日の公演についてあなたの御意見をお聞かせください。(〇はひとつを選択)

1. たいへん満足している 2. まあ満足している 3. あまり満足していない 4. まったく満足していない

Q4 あなた自身は、〈施設名〉があることで、どのような変化がありましたか。あてはまるものを選択してください。(〇はいくつでも可)

1. 音楽・演劇・舞踊などに対する興味、関心、理解が高まった。
2. 音楽・演劇・舞踊などに興味を持つ仲間や友だちが増えた。
3. 自分自身も音楽・演劇・舞踊などをやってみたいと思うようになった。
4. 劇場やホールに足を運ぶことで、日常生活が豊かになった。
5. 劇場やホールに足を運ぶことで、考え方や価値観が広がった。
6. 以前よりも文化や芸術に関する消費が増えた (CD・DVD や楽器を購入した、習い事を始めたなど)。
7. 地域に対する誇りや愛着心が高まった (地域外の方は、外から見た地域の魅力を感じるようになった)。
8. その他 (具体的に \_\_\_\_\_)
9. 特に変化したことはなかった。

Q5 地域における〈施設名〉の重要性について、あなたの御意見をお聞かせください。(〇はひとつを選択)

1. たいへん重要だと思う 2. まあ重要だと思う 3. あまり重要ではない 4. まったく重要ではない

III 最後に、あなた自身のことについてお尋ねします。

Q6 差し支えなければ、御性別をお答えください。(〇はひとつを選択) 1. 男性 2. 女性

Q7 差し支えなければ、御年齢をお答えください。 御年齢 \_\_\_\_\_ 歳

Q8 お住まいのエリアをお答えください。(〇はひとつを選択)

1. ●●市内 2. ●●市周辺 (●●市、●●市、●●市、●●市、●●市、●●市、●●市、●●町等)
3. 上記以外の●●県内 (具体的に \_\_\_\_\_)
4. ●●県以外の●●地方 (具体的に \_\_\_\_\_)
5. その他 (具体的に \_\_\_\_\_)

(3) 「②観客アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
Q1～Q2 activity(運営)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当該事業における公演情報の入手経路、来場の動機を把握。</li> <li>評価が目的ではなく、パブリシティやニーズの検証が目的。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の PDCA に活用し、情報入手経路や来場動機を観客属性（性別・年齢・在住地）とのクロス集計により把握・分析。2～3年の実績を集計した経年変化の分析により、採択団体の事業や運営の改善につなげる。</li> <li>本事業全体を俯瞰して、地域的な特性やジャンル別の傾向などを把握する。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>—</li> </ul>
Q3 outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当該事業における公演事業の満足度を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の PDCA に活用し、運営や事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本事業に対する満足度をアピール。</li> </ul>
Q4～Q5 impact(波及効果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観客自身を感じる劇場・音楽堂の存在意義や満足度、重要性を把握。</li> <li>事業の総合的な成果を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の PDCA や本事業の改善につなげる。</li> <li>「文化に関する世論調査」の結果と比較することで、本事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本事業による劇場・音楽堂に対する満足度の向上や存在意義をアピール。</li> </ul>
Q6～Q8 output(結果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観客の属性を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>—</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>—</li> </ul>

(3) 「②観客アンケート調査」

※その他、観客対象アンケート調査で考えられる設問項目

(I) 本日の公演についての御意見や御感想をお伺いします。

(Q1) 本日の公演や〈施設名〉の印象についてあなたの御意見をお聞かせください。(○は各項目ひとつずつを選択)

	1 たいへん満足	2 まあ満足	3 少し不満足	4 まったく不満足
(記入見本)	1	2	3	4
公演のチケット料金	1	2	3	4
公演情報の入手のしやすさ	1	2	3	4
チケットの予約・購入のしやすさ	1	2	3	4
劇場・ホールの電話予約やチケットカウンターでの対応	1	2	3	4
劇場・ホールの係員の対応	1	2	3	4
劇場・ホールの入り口や案内表示のわかりやすさ	1	2	3	4
劇場・ホールのデザイン、雰囲気	1	2	3	4

(II) あなたの舞台芸術の鑑賞や〈施設名〉の来館の経験・頻度についてお尋ねします。

(Q2) 日頃、音楽・演劇・舞踊などの公演にどのくらいの回数でお出かけになっていますか。(○はひとつを選択)

1. 数年に1回程度    2. 年に数回程度    3. 月に1回程度    4. 月に数回程度    5. 週に1回以上

(Q3) では、今までに〈施設名〉で何回ぐらい公演を御覧になりましたか。(○はひとつを選択)

1. 今日が初めて    2. 1～2回    3. 3～5回    4. 6～10回    5. 11回以上

(Q4) また音楽・演劇・舞踊などの公演を鑑賞したいと思いますか。(○はひとつを選択)

1. 思う    2. 思わない    3. わからない

(Q5) また〈施設名〉に來たいと思いますか。(○はひとつを選択)

1. 思う    2. 思わない    3. わからない

(III) 〈施設名〉の運営に関する御意見をお尋ねします。

(Q6) 〈施設名〉は次のような方針で運営しています。あなたの御意見をお聞かせください。

(○は各項目ひとつずつを選択)

	1 ぜひやってほしい	2 まあやってほしい	3 あまりやる必要はない	4 まったくやる必要がない
	1	2	3	4
	1	2	3	4
※施設の事業方針を観客に対して分かりやすい言葉で表現	1	2	3	4
	1	2	3	4
	1	2	3	4

(Q7) 総合的にみて〈施設名〉に対するあなたの御意見をお聞かせください。(○はひとつを選択)

1. たいへん満足している    2. まあ満足している    3. あまり満足していない    4. まったく満足していない

(IV) あなたの文化・芸術に対するお考えについてお尋ねします。

(Q8) あなたは、日常生活の中で、優れた文化芸術体験をしたり、自ら文化芸術活動を行ったりすることについて、どのように思いますか。(○はひとつを選択)

1. 非常に大切だ    2. ある程度大切だ    3. あまり大切ではない    4. 全く大切ではない    5. わからない

(3) 「②観客アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
(Q1) output(成果) outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 劇場・音楽堂スタッフの応対やサービスに対する満足度を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 採択団体の PDCA に活用し、運営や事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● —</li> </ul>
(Q2～Q5) output(結果) outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● これまでの舞台芸術の鑑賞頻度、来館頻度を把握。</li> <li>● 今後の舞台芸術の鑑賞、来館の意向を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 採択団体の PDCA に活用し、運営や事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本事業による舞台芸術の鑑賞ニーズの向上をアピール。</li> </ul>
(Q6～Q8) outcome(成果) Impact(波及効果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 劇場・音楽堂の事業方針に対する支持の度合いを把握。</li> <li>● 文化芸術体験の重要性に対する支持の度合いを把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 採択団体の PDCA に活用し、運営や事業の改善につなげる。</li> <li>● 国と地方公共団体の役割の検証、本事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● —</li> </ul>

(4) 「③ワークショップ・アウトリーチ参加者アンケート調査」

このアンケートは、文化庁による「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の助成を受けたワークショップやアウトリーチ等に参加された方々に、今後の文化政策や事業のあり方の参考とさせていただくために、御意見などをお伺いするものです。何とぞ御協力のほど、よろしくお願いいたします。

I 最初に、本日の企画に御参加いただいた経緯や動機をお尋ねします。

Q1 本日の企画に参加された主な理由をお聞かせください。(〇はいくつでも可)

1. 企画内容が面白そうだったから
2. ワorkshopや講座などの講師が好きだから
3. 何か自分で文化活動を始めたいと思ったから
4. 新しい出会いや交流の機会だと思ったから
5. 家族や友人、知人に誘われたから
6. 〈施設名〉のスタッフに誘われたから
7. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

II 次に、本日の企画と、〈施設名〉に対するあなたのお考えをお伺いします。

Q2 本日の企画についてあなたの御意見をお聞かせください。(〇はひとつを選択)

1. たいへん満足している
2. まあ満足している
3. あまり満足していない
4. まったく満足していない

Q3 本日の企画に参加して、どのようにお感じになりましたか。以下の項目からあてはまるもの、近いものをお答えください。(〇はいくつでも可)

1. 〈施設名〉が以前よりも身近な存在として感じるようになった
2. 本日の企画内容について興味が高まり、もっと鑑賞したい、やってみたいと思った
3. 将来、文化芸術に関わる仕事をしてみたいと思った
4. 普段は出会えないような人に出会えて、刺激を受けたり人間関係の広がりを実感した
5. 文化芸術は、教育や福祉、まちづくりなどとも関わりが深いことがわかった
6. 文化芸術と深く触れ合ったことで、人生に対する考え方、物事の見方、価値観が変わった
7. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

Q4 あなた自身は、〈施設名〉があることで、どのような変化がありましたか。あてはまるものを選択してください。(〇はいくつでも可)

1. 音楽・演劇・舞踊などに対する興味、関心、理解が高まった。
2. 音楽・演劇・舞踊などに興味を持つ仲間や友だちが増えた。
3. 自分自身も音楽・演劇・舞踊などをやってみたいと思うようになった。
4. 劇場やホールに足を運ぶことで、日常生活が豊かになった。
5. 劇場やホールに足を運ぶことで、考え方や価値観が広がった。
6. 以前よりも文化や芸術に関する消費が増えた (CD・DVD や楽器を購入した、習い事を始めたなど)。
7. 地域に対する誇りや愛着心が高まった (地域外の方は、外から見た地域の魅力を感じるようになった)。
8. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
9. 特に変化したことはなかった。

Q5 地域における〈施設名〉の重要性について、あなたの御意見をお聞かせください。(〇はひとつを選択)

1. たいへん重要だと思う
2. まあ重要だと思う
3. あまり重要ではない
4. まったく重要ではない

III 最後に、あなた自身のことについてお尋ねします。

Q6 差し支えなければ、御性別をお答えください。(〇はひとつを選択) 1. 男性 2. 女性

Q7 差し支えなければ、御年齢をお答えください。 御年齢 \_\_\_\_\_ 歳

Q8 お住まいのエリアをお答えください。(〇はひとつを選択)

1. ●●市内
2. ●●市周辺 (●●市、●●市、●●市、●●市、●●市、●●市、●●市、●●町等)
3. 上記以外の●●県内(具体的に \_\_\_\_\_)
4. ●●県以外の●●地方(具体的に \_\_\_\_\_)
5. その他(具体的に \_\_\_\_\_)

(4) 「③ワークショップ・アウトリーチ参加者アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
Q1 activity(運営)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 当該事業における参加の動機を把握。</li> <li>• 評価が目的ではなく、パブリシティやニーズの検証が目的。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 採択団体の PDCA に活用し、来場動機を観客属性（性別・年齢・在住地）とのクロス集計により把握・分析。2～3年の実績を集計した経年変化の分析により、採択団体の事業や運営の改善につなげる。</li> <li>• 本事業全体を俯瞰して、地域的な特性やジャンル別の傾向やなどを把握する。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• —</li> </ul>
Q2～Q3 outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 当該事業における教育普及事業、人材育成事業に対する満足度を把握。</li> <li>• 参加者が感じた事業の成果を把握</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 採択団体の PDCA に活用し、運営や事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 本事業に対する満足度や参加者の感想をアピール。</li> </ul>
Q4～Q5 impact(波及効果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 観客自身が感じる劇場・音楽堂の存在意義や満足度、重要性を把握。</li> <li>• 事業の総合的な成果を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 採択団体の PDCA や本事業の改善につなげる。</li> <li>• 「文化に関する世論調査」の結果と比較することで、本事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 本事業による劇場・音楽堂に対する満足度の向上や存在意義をアピール。</li> </ul>
Q6～Q8 output(結果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 観客の属性を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• —</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• —</li> </ul>

(4) 「③ワークショップ・アウトリーチ参加者アンケート調査」

**※その他、ワークショップ・アウトリーチ参加者アンケート調査で考えられる設問項目**

(I) 本日の企画についての御意見や御感想をお伺いします。

(Q1) 本日の企画についてあなたの御意見をお聞かせください。(○は各項目ひとつずつを選択)

	1 たいへん満足	2 まあ満足	3 少し不満足	4 まったく不満足
(記入見本)	1	②	3	4
アーティストや講師の人選	1	2	3	4
ワークショップや講座の内容	1	2	3	4
ワークショップや講座の会場	1	2	3	4
アーティストや講師との交流	1	2	3	4
参加者同士の交流	1	2	3	4
スタッフの応対	1	2	3	4
告知や募集の方法	1	2	3	4

(II) あなたの舞台芸術の鑑賞や〈施設名〉の来館の経験・回数についてお尋ねします。

(Q2) 日頃、音楽・演劇・舞踊などの公演にどのくらいの回数でお出かけになっていますか。(○はひとつを選択)

1. 数年に1回程度    2. 年に数回程度    3. 月に1回程度    4. 月に数回程度    5. 週に1回以上

(Q3) 今までに〈施設名〉で何回くらい公演を御覧になりましたか。(○はひとつを選択)

1. まだ鑑賞したことがない    2. 1～2回    3. 3～5回    4. 6～10回    5. 11回以上

(Q4) また音楽・演劇・舞踊などのワークショップや講座に参加したいと思いますか。(○はひとつを選択)

1. 思う    2. 思わない    3. わからない

(Q5) また〈施設名〉に来たいと思いますか。(○はひとつを選択)

1. 思う    2. 思わない    3. わからない

(III) 〈施設名〉の運営に関する御意見をお尋ねします。

(Q6) 当劇場・ホールは次のような方針で運営しています。あなたの御意見をお聞かせください。

(○は各項目ひとつずつを選択)

	1 ぜひやってほしい	2 まあやってほしい	3 あまりやる必要はない	4 まったくやる必要がない
	1	2	3	4
	1	2	3	4
※施設の事業方針を観客に対して分かりやすい言葉で表現	1	2	3	4
	1	2	3	4
	1	2	3	4

(Q7) 総合的にみて〈施設名〉に対するあなたの御意見をお聞かせください。(○はひとつを選択)

1. たいへん満足している    2. まあ満足している    3. あまり満足していない    4. まったく満足していない

(IV) あなたの文化・芸術に対するお考えについてお尋ねします。

(Q8) あなたは、日常生活の中で、優れた文化芸術体験をしたり、自ら文化芸術活動を行ったりすることについて、どのように思いますか。(○はひとつを選択)

1. 非常に大切だ    2. ある程度大切だ    3. あまり大切ではない    4. 全く大切ではない    5. わからない

(4) 「③ワークショップ・アウトリーチ参加者アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
(Q1) outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 当該事業における教育普及事業、人材育成事業に対する満足度を把握。</li> <li>● 参加者が感じた事業の成果を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 採択団体の PDCA に活用し、運営や事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本事業に対する満足度や参加者の感想をアピール。</li> </ul>
(Q2～Q5) output(結果) outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● これまでの舞台芸術の鑑賞頻度、来館頻度を把握。</li> <li>● 今後の舞台芸術活動への参加、来館の意向を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 採択団体の PDCA に活用し、運営や事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本事業による舞台芸術の活動意欲の向上をアピール。</li> </ul>
(Q6～Q8) outcome(成果) impact(波及効果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 劇場・音楽堂の事業方針に対する支持の度合いを把握。</li> <li>● 文化芸術体験の重要性に対する支持の度合いを把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 採択団体の PDCA に活用し、運営や事業の改善につなげる。</li> <li>● 国と地方公共団体の役割の検証、本事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● —</li> </ul>

(5) 「④採択団体インタビュー調査」

【採択団体対象】インタビュー調査項目（文化庁担当者、専門家が訪問してインタビューを行い記入）

I 文化庁の補助によってどのような成果（outcome）があったか具体的なエピソードを交えてお答え下さい。

- 1 補助対象となった公演事業では、どのような成果や効果がありましたか。芸術面での成果を中心に、事業の実施や運営面の成果を含めてお答えください。
- 2 補助対象となった教育普及事業・人材育成事業では、どのような成果や効果がありましたか。参加者の感想・意見をもとに、参加者、アーティスト、スタッフの変化や成長についてお答えください。
- 3 補助対象となった劇場・音楽堂スタッフ人材交流事業では、どのような成果や効果がありましたか。指導した立場と研修した立場の両面から、人材交流によるスタッフの成長についてお答えください。
- 4 補助金によって、貴劇場・音楽堂の事業の実施や運営の面で、どのような充実や改善がありましたか。
- 5 補助対象事業によって、①地域や地域住民に対して、②他の劇場・音楽堂に対して、③国及び周辺地域の文化芸術状況を大局的に見て、どのような影響や効果があったと思われますか。
- 6 事業を実施する上で、現在、問題点や課題となっていることは何ですか。

II この事業を継続した場合、補助事業による中長期的な波及効果（impact）についてお答え下さい。

- 7 貴劇場・音楽堂は、例えば教育、福祉、まちづくりといった分野での役割や、地域周辺の経済や雇用の創出など、地域社会においてどのような影響や効果があると思われますか。
- 8 国及び周辺地域の文化芸術環境において、貴劇場・音楽堂はどのような位置付けや役割を担っていくと思われますか。
- 9 優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業、あるいは、その他の事業も含め、今後どのように事業を展開する予定ですか。将来のビジョンも含めて教えてください。

(6) 「⑤芸術家・芸術団体インタビュー調査」

【芸術家・芸術団体対象】（文化庁担当者、専門家が訪問してインタビューを行い記入）

I 文化庁の補助対象事業への参加によって得られた経験や御自身の活動への影響についてお答えください。

- 1 今回の事業で、芸術家・芸術団体としてのあなたの活動や芸術表現に、今後、影響や効果を与えるような経験がありましたか。
- 2 あなたは当劇場・音楽堂での活動で、どのようなことが印象に残っていますか。
- 3 あなたはまた当劇場・音楽堂に来て、公演、教育普及、人材育成に取り組んでみたいですか。同じ活動をする知人にそれを勧めたいですか。それは何故ですか。
- 4 今回のような事業が全国各地の劇場・音楽堂で実施されるようになった場合、我が国の文化芸術にどのような影響や効果を与えられると思われませんか。
- 5 今回の事業で、不自由に思ったり、不満に感じたりしたことはありますか。こうしたら、もっと魅力的な活動になれるというような提案やアイデアはありますか。
- 6 あなたがこの地域で活動していく上での課題や障害がありましたら、お話いただけますか。また、それは劇場・音楽堂で実施される活動において、解決できる面がありますか。
- 7 御自身の今後の活動予定や将来のビジョンについてお聞かせ下さい。今回の事業が、そのことになにがしかの影響を与えたとすれば、そのことも含めてお話しいただけますか。
- 8 今回の事業を主催した当劇場・音楽堂や、その事業を補助した文化庁に対して、特に伝えておきたいことがあれば、教えて下さい。

(7) 「⑥訪問調査記入フォーム」

【訪問調査の項目】（文化庁担当者、専門家が、インタビューや観察結果等に基づいて記入）

I 事業の実施状況について（評価できる点、課題と思われる点を含め、気がついたことを記入）

- 1 公演事業に関する芸術面の水準（例えば表現の卓越性、秀逸性、先駆性、革新性等）について
- 2 教育普及事業の目的や対象者の考え方、内容、方法、活動の環境について
- 3 人材育成事業の目的や対象者の考え方、内容、方法、活動の環境について
- 4 公演事業、教育普及事業、人材育成事業の新規顧客、及びリピーターの獲得について
- 5 劇場・音楽堂スタッフ人材育成交流事業によって向上された専門知識や技術について（指導する立場の場合は、指導の内容や方法について）
- 6 芸術家、芸術団体、教育機関、NPO、市民団体等とのネットワークによる効果について
- 7 劇場・音楽堂に対する地方公共団体（民間による設置の場合は拠点とする地域の地方公共団体）の理解や協力の姿勢、協働体制について
- 8 その他

II 補助事業による成果（outcome）や波及効果（impact）について

- 9 「自主企画制作による舞台芸術公演の質を向上させること」への寄与の有無、内容、可能性
- 10 「優れた舞台芸術の鑑賞機会を地域住民に提供すること」への寄与の有無、内容、可能性
- 11 「居住地域に関わらず文化芸術を鑑賞する機会を提供すること」への寄与の有無、内容、可能性
- 12 「居住地域に関わらず地域住民に参加・創造する機会を提供すること」への寄与の有無、内容、可能性
- 13 「アートマネジメント人材や舞台スタッフを育成すること」への寄与の有無、内容、可能性
- 14 その他、中長期的な視点からみた本事業の成果（outcome）や波及効果（impact）

(7) 「⑥訪問調査記入フォーム」

【総括コメント】（文化庁担当者、専門家が、インタビューや観察結果等に基づいてコメントを記入）

Ⅲ 採択団体や参加者へのインタビュー調査、事業の観察結果等に基づいた総合的な評価結果

15 事業の実施状況、成果（outcome）について

16 本事業の成果（outcome）や波及効果（impact）について

17 補助事業について見直しや改善が求められること

Ⅳ 訪問調査概要

1. 訪問先

採択団体名： \_\_\_\_\_

施設名： \_\_\_\_\_

2. 訪問日時： \_\_\_\_\_

3. 面会者

採択団体： \_\_\_\_\_

参加者（芸術家、芸術団体等）：

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

### 3. 様式例【Ⅱ】の検討

#### (1) 様式例【Ⅱ】の記入フォーム

	調査指標	調査項目
output 結果	各種事業における鑑賞機会や参加機会の供給量(公演回数、総客席数等)、需要量(入場者数、入場率、参加者数等)	①ア Q5・6 「補助対象事業」の活動実績
	パブリシティの取組、実績	①ア Q7 「補助対象事業」のメディアでの実績
	事業収支、設置者の財源負担	①ア Q4 採択団体の財務計画と実績
outcome 成果	観客や参加者等の満足度、舞台芸術作品に対する芸術面の評価	①ア Q8 「補助対象事業」の受賞実績、再演、巡回公演の計画 ①ア Q9 文化庁の補助による「補助対象事業」の成果 ①ア Q11 採択団体からみた補助対象事業の目的に対する重点の置き方と文化庁の戦略目標に対する達成度 ①ア Q12 採択団体の事業や活動全体における「補助対象事業」の成果 ②ア Q3 観客の公演事業に対する満足度 ②ア Q4・5 観客にとっての採択団体の存在意義や満足度、重要性 ③ア Q2 参加者の教育普及事業、人材育成事業の満足度 ③ア Q3 参加者の教育普及事業、人材育成事業の感想 ③ア Q4・5 参加者の採択団体の存在意義や満足度、重要性 ④イ Q1 公演事業の芸術面、事業の実施や運営面での成果 ④イ Q2 教育普及事業、人材育成事業の成果 ④イ Q5 地域や地域住民、他の劇場・音楽堂、大局的に見た文化芸術状況への影響や効果 ⑤イ Q1 芸術家・芸術団体への「補助対象事業」の影響や効果 ⑤イ Q2 芸術家・芸術団体の文化庁の事業への印象 ⑤イ Q7 芸術家・芸術団体の将来の展望、また、その将来の展望への「補助対象事業」の影響や効果 ⑥訪 Q1~4 公演事業に関する芸術面の水準、教育普及事業、人材育成事業の考え方や内容、顧客の特性 ⑥訪 Q9~13 5つの戦略目標に対する寄与の有無、内容、可能性への効果や波及効果
	劇場・音楽堂の事業運営全体に及ぼす効果、影響	①ア Q9 文化庁の補助による「補助対象事業」の成果 ①ア Q10 文化庁の補助による「地域社会との関わり」の成果 ①ア Q11 採択団体からみた補助対象事業の目的に対する重点の置き方と文化庁の戦略目標に対する達成度 ①ア Q14 採択団体の事業や活動全体における「補助対象事業」の成果 ②ア Q3 観客の公演事業に対する満足度 ②ア Q4・5 観客にとっての採択団体の存在意義や満足度、重要性 ③ア Q2 参加者の教育普及事業、人材育成事業の満足度 ③ア Q3 参加者の教育普及事業、人材育成事業の感想 ③ア Q4・5 参加者にとっての採択団体の存在意義や満足度、重要性

※「評価、改善のポイント」は実際の調査結果に基づいたものではなく、イメージとして記述している。

調査結果の概要(イメージ)	評価、改善のポイント(イメージ)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●年度単位での総公演回数、入場者数、入場率、実施日数、参加人数等を把握</li> <li>●採択団体別、都市規模別、地域ブロック別、事業全体の経年変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多様な分野の優れた舞台芸術公演が劇場・音楽堂を拠点として提供された。教育普及事業や人材育成事業では、オーケストラ、室内楽、演劇分野で地域に根ざした活動が提供された。一方で、その他の分野の活動が見られなかったため、より幅広い分野での教育普及や人材育成が求められる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●年度単位でのメディアでの実績を把握</li> <li>●採択団体別、都市規模別、地域ブロック別、事業全体の経年変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●メディアによる紹介は公演事業が多い。特に、継続性の強い企画で紹介件数が多かった。新聞・雑誌に比べてテレビ・ラジオの紹介件数が少ない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●年度単位での採択団体別の事業収支、設置者の財源負担の経年変化を分析</li> <li>●事業収入に対する設置者の財源負担の比率について、都市規模別、地域ブロック別、事業全体の経年変化を分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●都市規模別に財源負担の比率を見ると、政令市に所在する劇場・音楽堂では事業収入のバランスが高く、中核市以下の市町村では設置者の指定管理料や補助金の比率が高い。都市規模などの実態に応じた財源負担比率を考慮することが望ましい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●アンケートの集計により補助による具体的な成果、事業の中で重点を置く取組、文化庁の戦略目標に対する達成度、観客の満足度等を分析</li> <li>●アンケートの自由記述形式、インタビューや訪問調査の記録によりエピソードを収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●補助対象事業のうち、出演者、スタッフが「第19回読売演劇大賞」を受賞した公演が2公演、「第66回文化庁芸術祭賞新人賞」を受賞した演出家を起用した公演が1公演あった。</li> <li>●補助により、多くの劇場で「作品の内容や質が向上した」「意欲的・実験的な作品に取り組めた」「出演者やスタッフを充実できた」「新たな観客層を開拓した」「気軽に舞台芸術に参加できる機会を提供できた」と答えた。</li> <li>●具体的な成果として「公演内容の芸術性、意義などに社会的信用度が高まった」「大規模公演での経済的に安定した公演の継続、ロングラン公演の定着」などの意見が報告されている。</li> <li>●戦略目標である「自主企画制作による舞台芸術公演の質を向上させること」が採択団体の事業の重点が置かれており、効果が認められ、継続によって中長期的にも効果が期待できる。</li> <li>●「地域の演奏家を起用して制作したオペラは、メディアにも多数取りあげられ、批評でも高い評価をいただいた」といった具体的なエピソードも報告されている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●アンケートの集計により補助による具体的な成果、事業の中で重点を置く取組、文化庁の戦略目標に対する達成度、観客の満足度等を分析</li> <li>●アンケートの自由記述形式、インタビューや訪問調査の記録によりエピソードを収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●補助により、多くの劇場で芸術面の効果が挙げられている一方で、「パブリシティを充実できた」「企画制作スタッフを育てることができた」「舞台技術スタッフを育てることができた」と答える採択団体は相対的に少ない。</li> <li>●補助による具体的な効果として、「重点支援施設のノウハウの蓄積とともに、今後の公演へのフィードバック」「親しみやすい環境を作り、鑑賞の機会の増大を図るとともに裾野を広げる」という意見が見られた。</li> </ul>

	調査指標	調査項目
outcome 成果 (続き)	劇場・音楽堂の事業 運営全体に及ぼす 効果、影響(続き)	④イ Q1 公演事業の芸術面、事業の実施や運営面での成果 ④イ Q2 教育普及事業、人材育成事業の成果 ④イ Q3 スタッフ人材育成の成果 ④イ Q4 採択団体の事業の実施や運営面での成果 ④イ Q5 地域や地域住民、他の劇場・音楽堂、大局的に見た文化芸術状況 への影響や効果 ⑥訪 Q1~4公演事業に関する芸術面の水準、教育普及事業、人材育成事業の 考え方や内容、顧客の特性 ⑥訪①Q5 スタッフ人材育成事業による専門知識や技術の向上 ⑥訪①Q9~13 5つの戦略目標に対する寄与の有無、内容、可能性への効果 や波及効果
	芸術団体や教育機 関等とのネットワ ーク、地方公共団体の 理解、協力、協働	①ア Q10 文化庁の補助による「地域社会との関わり」での成果 ①ア Q11 採択団体からみた補助対象事業の目的に対する重点の置き方と文 化庁の戦略目標に対する達成度 ①ア Q14 採択団体の事業や活動全体における「補助対象事業」の成果 ④イ Q1 公演事業の芸術面、事業の実施や運営面での成果 ④イ Q2 教育普及事業、人材育成事業の成果 ④イ Q3 スタッフ人材育成の成果 ④イ Q4 採択団体の事業の実施や運営面での成果 ④イ Q5 文化芸術の振興という視点からの地域や地域住民への影響や効果 ④イ Q6 文化芸術の水準の向上という視点からの文化芸術の専門分野や他 の劇場、音楽堂への影響や効果 ⑤イ Q1 芸術家・芸術団体への「補助対象事業」の影響や効果 ⑤イ Q4 芸術家・芸術団体の文化庁の事業への印象 ⑤イ Q5 芸術家・芸術団体の文化庁の事業への提案やアイデア ⑤イ Q6 芸術家・芸術団体の将来の展望、また、その将来の展望への「補助 対象事業」の影響や効果 ⑥訪 Q6~8各種団体とのネットワーク、地方公共団体の理解や協働体制 ⑥訪 Q9~13 5つの戦略目標に対する寄与の有無、内容、可能性への効果や 波及効果
impact 波及効果	地域における劇場・ 音楽堂が果たす社 会的役割、文化芸 術環境の満足度	①ア Q11 採択団体からみた補助対象事業を継続した場合の見込み ①ア Q16 舞台芸術の創造への波及効果 ①ア Q17 地域社会への波及効果 ④イ Q7 教育、福祉、まちづくりや地域周辺の経済や雇用創出などへの波及 効果 ④イ Q8 国及び周辺地域の文化芸術環境においての劇場・音楽堂が果たす 役割 ⑤イ Q6 芸術家・芸術団体の地域における活動の課題や解決の方策 ⑥訪 Q6~8 各種団体とのネットワーク、地方公共団体の理解や協働体制 ⑥訪 Q9~13 5つの戦略目標に対する寄与の有無、内容、可能性への効果や 波及効果
	文化芸術の鑑賞・参 加・創造による生活 の質の向上	①ア Q9 採択団体からみた補助対象事業を継続した場合の見込み ①ア Q14 舞台芸術の創造への波及効果 ①ア Q15 地域社会への波及効果 ④イ Q7 教育、福祉、まちづくりや地域周辺の経済や雇用創出などへの波及 効果 ④イ Q8 国及び周辺地域の文化芸術環境においての劇場・音楽堂が果たす 役割 ⑥訪 Q9~13 5つの戦略目標に対する寄与の有無、内容、可能性への効果や 波及効果

調査結果の概要(イメージ)	評価、改善のポイント(イメージ)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域社会との関わりでは、「地域住民からの寄付やボランティア、企業による協賛金等の支援や協力を得ること」に対して、補助の効果が見えにくい。</li> <li>●「アートマネジメント人材や舞台スタッフを育成すること」は、採択団体の事業の重点は相対的に低いものの、中長期的には効果が期待されている。</li> <li>●企画制作や舞台技術スタッフの人材育成に関しては、人材育成プログラムに取り組むことで直接的な効果が表れるものではなく、優れた公演事業に取り組むことが、中長期的に人材育成へとつながることが考えられる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●アンケートの集計により補助による具体的な成果、事業の中で重点を置く取組、文化庁の戦略目標に対する達成度、観客の満足度等を分析</li> <li>●アンケートの自由記述形式、インタビューや訪問調査の記録によりエピソードを収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●補助により、「地域の教育機関、福祉施設、公共施設との間にネットワークを形成できた」と答える劇場・音楽堂が多かった。</li> <li>●具体的な効果として「特に教育普及事業、人材育成事業において、アウトリーチやワークショップを行う中で、福祉施設や、公民館など他の施設との連携を強めた。また、アーティストとの関係が深まり、意識が共有されたことで、今後の取組に期待を持てるようになった」とのエピソードが報告されており、劇場・音楽堂の地域のネットワークの向上に大きく貢献したと考えられる。</li> <li>●「居住地域に関わらず文化芸術を鑑賞する機会を提供すること」「居住地域に関わらず地域住民に参加・創造する機会を提供すること」に重点を置く劇場・音楽堂は、相対的に少なかった。</li> <li>●採択団体の事業や活動全体が「行政の中長期的な施策に位置付けられた。またはそうした機運が高まった」という答えが少なく、今後の課題の一つと考えられる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●アンケートの集計により補助による舞台芸術の創造への波及効果、文化芸術による生活の質の向上への波及効果、地域社会への波及効果等を分析</li> <li>●インタビューや訪問調査の記録によりエピソードや今後の可能性を収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中長期的に、我が国の舞台芸術創造に及ぼす波及効果として、「我が国の舞台芸術創造の水準を牽引する」との答えが多く、「我が国の舞台芸術を牽引する優れた人材を輩出し、キャリアパスを形成する」との答えが少ない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●アンケートの集計により補助による舞台芸術の創造への波及効果、文化芸術による生活の質の向上への波及効果、地域社会への波及効果等を分析</li> <li>●インタビューや訪問調査の記録によりエピソードや今後の可能性を収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中長期的に、「子どもの教育や青少年の育成、幅広い世代の生涯学習を活性化させる。」との答えが多く、また、「大規模事業に取り組めることで、市民から見て劇場としての魅力が倍増している」との意見もあった。</li> </ul>

	調査指標	調査項目
impact 波及効果 (続き)	周辺地域における 経済や雇用に対する 影響、地域イメージ の変化、地域ブラン ドの向上	①ア Q9 採択団体からみた補助対象事業を継続した場合の見込み ①ア Q16 舞台芸術の創造への波及効果 ①ア Q17 地域社会への波及効果 ④イ Q7 教育、福祉、まちづくりや地域周辺の経済や雇用創出などへの波及 効果 ④イ Q8 国及び周辺地域の文化芸術環境における劇場・音楽堂が果たす 役割 ⑥訪 Q9~13 5つの戦略目標に対する寄与の有無、内容、可能性への効果や 波及効果

	調査項目
制度や仕組みの見直し	①ア Q12 「補助対象事業」の制度や仕組みの見直しの要望 ①ア Q16 採択団体の抱える問題点や課題 ④イ Q7 採択団体の抱える問題点や課題 ④イ Q12 採択団体の将来への展望
採択団体の特徴	①ア Q1 採択団体の組織体制 ①ア Q2 採択団体の公演実績 ①ア Q3 採択団体の施設利用実績 ①ア Q4 採択団体の財務計画と実績 ①ア Q13 採択団体の事業や活動の内容 ②ア Q1・2 観客の公演情報の入手経路と来場の動機 ②ア Q6~8 観客の属性 ③ア Q1 参加者の参加の動機 ③ア Q6~8 参加者の属性

調査結果の概要(イメージ)	評価、改善のポイント(イメージ)
<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの集計により補助による舞台芸術の創造への波及効果、文化芸術による生活の質の向上への波及効果、地域社会への波及効果等を分析</li> <li>インタビューや訪問調査の記録によりエピソードや今後の可能性を収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中長期的に及ぼす影響のうち、「中心市街地や商店街の活性化、観光振興や地場産業の振興に寄与する」「文化芸術の創造性を活かした起業を促し、地域の雇用や経済に寄与する」との答えは少ない。</li> <li>「人の交流、まちの賑わいの創出に寄与できる」との意見もあった。</li> <li>中長期的に見て、「地域住民の地域に対する誇りや愛着心を培う。」と答えた劇場・音楽堂が多く、また、「地域ブランドの向上に貢献した。」というエピソードも報告されている。</li> </ul>

調査結果の概要(イメージ)	評価、改善のポイント(イメージ)
<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの集計により制度や仕組みの見直しの要望や採択団体の抱える問題点や課題、将来への展望を分析</li> <li>インタビューにより具体的な内容や今後の可能性を収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「補助金の額」や「補助対象経費、補助対象経費」への見直しの要望が非常に多い。</li> <li>例えば、「先駆的事业や教育普及事業など入場料・参加料の比率が低い事業などについて、現状の二分の一助成のままだと自己負担金比率の問題で、事業の実施が困難になる可能性がある」という声がある。</li> <li>地方の劇場・音楽堂からは「主に地域住民の税金で賄われていることから、事業の主眼が、あまりに優れた芸術性だけに置かれてしまうと、事業の計画が困難になる可能性がある」という声もある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>各採択団体の規模や特徴、事業・活動内容を把握するための基礎データとして集計</li> </ul>	



## B. 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

### ①地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

---

1. 評価の考え方と手順	57
(1) 評価の基本的な考え方	57
(2) 施策の概要、評価指標、及びデータの収集方法と調査項目	59
(3) 評価の流れ	61
(4) 様式の運用	63
2. 様式例Ⅰの検討	65
(1) 依頼状	65
(2) 「①採択団体アンケート調査」	66
(3) 「②採択団体インタビュー調査」	78
(4) 「③訪問調査記入フォーム」	80
3. 様式例Ⅱの検討	82
(1) 様式例Ⅱの記入フォーム	82



## 1. 評価の考え方と手順

### (1) 評価の基本的な考え方－戦略目標と評価指標、様式例

本調査研究における評価手法は、文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針)に基づいて文化芸術振興施策の着実かつ継続的な実施を図るとともに、国民への説明責任の向上に資するため、「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」のPDCA(計画、実行、検証、改善)サイクルを確立するために検討を行ったものである。

今年度は、施策の成果や効果をより適切かつ効率的に把握できる評価方法を検討するため、様式例【Ⅰ】アンケート調査、インタビュー調査、訪問調査、及び【Ⅱ】施策全体の評価フォームを考案し、様式例【Ⅰ】については、平成23年度の複数の採択団体に対して、その実用性や有効性を検証した。平成24年度には、今回の調査研究の成果に基づいた評価方法の試行を行い、平成25年度の事業から本格実施する予定となっている。

まず、評価手法を検討するための前提条件として、施策ごとに戦略目標の検討を行った。「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」については、応募要領に記載された内容や採択団体が実施した事業内容などを参照し、文化庁の担当課とも意見交換を行った上で、次の5つの戦略目標を設定した。

1. 人材育成や技術・技能の伝承により、地域の文化遺産を次世代に継承すること
2. 地域の文化遺産を適切に保存、公開し、広く国民が親しむ機会を提供すること
3. 地域の文化遺産を媒介とすることで、地域の誇りや住民相互の絆を生み出すこと
4. 地域の文化遺産を活用することで、地域活性化に資すること
5. 地域の文化遺産を活用することで、観光振興に資すること

次いで、この戦略目標に照らし合わせて、「output(結果)」「outcome(成果)」「impact(波及効果)」に対応した評価指標を設定した上で、評価に必要なデータや調査内容を検討し、様式例【Ⅰ】の設問項目を整理した。

その結果、「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」では、次のとおり1種類のアンケート調査、2種類のインタビュー調査、訪問調査に関する様式例【Ⅰ】とそれらを活用して収集したデータや調査結果を集約する様式例【Ⅱ】を作成した。

#### 【様式例Ⅰ】

##### ① 採択団体アンケート調査

採択団体が、補助(助成)を受けた立場から事業の実績等について回答いただくアンケート調査票である。採択団体の回答結果から、「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の実績や成果、効果を把握するとともに、採択団体自身が、事業の成果についての振り返りや改善を行うことを目的にしている。

なお、実際にこのアンケート調査を実施する際には、別途、採択団体に提出を依頼している事業報告書との過不足を調整し、採択団体に過度の負担とならない工夫が必要である。

## ② 採択団体インタビュー調査

文化庁の調査員もしくは当該分野の専門家が、「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の実施中に現地を訪問し、採択団体にインタビュー調査を行うための項目を整理したものである。「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の実績や成果、効果について、アンケート調査では把握しきれないエピソードや定性的な効果などを調査、把握することを目的としている。

## ③ 訪問調査記入フォーム

文化庁の調査員もしくは当該分野の専門家が、「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の実施中に現地を訪問し、事業の実施状況の観察、関係者へのインタビュー調査などの結果に基づいたレポートを作成するための項目を整理したものである。第三者の立場から、「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の実績や成果、効果を把握するための基礎的な資料を作成することを目的としている。

### 【様式例Ⅱ】

上記の様式例【Ⅰ】によって個別の採択団体から収集したデータや調査結果を、「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」全体として集約するフォームである。その際、output(結果)、outcome(成果)、impact(波及効果)などそれぞれの評価の視点から①～⑤までの調査結果を整理・分類した上で調査結果を統合・分析し、評価や改善が必要な点を検証するための様式例となっている。

(2) 施策の概要、評価指標、及びデータの収集方法と調査項目

施策の概要

政策の中での位置付け	
<b>文部科学省(文化庁)の政策体系の中での位置付け</b> ②文化財の保存及び活用の充実 貴重な国民的財産である文化財を適切に保存し、次世代へ継承するとともに、積極的な公開・活用を通じて、広く国民が文化財に親しみ、その価値への理解を深めるようにする。	
<b>第3次基本方針の中での位置付け</b> 重点戦略2 文化芸術を創造し、支える人材の充実 ○無形文化財や文化財を支える技術・技能の伝承者に対する支援を充実する 重点戦略4 文化芸術の次世代への確実な継承 ○文化財の特性や適切な保存に配慮しつつ、多様な手法を用いて積極的な公開・活用を行い、広く国民が文化財に親しむ機会を充実する 重点戦略5 文化芸術の地域振興、観光・産業振興等への活用 ○文化財建造物、史跡、博物館や伝統芸能等の各地に所在する有形・無形の文化芸術資源を、その価値の適切な継承にも配慮しつつ、地域振興、観光・産業振興等に活用するための取組を進める。 重点戦略6 文化発信・国際文化交流の充実 ○文化発信・交流の拠点として美術館、博物館や大学の活動・内容を充実する	
施策目的	
<b>既存資料の抜粋(募集案内「1. 事業の概要等 (1) 趣旨・目的」より)</b> ・ 地域の多様で豊かな文化遺産を活用し、文化振興とともに観光振興・地域経済の活性化を推進すること	
<b>評価指標づくりに向けた戦略目標</b> 1 人材育成や技術・技能の伝承により、地域の文化遺産を次世代に継承すること 2 地域の文化遺産を適切に保存、公開し、広く国民が親しむ機会を提供すること 3 地域の文化遺産を媒介とすることで、地域の誇りや住民相互の絆を生み出すこと 4 地域の文化遺産を活用することで、地域活性化に資すること 5 地域の文化遺産を活用することで、観光振興に資すること	

事業内容 (平成23年度)

事業の枠組み	
①地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 地域の文化遺産に関する情報発信、人材育成、普及啓発、継承、記録作成、調査研究等 ②ミュージアム活性化支援事業 美術館・歴史博物館が中心となった地域文化資源活用、地域連携強化、新規利用者層創出、国際交流拠点形成 ③重要文化財建造物等公開活用事業 重要文化財建造物、登録有形文化財建造物又は重要伝統的建造物群保存地区の公開活用のための保存活用計画の策定、設備等整備など ④史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業 史跡、名勝、天然記念物及び埋蔵文化財に関する公開活用のための復元、設備等整備など	
主な採択団体・補助事業名	
採択件数:812件 ◆①北海道札幌市「札幌市文化遺産活用による文化振興及び観光振興事業」 ◆①千葉県佐倉市「佐倉・城下町400年記念事業」◎ ◆①・②・④愛知県「愛知県文化財活用活性化事業」◎ ◆①・②・④兵庫県「兵庫県歴史文化遺産活用活性化計画」◎ ◆①・②・③・④島根県松江市「松江市文化遺産活用活性化事業」◎ ◆①・②大分県「歴史ロマン体感！・USA の宝物を探す旅」◎	

評価指標、評価データの収集方法と調査項目 ①地域の文化遺産を活かした観光振興、地域活性化事業

評価指標	output(結果)	outcome(成果)	impact(波及効果)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>継承(保存・修復等)に関する取組の件数</li> <li>情報発信、人材育成の取組、実績</li> <li>普及啓発、後継者養成、体験事業の取組の供給量(実施回数等)、需要量(来場者数等)</li> <li>地域の文化遺産の来場者数、来場経験、来場頻度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種の取組に対する評価、関係者の意識の変化</li> <li>地域の文化遺産に対する認知度、興味、関心の向上</li> <li>地域の文化遺産に対する来場者等の満足度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域における文化遺産が果たす社会的役割、歴史や伝統に関する意識</li> <li>文化遺産が創出する地域振興面での貢献</li> <li>文化遺産が創出する観光振興面での貢献</li> </ul>

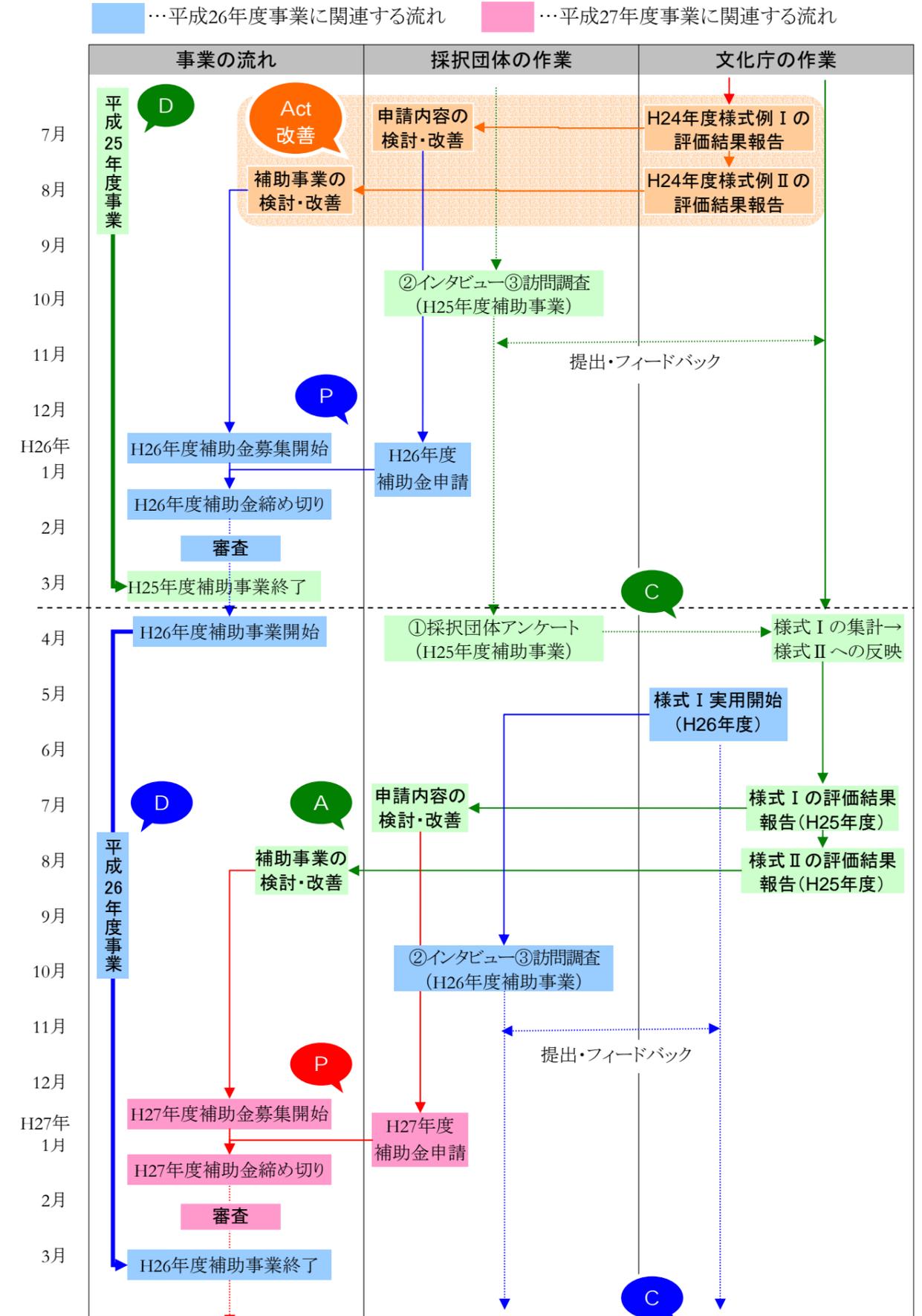
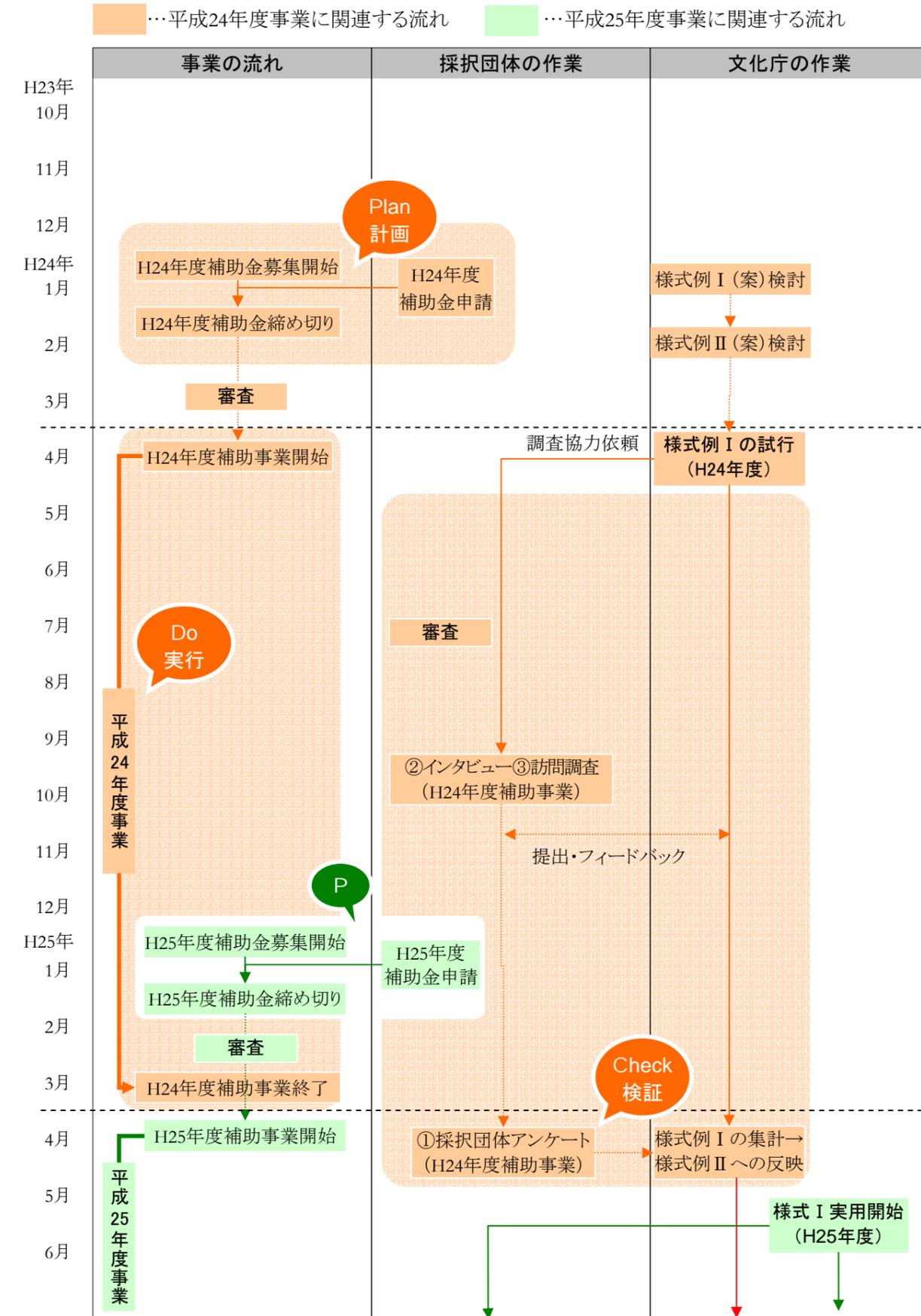
様式例【I】 アンケート調査の設問項目

①採択団体 アンケート調査 (事業報告書と連動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信の媒体数、発行数(HP、映像媒体・印刷物の制作・配布部数)</li> <li>普及啓発、後継者養成、体験事業の企画本数、実施回数、参加者数</li> <li>保存継承等に関する映像記録等の制作・配布部数、上映数、視聴者数</li> <li>文化遺産の保存継承等に関する用具の新調・修理の件数、原材料の確保のための取組</li> <li>地域の文化遺産への来場者数(観光客数、入館者数、訪問者数等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金によって充実できた事項(人材育成、技術・技能の継承、保存、公開、地域の各種団体との連携等)</li> <li>事業の効果を示す特記事項(新聞記事、観光PR等による媒体露出効果)</li> <li>新たな文化芸術資源の発見、開拓、保存活用、再活用</li> <li>地域の文化遺産に関わるボランティアの参加者数</li> <li>地域における文化遺産の社会的役割(地域振興、観光振興)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化遺産が創出する地域振興面での貢献(若者の定住・回帰促進、転入人口の増加、社会関係資本の醸成等)</li> <li>文化遺産が創出する観光振興面での貢献(交流人口の増加、地域の観光業の拡大、雇用機会の創出等)</li> </ul>
--------------------------------	--	--	---

様式例【I】 インタビュー、訪問調査記入フォームの設問項目

②採択団体 インタビュー調査 (文化遺産の所有者、保存会、自治体文化財担当者等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の文化遺産の継承(保存・修復等)に関する取組の評価</li> <li>人材育成、普及啓発、記録作成、調査研究等に関する取組の評価</li> <li>地域の文化遺産の所有者、保護団体等の意識の変化、交流機会</li> <li>地域における文化遺産の社会的役割(地域振興、観光振興)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域振興における文化遺産の役割(地域の象徴的存在、シビックプライドの形成、住民の信頼関係の源泉等)</li> <li>観光振興における文化遺産の役割(地域ブランドの向上、地域の観光資源、観光産業の牽引的存在等)</li> <li>文化遺産による地域イメージの変化、地域ブランドの向上</li> </ul>
③訪問調査 記入フォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の文化遺産の継承(保存・修復等)に関する取組の評価</li> <li>文化遺産の継承、活用に関する専門的知識や技術の向上</li> <li>事業の自己評価や効果の測定に対する取組の評価</li> <li>教育機関、NPO、市民団体、事業者等とのネットワークによる効果</li> <li>地域の文化遺産に対する地方公共団体の理解や協力の姿勢、協働体制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域振興における文化遺産の役割(地域の象徴的存在、シビックプライドの形成、住民の信頼関係の源泉等)</li> <li>観光振興における文化遺産の役割(地域ブランドの向上、地域の観光資源、観光産業の牽引的存在等)</li> <li>地方公共団体の文化芸術振興に関する条例・ビジョン等における位置付け</li> <li>地域の文化遺産を継承するための持続可能な構造の形成(地方公共団体、文化遺産所有者、保存会等との安定した関係づくり)</li> </ul>

(3) 評価の流れ



(4) 様式の運用

様式例Ⅰ	①採択団体アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 採択団体に対して、本アンケート調査の回答が、次年度以降の採択を直接左右するものではなく、採択団体の実態や施策全体の成果や効果を把握することが目的であることを、理解していただく。</li> <li>● 各採択団体が事業終了後に提出する事業報告書が求める記入内容との重複を避けて、回答に負荷がかからないようにする。</li> </ul>
	②採択団体インタビュー調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>● インタビューを行う担当者(文化庁職員もしくは PD・PO等の専門官)の、文化遺産に対する知見や地域性に対する理解や解釈の能力(リテラシー)が、一定の許容範囲である必要がある。</li> <li>● 抽象的な理念や傾向よりも、具体的な経験やエピソードなどの発言を引き出す。</li> </ul>
	③訪問調査記入フォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 評価できる点、課題と思われる点については、採択団体の設置目的(ミッション)、都市規模、立地特性、活動年数などの要素を把握した上で、施策の目指す目的に沿って記述する。</li> </ul>
様式例Ⅱ	調査結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケート調査の集計の結果は、単純合計や全体の平均値だけでなく、調査指標に応じてクロス集計や経年変化などの分析を加えた上で、多面的に傾向を把握する。</li> <li>● インタビュー調査の結果から特徴的なものを抽出する場合は、評価や課題のポイントが見えやすいものを、できるだけ属性に偏りがないように、幅広く抽出する。</li> </ul>
	評価・改善のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調査結果の概要について、施策の目的や戦略目標に照らし合わせながら、総体としての評価や課題を浮き彫りにする。</li> <li>● 評価が明確に浮かび上がるポイントについては、できるだけ定量的なデータとエピソードを合わせて記述する。</li> <li>● 課題が明確に浮かび上がるポイントについては、課題の要因を掘り下げて考察する。</li> </ul>



## 2. 様式 I の検討

### (1) 依頼状

〇〇〇〇年〇月〇日

〇〇〇〇〇〇御中

文化庁文化財部芸術文化課

「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の評価・改善に関する御協力をお願い

拝啓 時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業）」の実施に当たりましては、平素より御協力を賜り厚くお礼申し上げます。文化庁では、本事業の効果や問題点、課題を把握し、事業の内容や仕組みの改善に取り組むとともに、より効果的な事業や文化政策のあり方の検討につなげていく予定です。

そのため、このたび、文化庁では、①採択団体アンケート調査、②採択団体インタビュー調査、③訪問調査を実施することいたしました。これらの調査等は、貴団体の事業や成果を評価するためのものではなく、文化庁の「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の成果や課題を把握し、改善していくために実施するものです。

つきましては、御多忙のところ誠に恐縮ですが、趣旨を御理解いただき、何とぞ御協力くださるよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

問い合わせ先:

文化庁文化財部芸術文化課 〇〇〇、〇〇〇

電話: XX-XXXX-XXXX

住所: 〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

(2) 「①採択団体アンケート調査」

I 平成23年度の貴団体の事業や活動全体の概要と補助の効果についてお答えください。

Q1 貴団体の事業や活動全体のビジョン（文化遺産の活用に関する地域全体の将来の展望や組織の共通目的等）を簡潔に御記入ください。

Q2 Q1のビジョンを実現するために、平成23年度の事業の中で、特に重視した事業や活動、また、その理由について、簡潔に御記入ください。

Q3 「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業）」の補助対象事業に参加・協働する地域の主な文化遺産の名称と年間入場者数を5つまで御記入ください。

文化遺産の名称	年間入場者数、参加人数
	人
	人
	人
	人
	人

Q4 「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業）」の補助対象事業に関連する地域の文化遺産が広報やPR活動を通じてメディアで紹介された実績（宣伝・広告は除く）についてお答えください。

事業名称	新聞	雑誌等	TV・ラジオ	計
1	件	件	件	件
2	件	件	件	件
3	件	件	件	件
4	件	件	件	件
5	件	件	件	件

\*新聞・雑誌等の主要な掲載記事はコピーを添付してください。

(2) 「①採択団体アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
<p>Q1・Q2 地域の事業計画の概要把握</p>	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当該事業に採択された各都道府県・市町村（特別区を含む）の地域の事業計画の特性や内容を把握。</li> </ul> <p>【分析の視点・PDCA への活用方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業の目的や内容の見直しに活用。</li> </ul> <p>【事業・施策のアピール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の特性や活動の広がりをアピール。</li> </ul> <p>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし。</li> </ul>
<p>Q3 地域の主な文化遺産の概要把握 outcome(成果)</p>	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の主な文化遺産の名称と年間入場者数を把握。</li> <li>地域の文化遺産の数や人数の多寡によって評価は行わない。</li> </ul> <p>【分析の視点・PDCA への活用方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光振興を裏付ける基礎データとなる訪問者数の経年変化の把握・分析</li> <li>2～3年の実績に基づいて、必要な場合、分野、対象事業等の見直しに活用。</li> </ul> <p>【事業・施策のアピール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の具体的な活動実績を数字でアピール。</li> </ul> <p>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし。</li> </ul>
<p>Q4 地域の観光振興への効果の把握 outcome(成果)</p>	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パブリシティの件数、内容を把握。件数の多寡によって評価は行わない。</li> <li>当該事業に採択された各都道府県・市町村（特別区を含む）の地域の観光振興への波及効果の実績を把握。</li> </ul> <p>【分析の視点・PDCA への活用方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主要な記事の内容から outcome（成果）に関するエピソードを収集。</li> </ul> <p>【事業・施策のアピール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>outcome（成果）のエピソードに基づいて事業の成果をアピール。</li> </ul> <p>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし。</li> </ul>

(2) 「①採択団体アンケート調査」

II 平成23年度の文化庁の補助事業によって実施した活動の実績と補助の効果についてお答えください。

Q5 「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業）」の補助対象事業(以下、「補助対象事業」)の活動実績についてお答えください。次の①～④の実施の有無、それぞれの実施内容をお選びの上、実施したものについての部数、件数、回数、人数等を御記入ください。

① 地域の文化遺産に関する情報発信			
実施の有無		1 実施した	2 実施していない (→②へ)
実施内容に該当する番号に○をして数字を御記入ください。	1	パンフレットの作成、配布	制作部数 <input type="text"/> 部 配布先件数 <input type="text"/> 件
	2	チラシの作成、配布	制作部数 <input type="text"/> 部 配布先件数 <input type="text"/> 件
	3	ポスターの作成、掲示	制作部数 <input type="text"/> 件 掲示件数 <input type="text"/> 件
	4	映像の制作、地域の案内所等での上映	制作件数 <input type="text"/> 件 上映回数 <input type="text"/> 件
	5	ホームページの作成・公開	閲覧件数 <input type="text"/> 件
	6	プレスリリースの作成・配布、記者会見等の広報・PR活動	媒体露出件数 <input type="text"/> 件
	7	その他(具体的に <input type="text"/> )	<input type="text"/> 部・件 <input type="text"/> 部・件

② 地域の文化遺産に関する人材育成			
実施の有無		1 実施した	2 実施していない (→③へ)
実施内容に該当する番号に○をして数字を御記入ください。	1	研修や勉強会、セミナー等の実施	実施回数 <input type="text"/> 回 参加人数 <input type="text"/> 人
	2	講演会やシンポジウム等の実施	実施回数 <input type="text"/> 回 参加人数 <input type="text"/> 人
	3	他の地域との人材交流・情報交換会の実施	実施回数 <input type="text"/> 回 参加人数 <input type="text"/> 人
	4	地域の文化遺産及び運営に関するマニュアルの作成・配布	制作部数 <input type="text"/> 部 配布先件数 <input type="text"/> 件
	5	その他(具体的に <input type="text"/> )	<input type="text"/> 回 <input type="text"/> 人

③ 地域の文化遺産に関する普及啓発			
実施の有無		1 実施した	2 実施していない (→④へ)
実施内容に該当する番号に○をして数字を御記入ください。	1	展覧会やワークショップの実施	実施日数・回数 <input type="text"/> 日・回
			入場者・参加人数 <input type="text"/> 人
	2	講演会やシンポジウム等の実施	実施回数 <input type="text"/> 回
			参加人数 <input type="text"/> 人
	3	他の地域と連携した取組 (具体的に <input type="text"/> )	実施回数 <input type="text"/> 回
参加人数 <input type="text"/> 人			
4	地域の文化遺産に関する本の作成・配布	制作部数 <input type="text"/> 部	
		配布先件数 <input type="text"/> 件	
5	その他(具体的に <input type="text"/> )	<input type="text"/> 回 <input type="text"/> 人	

(2) 「①採択団体アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
Q5 output(結果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 当該事業における実績、具体的な活動内容を把握。</li><li>• 人数、日数、回数が多寡によって評価は行わない。</li></ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 人数、日数、回数等については経年変化の把握・分析（採択団体別及び採択団体全体）。</li><li>• 2～3年の実績に基づいて、必要な場合、分野、対象事業等の見直しに活用。</li></ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 各都道府県・市町村（特別区含む）が策定した「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化に関する計画」をもとに、情報発信、人材育成、普及啓発、継承、記録作成、調査研究等、地域の文化遺産を活用する多様な取組が行われており、それらの具体的な活動内容を分類化し、数字でアピール。</li></ul> <p><b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 「事業の内容」を記述する欄はあるが、自由記述形式で、事業の結果を定量的に記述する等の指定はない。</li></ul>

(2) 「①採択団体アンケート調査」

④ 地域の文化遺産に関する継承			
実施の有無		1 実施した	2 実施していない (→⑤へ)
実施内容に該当する番号に○をして数字を御記入ください。	1 後継者養成事業の実施		実施回数 回 参加人数 人
	2 体験事業教室の実施		実施教室件数 件 実施回数 回 参加人数 人
	3 継承のために用いる用具の新調、修理等		新調・修理等件数 件
	4 原材料確保のための取組		取組の件数 件
	5 その他 (具体的に )		回 人

次の⑤の実施の有無、実施の実施内容をお選びの上、実施したものについての部数、件数、回数、人数等を御記入ください。

⑤ 地域の文化遺産に関する記録作成、調査研究			
記録作成の実施の有無		1 実施した	2 実施していない
調査研究の実施の有無		1 実施した	2 実施していない (→SQ2)
実施内容に該当する番号に○をして数字を御記入ください。	記録作成、調査研究の目的	1 文化遺産の保存、継承 2 観光振興 3 地域活性化 4 マーケティング 5 アーカイブ 6 その他 (具体的に )	
	記録作成、調査研究の実施内容 (簡潔に御記入ください)		
	記録作成、調査研究の成果物	1 印刷物 2 映像 3 ホームページ 4 その他 (具体的に )	
	作成部数/配布部数	部	部

Q6 貴団体が補助対象事業を実施するために協働した団体の数とスタッフの数をお答えください。

団体数	団体	スタッフ数	人

Q7 文化庁の補助によって地域の文化遺産の保存や活用等について、どのような成果があったかお答えください。(○はいくつでも可)。

- 1 地域の文化遺産の保存や継承を充実させることができた。
- 2 地域の文化遺産を公開する機会が充実した。
- 3 地域の文化遺産の後継者の保存や継承に関する専門的知識や技術を向上させることができた。
- 4 地域の文化遺産を訪問、体験する地域住民が増え、文化遺産への理解、関心を持つようになった。
- 5 地域の文化遺産の事業に自主的に参加するボランティアが増えた。
- 6 地域の教育機関と連携し、地域の子どもや青少年が文化遺産を訪問、体験する機会が増えた。
- 7 地域の文化遺産に関する情報発信のツールが充実する等、国内での認知度を向上させることができた。
- 8 地域の文化遺産に関する情報発信のツールが充実する等、海外での認知度を向上させることができた。
- 9 国内の文化遺産を有する他の地域とのネットワークが構築した。
- 10 運営スタッフやボランティア等が、地域の文化遺産の知識、運営の知識や技術等を向上させることができた。
- 11 地域の文化遺産の新たな活用方法を発見した。
- 12 その他 (以下の自由記述欄に具体的に充実できた内容を御記入ください)

補助によってどのような効果があったか、上記の項目に該当する具体的な内容を簡潔に御記入ください。

(2) 「①採択団体アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
<p>Q6 output(結果)</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 当該事業における実績を把握。</li> <li>● 協働した団体数、スタッフの人数の多寡によって評価は行わない。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 団体数、人数については経年変化の把握・分析（採択団体別及び採択団体全体）。</li> <li>● 2～3年の実績に基づいて、必要な場合、分野、対象事業等の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各都道府県・市町村（特別区含む）が策定した「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化に関する計画」をもとに、協働した団体の数、スタッフの数、数字でアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「事業の内容」を記述する欄はあるが、自由記述形式で、事業の結果を定量的に記述する等の指定はない。</li> </ul>
<p>Q7 outcome(成果)</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 補助による具体的な成果を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2～3年の実績に基づいて、必要な場合、対象事業等の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● outcome（成果）の内容をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 記載項目には含まれているが、自由記述形式。</li> </ul>

(2) 「①採択団体アンケート調査」

Q8 文化庁の補助によって観光振興や地域活性化にどのような波及効果があったかお答えください。(〇はいくつでも可)。

- 1 地域の文化遺産が地域における象徴的存在として位置付けられるようになった。
- 2 地域の文化遺産を継承するために、文化遺産所有者や保存会等との関係が向上した。
- 3 地域の NPO、市民団体、観光産業とのネットワークを構築することができた。
- 4 地域の若者の定住が促進され、また、地域への転入者が増加した。
- 5 地域内外及び海外からの観光客が増加した。
- 6 地域の文化遺産が地域での観光資産として、地域のブランド向上に貢献した。
- 7 地域の飲食店、お土産店等が増加する等、地域経済の活性化につながった。
- 8 その他 (以下の自由記述欄に具体的に充実できた内容を御記入ください)

補助によってどのような効果があったか、上記の項目に該当する具体的な内容を簡潔に御記入ください。

上記1～8の選択肢のうち、特に効果があったと思われる項目について、効果の大きいものから順番に3つまで番号を御記入ください。

①		②		③	
---	--	---	--	---	--

Q9 文化庁が設定した「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の戦略目標の達成に対して、文化庁の補助金はどの程度効果があったと思われますか。(〇は各項目ひとつずつを選択)

	1 大いに あった	2 まあ あった	3 あまり ない	4 まったく ない
(記入見本)	1	②	3	4
1. 人材育成や技術・技能の伝承により、地域の文化遺産を次世代に継承すること	1	2	3	4
2. 地域の文化遺産を適切に保存、公開し、広く国民が親しむ機会を提供すること	1	2	3	4
3. 地域の文化遺産を媒介に、地域の誇りや住民相互の絆を生み出すこと	1	2	3	4
4. 地域の文化遺産を活用することで、地域活性化に資すること	1	2	3	4
5. 地域の文化遺産を活用することで、観光振興に資すること	1	2	3	4

上記の5つの項目について、平成23年度の文化芸術の海外発信拠点形成事業の事業計画では、どの項目に重点を置いていましたか。より重点を置いた項目から順番に1～5の番号を記入してください(取り組んでいない項目は記入不要です)。

①		②		③		④		⑤	
---	--	---	--	---	--	---	--	---	--

これら5つの目標に関して特に効果があったと思われることがあれば、具体的な内容を簡潔に御記入ください。

(2) 「①採択団体アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
<p>Q8 outcome(成果) impact(波及効果)</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>補助による具体的な成果を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2～3年の実績に基づいて、必要な場合、対象事業等の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>impact（波及効果）の内容をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>記載項目には含まれているが、自由記述形式。</li> </ul>
<p>Q9 outcome(成果)</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体からみた補助事業の目的達成度を把握。自由記述欄から outcome（成果）に関するエピソードを収集。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3～5年の実績に基づいて、事業の目的や内容の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>補助事業の目的達成度、エピソードの内容をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし。</li> </ul>

(2) 「①採択団体アンケート調査」

Q10 では、「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業）」を継続することで、5年後、10年後にどのような効果が期待できると思われますか。（○は各項目ひとつずつを選択）

	1 大いに できる	2 ある程度 できる	3 あまり できない	4 まったく できない
(記入見本)	1	②	3	4
1. 人材育成や技術・技能の伝承により、地域の文化遺産を次世代に継承すること	1	2	3	4
2. 地域の文化遺産を適切に保存、公開し、広く国民が親しむ機会を提供すること	1	2	3	4
3. 地域の文化遺産を媒介に、地域の誇りや住民相互の絆を生み出すこと	1	2	3	4
4. 地域の文化遺産を活用することで、地域活性化に資すること	1	2	3	4
5. 地域の文化遺産を活用することで、観光振興に資すること	1	2	3	4

Q11 「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業）」の仕組みについて、改善や変更を希望するものはありますか。（○はいくつでも可）

- 1 募集や審査、内定通知の時期や期間（具体的な内容は平成24年度の応募要領 p.1 を御覧ください）
- 2 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業実施計画書の計画期間（同 p.7）
- 3 対象事業（同 p.7）
- 4 対象事業の規模
- 5 補助の条件（同 p.15-16）
- 6 補助金の額（同 p.13 を御覧ください）
- 7 補助期間（同 p.7）
- 8 審査の視点（同 p.2）
- 9 事業実施後の評価
- 10 補助対象経費、補助対象外経費（同 p.14-16）
- 11 その他（以下の自由記述欄に具体的な内容を御記入ください）

Q5で選択した項目について、具体的な改善や変更を希望する内容を簡潔に御記入ください。

Q12 地域の文化遺産を活かした取組を充実させるために、今後改善したいと思われることはありますか。（○はいくつでも可）

- 1 地域の文化遺産の保存や継承に関する専門的知識や技術を向上させたい。
- 2 地域の文化遺産の保存や継承のための設備を充実させたい。
- 3 地域の文化遺産の後継者の候補やスタッフを、全国規模で募集したい。
- 4 地域の文化遺産に関するアーカイブを作成するための専門的知識や技術を向上させたい。
- 5 地域の文化遺産に関する調査研究のための専門的知識や技術を向上させたい。
- 6 地域住民によるボランティアやNPO等を増加させたい。
- 7 国内の文化遺産を有する地域とのネットワークを構築したい。
- 8 海外の文化遺産を有する地域とのネットワークを構築したい。
- 9 地域の地方公共団体、教育機関、NPO、市民団体、観光産業等との連携を強化したい。
- 10 海外からの観光客に対応するための専門スタッフの配置やマニュアルの作成をしたい。
- 11 観光客の増加に対応するためのインフラを整備したい。
- 12 運営体制を強化したい。
- 13 スタッフの能力や経験を高めたい。
- 14 財政基盤を安定化させたい。
- 15 その他（具体的に

(2) 「①採択団体アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
<p>Q10 outcome(成果) impact(波及効果)</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体からみた補助事業を継続した場合の outcome (成果)、impact (波及効果) の見込みを把握</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2～3年の実績に基づいて、事業の目的や内容の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>補助事業の長期的な成果、波及効果をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし</li> </ul>
<p>Q11 制度や仕組みの見直し</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>制度や仕組みの見直しに関する要望を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>制度や仕組み、応募要領の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>制度や仕組みの改善をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし。</li> </ul>
<p>Q12 制度や仕組みの見直し</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の抱える問題点や課題、将来展望を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業の目的や内容の見直し、新たな支援制度の検討、種の発掘に活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>制度や仕組みの改善をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし。</li> </ul>





(3) 「②採択団体へのインタビュー調査」

【採択団体対象】インタビュー調査項目（文化庁担当者、専門家が訪問してインタビューを行い記入）

I 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業の活動についてお答え下さい。

- 1 地域の文化遺産の魅力や特徴を教えてください。
- 2 地域の文化遺産の保存や活用等について、補助対象事業の特徴的な取組を具体的な活動内容を交えて教えてください。
- 3 地域の文化遺産の保存や活用等について、補助対象事業の実施や運営の面で中心的な役割をする団体の活動内容を教えてください。
- 4 地域の文化遺産の保存や活用等について、補助対象事業の実施や運営の面での協働体制を教えてください。

II 文化庁の補助によってどのような成果 (outcome) があったか具体的なエピソードを交えてお答え下さい。

- 5 地域の文化遺産の保存や活用等について、補助対象事業の実施や運営の面で、どのような成果や効果がありましたか。
- 6 地域の文化遺産に関する情報発信に取り組まれた場合、どのような成果や効果がありましたか。
- 7 地域の文化遺産に関する人材育成に取り組まれた場合、どのような成果や効果がありましたか。
- 8 地域の文化遺産に関する普及啓発に取り組まれた場合、どのような成果や効果がありましたか。
- 9 地域の文化遺産に関する継承に取り組まれた場合、どのような成果や効果がありましたか。
- 10 地域の文化遺産に関する記録作成や調査研究等に取り組まれた場合、どのような成果や効果がありましたか。

(3) 「②採択団体へのインタビュー調査」

11 地域の文化遺産の所有者、保護団体等に、どのような成果や効果があったと思われますか。（意識の変化や交流機会の増加、ボランティアの増加等）

12 地域の文化遺産の保存や活用等の取組を実施したことで、地域や地域住民にどのような成果や効果があったと思われますか。

13 では、事業を実施する上で、現在、問題点や課題となっていることは何ですか。

Ⅲ この事業を継続した場合、補助事業による中長期的な波及効果（impact）についてお答え下さい。

14 地域の文化遺産の保存や活用等の取組を継続的に実施することで、地域の文化遺産が地域や地域住民にどのような役割を果たすと思いますか。

15 地域の文化遺産の保存や活用等の取組を継続的に実施することで、地域の活性化に波及効果があると思われますか。それは具体的にどのような点についてですか。

16 地域の文化遺産の保存や活用等の取組を継続的に実施することで、地域のイメージの変化や向上に効果があると思われますか。それは具体的にどのような点についてですか。

17 地域の文化遺産の保存や活用等の取組を継続的に実施することで、地域の観光振興に波及効果があると思われますか。それは具体的にどのような点についてですか。

18 今後、地域の文化遺産の保存や活用等を継続的に実施していくために、どのように事業を展開する予定ですか。将来のビジョンも含めて教えて下さい。

(4) 「③訪問調査の記入フォーム」

【訪問調査の項目】（文化庁担当者、専門家が、インタビューや観察結果等に基づいてコメントを記入）

I 事業の実施状況について（評価できる点、課題と思われる点を含め、気がついたことを記入）

- 1 地域の文化遺産の保存や継承等の取組内容や方法について
- 2 地域の文化遺産の公開や活用等の取組内容や方法について
- 3 地域の文化遺産に関して、採択団体のスタッフやボランティア等の専門的知識や技術について
- 4 地域の文化遺産に対する地方公共団体の理解や協力の姿勢、協働体制について
- 5 地域の文化遺産の所有者、保護団体等との協働体制について
- 6 地域の教育機関、NPO、市民団体、事業者等との協働体制や取組内容について
- 7 地域の観光産業との協働体制や取組内容について
- 8 地域の文化遺産への公開状況やアクセス等の環境条件について
- 9 採択団体の運営体制やスタッフの対応など
- 10 その他

II 補助事業による成果（outcome）や波及効果（impact）について

- 11 「人材育成や技術・技能の伝承により、地域の文化遺産を次世代に継承すること」への寄与の有無、内容、可能性
- 12 「地域の文化遺産を適切に保存、公開し、広く国民が親しむ機会を提供」への寄与の有無、内容、可能性
- 13 「地域の文化遺産を媒介とすることで、地域の誇りや住民相互の絆を生み出すこと」への寄与の有無、内容、可能性
- 14 「地域の文化遺産を活用することで、地域活性化に資すること」への寄与の有無、内容、可能性

(4) 「③訪問調査の記入フォーム」

15 「地域の文化遺産を活用することで、観光振興に資すること」への寄与の有無、内容、可能性

16 その他、中長期的な視点からみた本事業の成果（outcome）や波及効果（impact）

【総括コメント】（文化庁担当者、専門家が、インタビューや観察結果等に基づいてコメントを記入）

Ⅲ 採択団体や参加者へのインタビュー調査、事業の観察結果等に基づいた総合的な評価結果

17 事業の実施状況、成果（outcome）について

18 本事業の成果（outcome）や波及効果（impact）について

19 補助事業について見直しや改善が求められること

Ⅳ 訪問調査概要

1. 訪問先

地方公共団体策定計画名称： \_\_\_\_\_

地方公共団体名： \_\_\_\_\_

補助事業名： \_\_\_\_\_

補助事業者名： \_\_\_\_\_

見学した文化遺産の名称： \_\_\_\_\_

2. 訪問日時： \_\_\_\_\_

3. 面会者

地方公共団体： \_\_\_\_\_

採択団体： \_\_\_\_\_

地域の文化遺産の所有者、保護団体等： \_\_\_\_\_

： \_\_\_\_\_

その他（ボランティア、地域住民等）： \_\_\_\_\_

： \_\_\_\_\_

### 3. 様式例【Ⅱ】の検討

#### (1) 様式例【Ⅱ】の記入フォーム

	調査指標	調査項目
output 結果	継承(保存・修復等)に関する取組の件数	①ア Q5 「補助対象事業」の活動実績
	情報発信、人材育成の取組、実績	①ア Q5 「補助対象事業」の活動実績
	普及啓発、後継者養成、体験事業の取組の供給量(実施回数等)、需要量(来場者数等)	①ア Q5 「補助対象事業」の活動実績
	地域の文化遺産の来場者数、来場経験、来場頻度	①ア Q3 「補助対象事業」に関する主な文化遺産とその年間入場者数
outcome 成果	各種の取組に対する評価、関係者の意識の変化	①ア Q4 「補助対象事業」のメディアでの実績 ①ア Q7 文化庁の補助による「補助対象事業」の成果 ①ア Q9 文化庁の補助事業の戦略目標の達成に対する補助金の効果の度合い ①イ Q5 「文化遺産の保存や活用等」での成果や効果 ①イ Q6 「情報発信」での成果や効果 ①イ Q7 「人材育成」での成果や効果 ①イ Q8 「普及啓発」での成果や効果 ①イ Q9 「継承」での成果や効果 ①イ Q10 「記録作成や調査研究」での成果や効果 ①イ Q11 地域の文化遺産の所有者や保護団体等への成果や効果 ①イ Q12 地域住民への成果や効果
	地域の文化遺産に対する認知度、興味、関心の向上	①ア Q7 文化庁の補助による「補助対象事業」の成果 ①ア Q9 文化庁の補助事業の戦略目標の達成に対する補助金の効果の度合い ①イ Q5 「文化遺産の保存や活用等」での成果や効果 ①イ Q6 「情報発信」での成果や効果 ①イ Q7 「人材育成」での成果や効果 ①イ Q8 「普及啓発」での成果や効果 ①イ Q9 「継承」での成果や効果 ①イ Q10 「記録作成や調査研究」での成果や効果 ①イ Q11 地域の文化遺産の所有者や保護団体等への成果や効果 ①イ Q12 地域住民への成果や効果
	地域の文化遺産に対する来場者等の満足度	①イ Q11 地域の文化遺産の所有者や保護団体等への成果や効果 ①イ Q12 地域住民への成果や効果

※「評価、改善のポイント」は実際の調査結果に基づいたものではなく、イメージとして記述している。

調査結果の概要(イメージ)	評価、改善のポイント(イメージ)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●年度単位での継承の総実施回数、実施方法とその比率、延べ参加者数</li> <li>●(調査の継続による)採択団体別、地域ブロック別、事業全体の経年変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各都道府県・市町村(特別区含む)が策定した「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化に関する計画」をもとに、情報発信、人材育成、普及啓発、継承、記録作成、調査研究等、地域の文化遺産を活用する多様な取組が戦略的に実施されている。特に、継承(保存・修復等)だけでなく、情報発信、人材育成、普及啓発を積極的に実施する採択団体が増え、地域の文化遺産を公開する機会が増え、広く国民に親しむ機会を創出することができたと考えられる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●年度単位での情報発信の総実施数、実施方法、媒体数、媒体の比率、発行数</li> <li>●年度単位での人材育成の総実施回数、実施方法とその比率、延べ参加者数</li> <li>●(調査の継続による)採択団体別、地域ブロック別、事業全体の経年変化</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●年度単位での普及啓発の総実施回数、実施方法とその比率、延べ参加者数</li> <li>●年度単位での記録作成、調査研究の総実施回数、実施方法とその比率、延べ参加者数</li> <li>●(調査の継続による)採択団体別、地域ブロック別、事業全体の経年変化</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●年度単位での主な文化遺産への年間入場者数、平均入場者数</li> <li>●(調査の継続による)採択団体別、地域ブロック別、事業全体の経年変化</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●アンケートの集計により補助による具体的な成果、文化庁の戦略目標に対する達成度等を分析</li> <li>●アンケートの自由記述形式、インタビューや訪問調査の記録によりエピソードを収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●補助により「地域の文化遺産を訪問、体験する地域住民が増え、文化遺産への理解、関心を持つようになった」、「地域の教育機関と連携し、地域の子どもや青少年が文化遺産を訪問、体験する機会が増えた」と答える採択団体が多く、「小学生が学習の一環として来場した」と数多く報告されている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●アンケートの集計により補助による具体的な成果、文化庁の戦略目標に対する達成度等を分析</li> <li>●アンケートの自由記述形式、インタビューや訪問調査の記録によりエピソードを収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●補助により「地域の文化遺産を公開する機会が充実した」、「地域の文化遺産に関する情報発信のツールが充実する等、国内での認知度を向上させることができた」と答える採択団体が多く、「地域の様々な文化遺産をまとめることで、地域の魅力が高まることがわかりました」というエピソードが報告されており、戦略的な取組により、文化遺産の興味、関心を向上できたと考えられる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●インタビューや訪問調査の記録によりエピソードを収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「地域の文化遺産に関するマニュアルを作成し、説明用員に配布したことで知識の向上につながり、その結果、来場者の満足度も向上しました」というエピソードが報告されている。</li> </ul>

	調査指標	調査項目
impact 波及効果	地域における文化遺産が果たす社会的役割、歴史や伝統に関する意識	①ア Q8 補助による「地域の観光振興、地域活性化」への波及効果 ①ア Q10 補助事業を継続した場合の5年後、10年後の期待される波及効果 ①イ Q14 地域や地域住民への波及効果 ①イ Q15 地域の活性化への波及効果 ①イ Q16 地域のイメージの変化や向上への波及効果 ①訪 Q11 「人材育成や技術・技能の伝承により、地域の文化遺産を次世代に継承すること」への寄与の有無、内容、可能性 ①訪 Q12 「地域の文化遺産を適切に保存、公開し、広く国民が親しむ機会を提供」への寄与の有無、内容、可能性 ①訪 Q13 「地域の文化遺産を媒介とすることで、地域の誇りや住民相互の絆を生み出すこと」への寄与の有無、内容、可能性 ①訪 Q16 中長期的な視点から見た「補助対象事業」の効果や波及効果
	文化遺産が創出する地域振興面での貢献	①ア Q8 補助による「地域の観光振興、地域活性化」への波及効果 ①ア Q10 補助事業を継続した場合の5年後、10年後の期待される波及効果 ①イ Q14 地域や地域住民への波及効果 ①イ Q15 地域の活性化への波及効果 ①イ Q16 地域のイメージの変化や向上への波及効果 ①訪 Q13 「地域の文化遺産を媒介とすることで、地域の誇りや住民相互の絆を生み出すこと」への寄与の有無、内容、可能性 ①訪 Q14 「地域の文化遺産を活用することで、地域活性化に資すること」への寄与の有無、内容、可能性 ①訪 Q16 中長期的な視点から見た「補助対象事業」の効果や波及効果
	文化遺産が創出する観光振興面での貢献	①ア Q8 補助による「地域の観光振興、地域活性化」への波及効果 ①ア Q10 補助事業を継続した場合の5年後、10年後の期待される波及効果 ①イ Q14 地域や地域住民への波及効果 ①イ Q15 地域の活性化への波及効果 ①イ Q16 地域のイメージの変化や向上への波及効果 ①イ Q17 地域の観光振興への波及効果 ①訪 Q12 「地域の文化遺産を適切に保存、公開し、広く国民が親しむ機会を提供」への寄与の有無、内容、可能性 ①訪 Q15 「地域の文化遺産を活用することで、観光振興に資すること」への寄与の有無、内容、可能性 ①訪 Q16 中長期的な視点から見た「補助対象事業」の効果や波及効果

調査結果の概要(イメージ)	評価、改善のポイント(イメージ)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートの集計により補助による地域における文化遺産が果たす社会的役割、歴史や伝統に関する意識への波及効果等を分析</li> <li>● インタビューや訪問調査の記録によりエピソードや今後の可能性を収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 補助により、「地域の文化遺産が地域における象徴的存在として位置付けられるようになった」と答える採択団体が多く、特に「美術館で展示したことによって、山車人形に歴史的価値に美術的価値がプラスされ、地域を象徴する宝となりました」というエピソードも報告されている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートの集計により補助による地域の文化遺産が創出する地域活性化への波及効果等を分析</li> <li>● インタビューや訪問調査の記録によりエピソードや今後の可能性を収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 補助により、「地域の文化遺産を継承するために、文化遺産所有者や保存会等との関係が向上した」、「地域のNPO、市民団体、観光産業とのネットワークを構築することができた」と答える採択団体が多く、「まちづくりを行うNPOや別の文化財保存団体とコラボした企画を実施する過程で、より緊密なネットワークを構築することができました」というエピソードも報告されている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートの集計により補助による地域の文化遺産が創出する観光振興への波及効果等を分析</li> <li>● インタビューや訪問調査の記録によりエピソードや今後の可能性を収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全体として、すぐに観光振興への成果を実感している採択団体は少ないが、補助事業を継続した場合の5年後、10年後に期待される波及効果として「地域の文化遺産を活用することで、観光振興に資すること」と答える採択団体は増加の傾向にあり、「今まで町といった小さい地域でしか活用方法を考えていなかったものが、複数の町が集まって活用方法を検討することで、市全体の誇りとして認知されるということを実感しました。また、JR東日本千葉支社なども見学に来て高評価を得たことで、間違いなく今後の地域活性化や観光振興に繋がっていくと確信しています。」という声もある。</li> </ul>

	調査項目
制度や仕組みの見直し	①ア Q11 補助事業の仕組みの改善や変更の要望 ①ア Q12 補助による「補助対象事業」の改善点 ①イ Q13 採択団体の抱える問題点や課題 ①イ Q18 採択団体の将来のビジョン ③訪 Q17~18 「補助対象事業」の総合的な評価 ③訪 Q17~18 補助事業の仕組みの見直しや改善の要望
採択団体の特徴	①ア Q1 採択団体の事業や活動全体のビジョン ①ア Q2 採択団体の重点を置く取組や活動内容 ①ア Q6 採択団体の協働した団体数とスタッフ数 ①イ Q1 地域の文化遺産の魅力や特徴 ①イ Q2 「補助対象事業」の特徴的な取組や活動内容 ①イ Q3 「補助対象事業」の中心的な役割をする団体の活動内容 ①イ Q4 「補助対象事業」の協働体制 ①イ Q13 採択団体の抱える問題点や課題 ①イ Q18 採択団体の将来のビジョン ①訪 Q1 文化遺産の保存や継承等の取組内容や方法 ①訪 Q2 文化遺産の公開や活用等の取組内容や方法

調査結果の概要(イメージ)	評価、改善のポイント(イメージ)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートの集計により制度や仕組みの見直しの要望や採択団体の抱える問題点や課題、将来への展望を分析</li> <li>● インタビューにより具体的な内容や今後の可能性を収集</li> <li>● インタビューや観察結果等に基づいた総合的な評価結果により、補助事業のポジティブな側面やネガティブな側面を分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「補助対象経費」の改善を希望する採択団体が多く、「新調には10万円の限度があるので、実施できていません。これは文化庁だけでなく、当市の補助金制度も同様ですが、文化財の保存のためには考えていかなければならないと考えています」という声がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各採択団体の規模や特徴、事業・活動内容を把握するための基礎データとして集計</li> </ul>	



## C. 文化芸術創造都市推進事業

---

- 1. 評価の考え方と手順..... 91
  - (1) 評価の基本的な考え方ー戦略目標と評価指標、様式例..... 91
  - (2) 施策の概要、評価指標、及びデータの収集方法と調査項目..... 93



## 1. 評価の考え方と手順

### (1) 評価の基本的な考え方－戦略目標と評価指標、様式例

本調査研究における評価手法は、文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針)に基づいて文化芸術振興施策の着実かつ継続的な実施を図るとともに、国民への説明責任の向上に資するため、「文化芸術創造都市推進事業」のPDCA(計画、実行、検証、改善)サイクルを確立するために検討を行ったものである。

ここでも、他の3つの施策と同様、様式例【Ⅰ】【Ⅱ】の作成を検討したが、次の理由から本施策については適切ではない、という結論に達した。

- 本施策には事業の成果の評価・分析のための計画作成及び実施計画に基づく評価・分析を実施することになっており、専門家からなる評価委員会での検証など、採択団体自身が事業評価を行う仕組みとなっている。実際、これまでの採択団体の中にも、評価のために独自にアンケート調査やインタビュー調査を行っている。
- 本施策は政策提案型のものであり、採択団体の自由な発想に基づいた計画の策定と実施を行うことで、創造都市政策の可能性を模索することが、大きな目的となっていることから、共通のアンケート調査票やインタビュー項目を設定することは適切ではない。

したがって、output(結果)については、事業成果報告書に記載された内容から判断することとし、期待される outcome(効果)、impact(波及効果)に関する評価結果について、採択団体に共通の視点からの記述を依頼する方法とした。

ただし、評価手法を検討するための前提条件となる戦略目標については、他の3つの施策と同様の検討を行い、募集案内に記載された内容や採択団体が実施した事業内容などを参照し、文化庁の担当課とも意見交換を行った上で、次の5つの戦略目標を設定した。

1. 文化芸術の持つ創造性を活用した先駆的かつ多様な取組・事業を開発すること
2. 文化芸術の持つポテンシャル、重要性に対する理解を促進すること
3. 地方自治体、市民団体、民間企業の協働による創造的活動を促進すること
4. 国内における創造都市政策の理解の促進と普及を図ること
5. 文化芸術の持つ創造性を活用して地域課題を解決すること

次いで、この戦略目標に照らし合わせて、「output(結果)」「outcome(成果)」「impact(波及効果)」に対応した評価指標を設定した上で、次のとおり募集案内に記載する依頼文のイメージと評価の視点を作成した。

なお、訪問調査についても事業の視察、関係者へのインタビューに基づき、同じ視点で調査結果を記入する。

## 【募集案内に記載する依頼文と評価の視点】

実施した事業の評価・分析に際しては、以下の視点を盛り込み、その結果を事業成果報告書に記載してください。

### 【outcome(成果)】

- 文化芸術創造都市モデル事業の実施に伴い「創造都市政策・事業」は充実したものとなったか。
- 市民や関係団体の「創造都市」の考え方への理解度は浸透したか。
- 「創造都市政策・事業」の問題点・課題の把握することができたか。
- 「創造都市政策・事業」の今後の方向性や展開イメージは明確になったか。
- 「創造都市政策・事業」の評価手法に進展があったか。
- 文化芸術創造都市モデル事業に今後期待することは何か。

### 【impact(波及効果)】

- 文化芸術の創造性を活用した地域振興、観光・産業振興、社会的課題の解決に向けた今後の計画や展望はあるか。

(2) 施策の概要、評価指標、及びデータの収集方法と調査項目

施策の概要

政策の中での位置付け	
文部科学省(文化庁)の政策体系の中での位置付け	
-	
第3次基本方針の中での位置付け	
重点戦略1 文化芸術活動に対する効果的な支援 ○ 寄付文化の醸成や文化芸術資源の活用を促進するためのインセンティブが働く手法(税制上の措置を含む。)の検討を通じて、民間(企業、団体、個人等)が文化芸術活動に対して行う支援活動を促進するとともに、NPO等の「新しい公共」を担う団体による文化芸術活動を支援する。	
重点戦略5 文化芸術の地域振興、観光・産業振興等への活用 ○ 文化財建造物、史跡、博物館や伝統芸能等の各地に所在する有形・無形の文化芸術資源を、その価値の適切な継承にも配慮しつつ、地域振興、観光・産業振興等に活用するための取組を進める。 ○ 文化芸術創造都市の取組等、新たな創造拠点の形成を支援するとともに、各地域における芸術祭、アーティスト・イン・レジデンス等による地域文化の振興を奨励する。 ○ 衣食住に係る文化をはじめ「くらしの文化」の実態を調査・把握した上で、発掘・再興、連携・交流、発信の局面に応じた振興方策を講ずる	
施策目的	
既存資料の抜粋(募集案内 1)	
・ 文化芸術の創造性を地域振興、観光・産業等に領域横断的に活用し、文化芸術創造都市モデルを構築すること	
評価指標づくりに向けた戦略目標	
1 文化芸術の持つ創造性を活用した先駆的かつ多様な取組・事業を開発すること 2 文化芸術の持つポテンシャル、重要性に対する理解を促進すること 3 地方自治体、市民団体、民間企業の協働による創造的活動を促進すること 4 国内における創造都市政策の理解の促進と普及を図ること 5 文化芸術の持つ創造性を活用して地域課題を解決すること	
事業内容 (平成23年度)	
事業の枠組み	
①文化芸術の持つ創造性を地域振興、観光・産業振興等に領域横断的に活用し、地方自治体、市民団体、マスコミ、企業、大学棟が協働して行う地域課題の解決のための年間を通じた意欲的な取組の実施計画の作成と実施。 ②事業の成果の評価・分析のための計画の作成と評価・分析の実施(評価委員会の検証含む)	
主な採択団体・補助事業名	
②文化芸術創造都市モデルの構築 採択件数:10件(平成22年度+平成23年度) ◆別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会◎ ◆「文化芸術創造都市モデル事業」仙北実行委員会 ◆鶴岡食文化都市推進実行委員会◎ ◆取手アートプロジェクト実行委員会 ◆CPS Through Art 実行委員会◎	

評価指標、データの収集方法と調査項目

	output(結果)	outcome(成果)	impact(波及効果)
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動実績(事業の内容、実施回数、参加者数、パブリシティ件数等)</li> <li>評価・分析の実施状況(評価委員会回数等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施都市の市民の創造都市への理解度</li> <li>(採択団体の)創造都市事業への知識、理解の向上度</li> <li>(採択団体の)当該事業の評価方法の成熟度</li> <li>創造都市関連事業に取り組むアートNPO、芸術団体、企業、市民団体等の数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施都市における文化芸術の創造性を活用した地域振興、観光・産業振興、社会的課題の解決に向けた取組状況</li> <li>実施都市における市民の創造性の向上度合い</li> <li>創造都市の考え方を取り入れる都市・自治体の数</li> </ul>

様式例【I】			
本施策には「事業の成果の評価・分析のための計画作成」及び「実施計画に基づく評価・分析の実施」をすることになっており、専門家からなる評価委員会での検証など、採択団体自身が事業評価を行う仕組みとなっている。実際、これまでの採択団体の中にも、評価のために独自にアンケート調査やインタビュー調査を行っている。 また、本施策は政策提案型のものであり、採択団体の自由な発想に基づいた計画の策定と実施を行うことで、創造都市政策の可能性を模索することが、大きな目的となっていることから、共通のアンケート調査票やグループインタビュー項目を設定することは難しい。 従って、output(結果)については、事業成果報告書に記載された内容から判断することとし、期待される outcome(効果)、impact(波及効果)に関する評価結果について、共通の視点からの記述を依頼する。			
事業成果報告書	<ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の事業内容に基づいた活動実績を記述</li> </ul>	(要項に記載する依頼文のイメージ) 実施した事業の評価・分析に際しては、以下の視点を盛り込み、その結果を事業成果報告書に記載してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術創造都市モデル事業の実施に伴い「創造都市政策・事業」は充実したものとなったか。</li> <li>市民や関係団体の「創造都市」の考え方への理解度は浸透したか。</li> <li>「創造都市政策・事業」の問題点・課題の把握することができたか。</li> <li>「創造都市政策・事業」の今後の方向性や展開イメージは明確になったか。</li> <li>「創造都市政策・事業」の評価手法に進展があったか。</li> <li>文化芸術創造都市モデル事業に今後期待することは何か。</li> </ul>
訪問調査記入フォーム		事業の視察、関係者へのインタビューに基づき、上記の視点から調査結果を記入する。	



## D. 文化芸術の海外発信拠点形成事業

### ①アーティスト・イン・レジデンス事業

---

1. 評価の考え方と手順	97
(1) 評価の基本的な考え方	97
(2) 施策の概要、評価指標、及びデータの収集方法と調査項目	99
(3) 評価の流れ	101
(4) 様式の運用	103
2. 様式例【Ⅰ】の検討	105
(1) 依頼状	105
(2) 「①採択団体アンケート調査」	106
(3) 「②参加者アンケート調査」	116
(4) 「③採択団体、および参加者インタビュー調査」	124
(5) 「④訪問調査記入フォーム」	126
3. 様式例【Ⅱ】の検討	128
(1) 様式【Ⅱ】の記入フォーム	128



## 1. 評価の考え方と手順

### (1) 評価の基本的な考え方－戦略目標と評価指標、様式例

本調査研究における評価手法は、文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針)に基づいて文化芸術振興施策の着実かつ継続的な実施を図るとともに、国民への説明責任の向上に資するため、「文化芸術の海外発信拠点形成事業」のPDCA(計画、実行、検証、改善)サイクルを確立するために検討を行ったものである。

今年度は、施策の成果や効果をより適切かつ効率的に把握できる評価方法を検討するため、様式例【Ⅰ】アンケート調査、インタビュー調査、訪問調査、及び【Ⅱ】施策全体の評価フォームを考案し、様式例【Ⅰ】については、平成23年度の複数の採択団体に対して、その実用性や有効性を検証した。平成24年度には、今回の調査研究の成果に基づいた評価方法の試行を行い、平成25年度の事業から本格実施する予定となっている。

まず、評価手法を検討するための前提条件として、施策ごとに戦略目標の検討を行った。「文化芸術の海外発信拠点形成事業」については、応募要領に記載された内容や採択団体が実施した事業内容などを参照し、文化庁の担当課とも意見交換を行った上で、次の5つの戦略目標を設定した。

1. 日本の文化芸術に対する理解を促進し、日本に対する親近感を醸成すること
2. 国際的な視点から芸術家の創作活動、作品創造に対して貢献すること
3. 日本の文化芸術の水準の向上と海外発信、芸術家等の国際交流を促進すること
4. 創造的人材の交流・滞在によって地域や住民に新たな活力を創出すること
5. 文化芸術を通じた国際的な相互理解を促進すること

次いで、この戦略目標に照らし合わせて、「output(結果)」「outcome(成果)」「impact(波及効果)」に対応した評価指標を設定した上で、評価に必要なデータや調査内容を検討し、様式例【Ⅰ】の設問項目を整理した。

その結果、「文化芸術の海外発信拠点形成事業」では、次のとおり2種類のアンケート調査、2種類のインタビュー調査、訪問調査に関する様式例【Ⅰ】とそれらを活用して収集したデータや調査結果を集約する様式例【Ⅱ】を作成した。

#### 【様式例Ⅰ】

##### ① 採択団体アンケート調査

採択団体が、補助(助成)を受けた立場から事業の実績等について回答いただくアンケート調査票である。採択団体の回答結果から、「文化芸術の海外発信拠点形成事業」の実績や成果、効果を把握するとともに、採択団体自身が、事業の成果についての振り返りや改善を行うことを目的にしている。

なお、実際にこのアンケート調査を実施する際には、別途、採択団体に提出を依頼している事業報告書との過不足を調整し、採択団体に過度の負担とならない工夫が必要である。

## ② 参加者アンケート調査

「文化芸術の海外発信拠点形成事業」の補助対象のうち、事業に参加した芸術家・芸術団体が、アーティスト・イン・レジデンスに滞在した立場で、来日の経緯や動機、事業や運営に対する感想や意見などを回答いただくアンケート調査票である。参加者の回答結果から、「文化芸術の海外発信拠点形成事業」の実績や成果、効果を把握するとともに、採択団体自身が、事業の成果についての振り返りや改善を行うことを目的にしている。

## ③ 採択団体、及び参加者インタビュー調査

文化庁の調査員もしくは当該分野の専門家が、「文化芸術の海外発信拠点形成事業」の実施中に現地を訪問し、採択団体、及び参加者にインタビュー調査を行うための項目を整理したものである。「文化芸術の海外発信拠点形成事業」の実績や成果、効果について、アンケート調査では把握しきれないエピソードや定性的な効果などを調査、把握することを目的としている。

## ④ 訪問調査記入フォーム

文化庁の調査員もしくは当該分野の専門家が、「文化芸術の海外発信拠点形成事業」の実施中に現地を訪問し、事業の実施状況の観察、関係者へのインタビュー調査などの結果に基づいたレポートを作成するための項目を整理したものである。第三者の立場から、「文化芸術の海外発信拠点形成事業」の実績や成果、効果を把握するための基礎的な資料を作成することを目的としている。

### 【様式例Ⅱ】

上記の様式例【Ⅰ】によって個別の採択団体から収集したデータや調査結果を、「文化芸術の海外発信拠点形成事業」全体として集約するフォームである。その際、output(結果)、outcome(効果)、impact(波及効果)などそれぞれの評価の視点から①～⑤までの調査結果を整理・分類した上で調査結果を統合・分析し、評価や改善が必要な点を検証するための様式例となっている。

(2) 施策の概要、評価指標、及びデータの収集方法と調査項目

施策の概要

政策の中での位置付け
<p>文部科学省(文化庁)の政策体系の中での位置付け</p> <p>③日本文化の発信及び国際文化交流の推進 文化芸術振興、文化財保護等の分野における国際文化交流の取組を推進することにより、我が国の文化芸術活動の水準を向上し、文化を通じて国際社会に貢献し、諸外国との相互理解の推進を図る。 ◆我が国の芸術家や芸術団体による海外公演や、海外の芸術団体と我が国の芸術団体とが共同制作公演などを行うことにより、文化芸術振興及び国際文化交流を推進する。</p>
第3次基本方針の中での位置付け
<p>重点戦略6 文化発信・国際文化交流の充実</p> <p>○舞台芸術、美術工芸品等の海外公演・出展、国際共同制作等への支援を充実する。 ○将来的な東アジア共同体の構築も念頭に置き、東アジア芸術創造都市や大学間交流における活動等、東アジア地域における文化芸術活動を推進する。</p>
施策目的
<p>既存資料からの抜粋(募集要項「I.1.事業概要」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本各地に文化創造と国際的発信の拠点づくりを推進すること</li> </ul>
評価指標づくりに向けた戦略目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>日本の文化芸術に対する理解を促進し、日本に対する親近感を醸成すること</li> <li>国際的な視点から芸術家の創作活動、作品創造に対して貢献すること</li> <li>日本の文化芸術の水準の向上と海外発信、芸術家等の国際交流を促進すること</li> <li>創造的人材の交流・滞在によって地域や住民に新たな活力を創出すること</li> <li>文化芸術を通じた国際的な相互理解を促進すること</li> </ol>

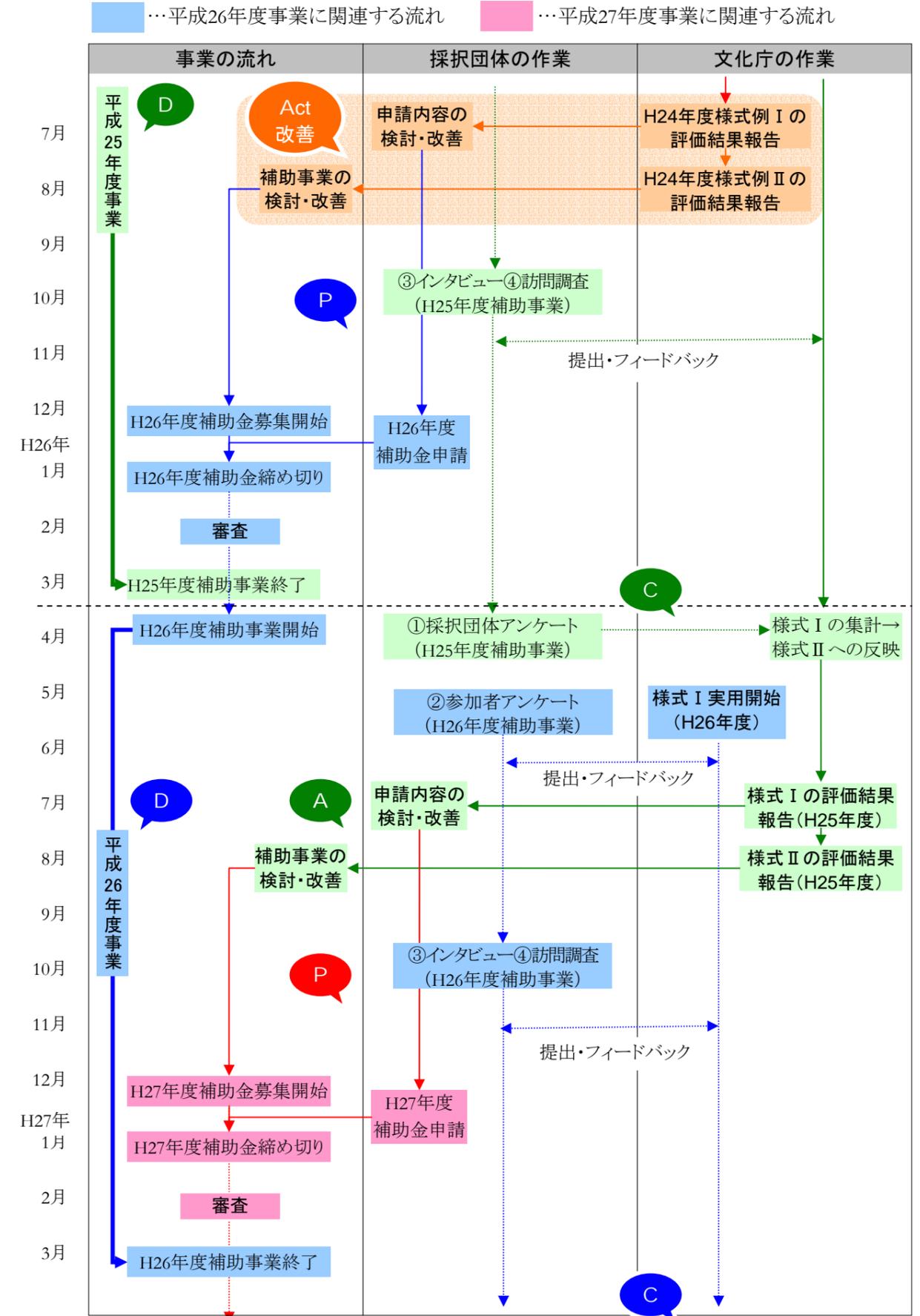
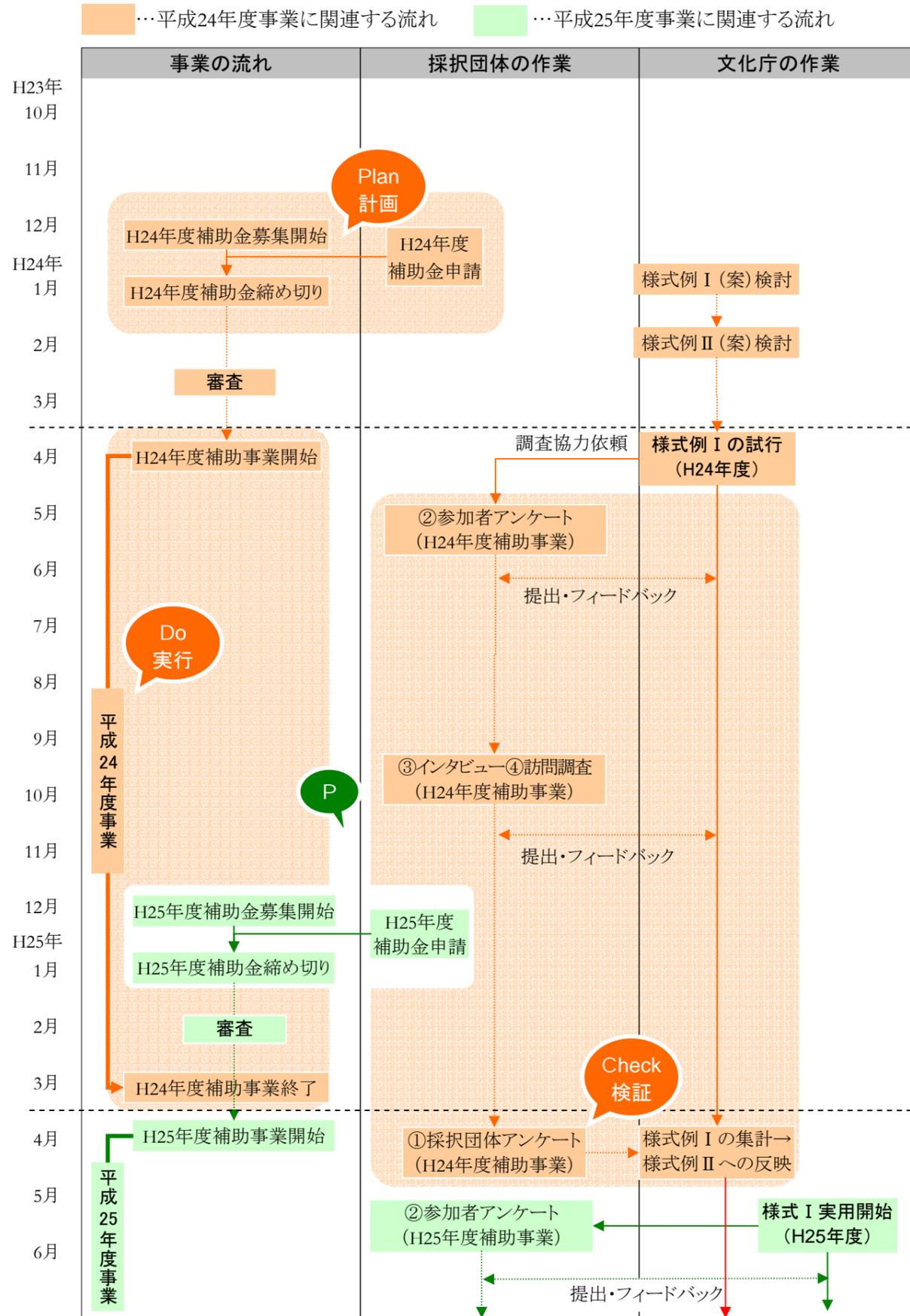
事業内容 (平成23年度)
事業の枠組み
<p>①アーティスト・イン・レジデンス事業</p> <p>A:外国人芸術家を招へいして行う滞在型の芸術創造支援プログラム(必須、30日以上)、B:外国人研究者・学芸員を招へいして行う滞在型の我が国文化芸術の研究支援プログラム、C:招へい外国人芸術家による創作作品の発表機会の提供、D:招へい外国人芸術家又は研究者・学芸員によるリサーチ活動、E:招へい外国人芸術家と国内芸術家との共同創作活動、F:招へい外国人芸術家又は研究者・学芸員による講演会・セミナー・ワークショップ・シンポジウム等の活動</p> <p>②アーティスト・イン・レジデンス類似・関連事業</p> <p>○国際展等の国際芸術フェスティバルにおいて、外国人芸術家を招へいして行う滞在型の芸術創造、展覧会・公演等のプログラム、○アーティスト・イン・レジデンス及び芸術系大学等教育機関との連携により行われる共同創作、展覧会・公演等のプログラム、○優れた外国人芸術家を招へいして行う滞在型の国内外若手芸術家の教育プログラム、○アーティスト・イン・レジデンスのネットワーク構築のためのセミナー・シンポジウム等の開催</p>
主な採択団体・補助事業名
<p>①採択件数:20件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆アークプロジェクト実行委員会◎</li> <li>◆公益財団法人セゾン文化財団 レジデンス・イン・森下スタジオ◎</li> <li>◆越後妻有大地の芸術祭の里 オーストラリア・ハウスAIR</li> <li>◆特定非営利活動法人ダンスボックス DANCE BOX Resident Program 2011 等</li> </ul> <p>②採択件数:7件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト</li> <li>◆有限会社アゴラ企画</li> <li>◆特定非営利活動法人 BankART1929 等</li> </ul>

評価指標、評価データの収集方法と調査項目 ①アーティスト・イン・レジデンス事業

評価指標	output(結果)	outcome(成果)	impact(波及効果)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動実績(招へい者数、滞在日数、展覧会等の開催回数、参加者数、パブリシティ件数等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人芸術家の創作活動・作品に与えた効果:AE</li> <li>外国人芸術家・研究者・学芸員の日本の文化芸術に対する理解促進に与えた効果:ABD</li> <li>国内の芸術家・芸術団体の海外進出の機会の増大:BE</li> <li>国内のAIR事業の拠点(プラットフォーム)の増加、質的向上に与えた効果</li> <li>地域住民の外国人芸術家の創作活動・作品に対する興味、理解の促進に与えた効果:CF</li> <li>地域住民の文化芸術活動の活性化に与えた効果(ボランティア、NPO)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(外国人芸術家や研究者・学芸員を通じた)日本に対する理解、親密度の促進に与えた効果</li> <li>国際的な文化交流(芸術家・研究者・学芸員のモビリティ)の活性化に与えた効果</li> <li>AIR事業を通じた国際的な芸術表現・作品に関する質的向上、発展(日本の貢献度)</li> <li>日本の文化芸術に関する国際的な発信度の向上</li> <li>創造的人材の定住・交流の促進</li> </ul>

様式例【I】 アンケート調査の設問項目			
①採択団体アンケート調査(事業報告書と連動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人芸術家・研究者・学芸員数、滞在日数、延日数</li> <li>展覧会・演奏会等の実施回数、観客数</li> <li>リサーチ実施人数(芸術家・研究者・学芸員)</li> <li>共同創作活動数・作品数</li> <li>講演会・セミナー・ワークショップ等の実施回数、参加者数</li> <li>パブリシティ件数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金によって充実できた事項(招へい人数、滞在日数、施設、運営スタッフ、広報、プログラム等印刷物等)</li> <li>AIR事業の質的向上への効果</li> <li>事業の効果や成果に関するエピソード(自由記述、A~F別に)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本に対する理解、親密度の促進に与えた効果</li> <li>国際的な文化交流の促進に対する当該事業の貢献度</li> <li>諸外国に対する日本文化のアピール度</li> </ul>
②参加者アンケート調査(芸術家・研究者・学芸員向け)		<ul style="list-style-type: none"> <li>当該事業に関する満足度(受入体制、事業内容)</li> <li>日本の文化芸術の理解促進に与えた効果</li> <li>母国の芸術家・研究者・学芸員への当該事業の推薦の意向</li> <li>(リサーチをした)日本の文化芸術・芸術家等の母国への紹介の意向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の創作活動や作品表現に与えたインパクトの大きさ</li> <li>今後の日本との共同創作への関心</li> <li>日本以外のAIR事業への参加意向の増大</li> </ul>
様式例【I】 インタビュー、訪問調査記入フォームの設問項目			
③採択団体、及び参加者インタビュー調査(採択団体:上段、参加者-芸術家・研究者・学芸員:下段)		<ul style="list-style-type: none"> <li>事業や運営面での効果</li> <li>創作活動、研究活動における成果、効果</li> <li>日本の文化芸術の理解促進の効果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続による将来的な波及効果</li> <li>今後の創作活動に向けた展望</li> </ul>
④訪問調査記入フォーム		<ul style="list-style-type: none"> <li>芸術家・研究者・学芸員の滞在、創作活動の環境</li> <li>芸術家・研究者・学芸員に対する創作活動・リサーチ活動への支援状況</li> <li>展覧会・演奏会における芸術家と地域住民の交流の様子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の将来性、発展性</li> </ul>

(3) 評価の流れ



(4) 様式の運用

様式例Ⅰ	①採択団体アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体に対して、本アンケート調査の回答が、次年度以降の採択を直接左右するものではなく、採択団体の実態や施策全体の成果や効果を把握することが目的であることを、理解していただく。</li> <li>各採択団体が事業終了後に提出する事業報告書が求める記入内容との重複を避けて、回答に負荷がかからないようにする。</li> </ul>
	②参加者アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体に対して参加者への配布・回収作業への協力を依頼する。また、文化庁が集計・分析を行い、個別の採択団体や全体との相対比較など、分析結果を採択団体にフィードバックする。</li> <li>アンケート調査の主体や目的(文化庁が、施策の今後のあり方について調査すること)を調査票に明記する。</li> </ul>
	③採択団体、及び参加者インタビュー調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>インタビューを行う担当者(文化庁職員もしくは PD・PO 等の専門官)の、芸術性や社会性に対する理解や解釈の能力(リテラシー)が、一定の許容範囲である必要がある。</li> <li>抽象的な理念や傾向よりも、具体的な経験やエピソードなどの発言を引き出す。</li> </ul>
	④訪問調査記入フォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価できる点、課題と思われる点については、採択団体の設置目的(ミッション)、都市規模、立地特性、設立年数などの要素を把握した上で、施策の目指す目的に沿って記述する。</li> </ul>
様式例Ⅱ	調査結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査の集計の結果は、単純合計や全体の平均値だけでなく、調査指標に応じてクロス集計や経年変化などの分析を加えた上で、多面的に傾向を把握する。</li> <li>インタビュー調査の結果から特徴的なものを抽出する場合は、評価や課題のポイントが見えやすいものを、できるだけ属性に偏りがないように、幅広く抽出する。</li> </ul>
	評価・改善のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査結果の概要について、施策の目的や戦略目標に照らし合わせながら、総体としての評価や課題を浮き彫りにする。</li> <li>評価が明確に浮かび上がるポイントについては、できるだけ定量的なデータとエピソードを合わせて記述する。</li> <li>課題が明確に浮かび上がるポイントについては、課題の要因を掘り下げて考察する。</li> </ul>



## 2. 様式 I の検討

### (1) 依頼状

〇〇〇〇年〇月〇日

〇〇〇〇〇〇御中

文化庁長官官房国際課

「文化芸術の海外発信拠点形成事業」の評価・改善に関する御協力をお願い

拝啓 時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

「文化芸術の海外発信拠点形成事業」の実施に当たりましては、平素より御協力を賜り厚くお礼申し上げます。文化庁では、本事業の効果や問題点、課題を把握し、事業の内容や仕組みの改善に取り組むとともに、より効果的な事業や文化政策のあり方の検討につなげていく予定です。

そのため、このたび、文化庁では、①採択団体アンケート調査、②参加者アンケート調査、③採択団体及び参加者インタビュー調査、④訪問調査を実施することといたしました。これらの調査等は、貴団体の事業や成果を評価するためのものではなく、文化庁の「文化芸術の海外発信拠点形成事業」の成果や課題を把握し、改善していくために実施するものです。

つきましては、御多忙のところ誠に恐縮ですが、趣旨を御理解いただき、何とぞ御協力くださるよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

問い合わせ先:

文化庁長官官房国際課 〇〇〇〇、〇〇〇〇

電話: XX-XXXX-XXXX

住所: 〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

(2) 「①採択団体アンケート調査」

I 平成23年度の貴団体の事業や活動全体の概要についてお答えください。

Q1 貴団体の事業や活動全体の目的（「文化芸術の海外発信拠点形成事業（アーティスト・イン・レジデンス事業）」の補助対象事業以外のもを含む）を簡潔に御記入ください。

Q2 貴団体の実施している事業や活動全体について、箇条書きで簡潔に御記入ください。

Q3 平成23年度の貴団体の組織体制についてお答えください。

総スタッフ数(ボランティア除く) \_\_\_\_\_ 人 (内常勤スタッフ \_\_\_\_\_ 人) ボランティア \_\_\_\_\_ 人

Q4 平成23年度の財務計画と実績についてお答えください。

収入	申請時の予算	平成23年度実績
事業収入	百万円	百万円
指定管理料	百万円	百万円
補助金（地方公共団体）	百万円	百万円
補助金（文化庁）	百万円	百万円
助成金（文化庁以外の公的団体）	百万円	百万円
助成金・協賛金（民間財団/企業等）	百万円	百万円
その他	百万円	百万円
収入 計	百万円	百万円
支出	申請時の予算	平成23年度実績
事業費	百万円	百万円
管理費	百万円	百万円
人件費	百万円	百万円
その他	百万円	百万円
支出 計	百万円	百万円

※このアンケート調査は実際には年度終了後に実施を予定しているものですので、上記の平成23年度実績については、空欄のままで結構です。

(2) 「①採択団体アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
Q1・Q2 団体の概要把握 Outcome(成果)	<b>【目的】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>当該事業を実施している団体の特性や事業・活動の内容を把握。</li> </ul> <b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業の目的や内容の見直しに活用。</li> </ul> <b>【事業・施策のアピール】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の特性や活動の広がりをアピール。</li> </ul> <b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし。</li> </ul>
Q3・Q4 団体の概要把握	<b>【目的】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>当該事業を実施している団体の規模を把握。</li> </ul> <b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>経年変化の把握・分析（採択団体別及び採択団体全体）。当該事業（採択団体）の規模の変化を把握。</li> </ul> <b>【事業・施策のアピール】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の発展をアピール。</li> </ul> <b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし。（補助事業の収支決算は報告事項）</li> </ul>

(2) 「①採択団体アンケート調査」

Ⅱ 平成23年度の文化庁の補助事業によって実施した活動の実績と補助の効果についてお答えください。

Q5 「文化芸術の海外発信拠点形成事業（アーティスト・イン・レジデンス事業）」の補助対象事業（以下、「補助対象事業」）の活動実績についてお答えください。

① 外国人芸術家を招へいして行う滞在型の芸術創造支援プログラム		
招へい者数（実施の場合のみ）	人	
招へい分野（〇はいくつでも可）	1 美術      2 メディア芸術      3 デザイン      4 工芸 5 音楽      6 舞踊                  7 演劇              8 映画 9 その他（具体的に_____）	
滞在日数（複数の場合は平均日数）	日	
公募の有無	1 公募した	2 公募していない
応募者数（公募の場合のみ）	人	
公募以外の具体的な選考方法		
② 外国人研究者・学芸員を招へいして行う滞在型の我が国文化芸術の研究支援プログラム		
実施の有無	1 実施した	2 実施していない(→③へ)
招へい者数	人	
招へい分野（〇はいくつでも可）	1 美術      2 メディア芸術      3 デザイン      4 工芸 5 音楽      6 舞踊                  7 演劇              8 映画 9 その他（具体的に_____）	
滞在日数（複数人数の場合は平均）	日	
公募の有無	1 公募した	2 公募していない
応募者数（公募の場合のみ）	人	
公募以外の具体的な選考方法		
③ 招へい外国人芸術家による創作作品の発表機会の提供（小規模な展覧会、演奏会等）		
実施の有無	1 実施した	2 実施していない(→④へ)
発表形態（〇はいくつでも可）	1 オープン・スタジオ      2 展覧会      3 演奏会 4 舞台公演      5 ワーク・イン・プログレス公開 6 その他（具体的に_____）	
実施日数・回数	日（オープンスタジオ、展覧会を実施した場合）	
実施回数	回（演奏会、舞台公演等の場合）	
延べ観客数	人	
④ 招へい外国人芸術家又は研究者・学芸員によるリサーチ活動		
実施の有無	1 実施した	2 実施していない(→⑤へ)
⑤ 招へい外国人芸術家と国内芸術家との共同創作活動		
実施の有無	1 実施した	2 実施していない(→⑥へ)
⑥ 招へい外国人芸術家又は研究者・学芸員による講演会・セミナー・ワークショップ・シンポジウム等の活動		
実施の有無	1 実施した	2 実施していない（Q6へ）
延べ参加者数（実施した場合）	人	
④リサーチ活動、⑤共同創作活動、⑥講演会等を実施した場合、その内容を簡潔に御記入ください。		

(2) 「①採択団体アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
Q5 output(結果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 当該事業における実績、具体的な活動内容を把握。</li><li>• 人数、日数、回数が多寡によって評価は行わない。</li></ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 人数、日数、回数等については経年変化の把握・分析（採択団体別及び採択団体全体）。</li><li>• 2～3年の実績に基づいて、必要な場合、分野、対象事業等の見直しに活用。</li></ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 多様な分野の芸術家・研究者・学芸員がこの事業によって日本に一定期間滞在し、様々な交流が生まれたことを数字（例：総延べ滞在人日数等）でアピール。</li></ul> <p><b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 記載項目には含まれているが、自由記述形式。</li></ul>



(2) 「①採択団体アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
Q6・Q7 output(結果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>招へい者の年齢、性別、出身地域・国を把握</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経年変化の把握・分析（採択団体別及び採択団体全体）。</li> <li>2～3年の実績に基づいて、重点招へい地域・国などを設定することも可能。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な国々や地域の芸術家・研究者・学芸員がこの事業によって日本に一定期間滞在し、様々な交流が生まれたことをアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし。</li> </ul>
Q8 output(結果) outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パブリシティの件数、内容を把握。件数の多寡によって評価は行わない。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主要な記事の内容から outcome（成果）に関するエピソードを収集。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>outcome（成果）のエピソードに基づいて事業の成果をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし。</li> </ul>
Q9 outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>補助による具体的な成果を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2～3年の実績に基づいて、必要な場合、対象事業等の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>outcome（成果）の内容をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>記載項目には含まれているが、自由記述形式。</li> </ul>

(2) 「①採択団体アンケート調査」

**Q10 文化庁の設定した「文化芸術の海外発信拠点形成事業（アーティスト・イン・レジデンス事業）」の戦略目標の達成に対して、文化庁の補助金はどの程度効果があったと思われますか。（○は各項目ひとつずつを選択）**

	1 大いに あった	2 ある程度 あった	3 あまり なかった	4 まったく なかった
(記入見本)	1	②	3	4
1 日本の文化芸術に対する理解を促進し、日本に対する親近感を醸成すること	1	2	3	4
2. 国際的な視点から芸術家の創作活動、作品創造に対して貢献すること	1	2	3	4
3. 日本の文化芸術の水準の向上と海外発信、芸術家等の国際交流を促進すること	1	2	3	4
4. 創造的人材の交流・滞在によって地域や住民に新たな活力を創出すること	1	2	3	4
5. 文化芸術を通じた国際的な相互理解を促進すること	1	2	3	4

上記の5つの項目について、平成23年度の文化芸術の海外発信拠点形成事業の事業計画では、どの項目に重点を置いていましたか。より重点を置いた項目から順番に1～5の番号を記入してください（取り組んでいない項目は記入不要です）。

①		②		③		④		⑤	
---	--	---	--	---	--	---	--	---	--

これら5つの目標に関して特に効果があったと思われることがあれば、具体的な内容を簡潔に御記入ください。

**Q11 「文化芸術の海外発信拠点形成事業（アーティスト・イン・レジデンス事業）」を継続することで、5年後、10年後にどのような効果が期待できると思われますか。（○は各項目ひとつずつを選択）**

	1 大いに できる	2 ある程度 できる	3 あまり できない	4 まったく できない
(記入見本)	1	2	③	4
1 日本の文化芸術に対する理解を促進し、日本に対する親近感を醸成すること	1	2	3	4
2. 国際的な視点から芸術家の創作活動、作品創造に対して貢献すること	1	2	3	4
3. 日本の文化芸術の水準の向上と海外発信、芸術家等の国際交流を促進すること	1	2	3	4
4. 創造的人材の交流・滞在によって地域や住民に新たな活力を創出すること	1	2	3	4
5. 文化芸術を通じた国際的な相互理解を促進すること	1	2	3	4

**Q12 「文化芸術の海外発信拠点形成事業（アーティスト・イン・レジデンス事業）」の仕組みについて、改善や変更を希望するものはありますか。（○はいくつでも可）**

- 1 募集や審査、内定通知の時期や期間（具体的な内容は平成24年度の応募要領 p.1 を御覧ください）
- 2 外国人芸術家、外国人研究者・学芸員の最低滞在期間（同 p.2）
- 3 対象事業（同 p.2）
- 4 対象事業の規模（同 p.4）
- 5 補助の条件（同 p.4）
- 6 補助金の額（同 p.6 を御覧ください）
- 7 補助期間（同 p.7）
- 8 審査の視点（同 p.8）
- 9 事業実施後の評価（同 p.8）
- 10 補助対象経費、補助対象外経費（同 p.10-11, 13）
- 11 その他（以下の自由記述欄に具体的な内容を御記入ください）

「11 その他」を含め、Q12で選択した項目について、具体的な改善や変更を希望する内容を簡潔に御記入ください。

(2) 「①採択団体アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
<p>Q10 outcome(成果)</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体からみた補助事業の目的達成度を把握。自由記述欄から outcome (成果) に関するエピソードを収集。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3～5年の実績に基づいて、事業の目的や内容の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>補助事業の目的達成度、エピソードの内容をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし。</li> </ul>
<p>Q11 outcome(成果) Impact(波及効果)</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体からみた補助事業を継続した場合の outcome (成果)、impact (波及効果) の見込みを把握</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2～3年の実績に基づいて、事業の目的や内容の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>補助事業の長期的な成果、波及効果をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし</li> </ul>
<p>Q12 制度や仕組みの見直し</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>制度や仕組みの見直しに関する要望を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>制度や仕組み、応募要領の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>制度や仕組みの改善をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし。</li> </ul>



(2) 「①採択団体アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
Q13・Q14 outcome(成果) Impact(波及効果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術の海外発信の拠点形成にとって補助事業がどのような outcome (成果)、impact (波及効果) をどの程度有するかを把握</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3～5年の実績に基づいて、事業の目的や内容の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術の海外発信の拠点形成における補助事業の重要性をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし。</li> </ul>
Q15 制度や仕組みの見直し	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の抱える問題点や課題、将来展望を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業の目的や内容の見直し、新たな支援制度の検討、種の発掘に活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>制度や仕組みの改善をアピール。</li> </ul> <p><b>【平成23年度の事業報告書様式との整合性・関連性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目なし。</li> </ul>

(3) 「②参加者アンケート調査」

I 最初に、このアーティスト・イン・レジデンス事業に参加した経緯や動機をお尋ねします。

**Q1 参加されたアーティスト・イン・レジデンス事業の情報はどのようにして入手されましたか。**

1. 参加したアーティスト・イン・レジデンス事業の運営団体からの情報提供。
2. 参加したアーティスト・イン・レジデンス事業の運営団体のホームページ。
3. 御自分のお住まいの国のアーティスト・イン・レジデンス事業の運営団体や芸術専門機関からの情報提供。
4. 知人や友人からの情報提供。
5. その他（具体的に御記入ください。）

**Q2 参加を決める前に他のアーティスト・イン・レジデンス事業との比較を行いましたか。（〇はひとつを選択）**

1. 日本の他のアーティスト・イン・レジデンス事業と比較した。（→Q3に御回答下さい）
2. アジアの他のアーティスト・イン・レジデンス事業と比較した。（→Q3に御回答下さい）
3. アジア以外の他の国々のアーティスト・イン・レジデンス事業と比較した。（→Q3に御回答下さい）
4. 比較は行っていない。（→Q4へお進み下さい）

**Q3 （Q2で、1. 2. 3.のいずれかを選ばれた方に）具体的に比較したアーティスト・イン・レジデンス事業の国とプログラム名を御記入下さい。**

**Q4 参加を決めた理由についてお答え下さい。（〇はいくつでも可）**

1. 日本に滞在し、作品の創造活動やリサーチに取り組むことができるから。
2. 日本で作品の発表や、講演会やセミナー、ワークショップができるから。
3. 日本の芸術家や研究者・学芸員との交流やネットワーク形成ができるから。
4. 創作や研究活動に対する支援の内容や体制が整っているから。
5. 創作や研究活動のできる施設が充実しているから。
6. 滞在できる宿泊施設が魅力的だから。
7. 滞在できる日本の都市や町が魅力的だから。
8. 問い合わせに対する運営団体の対応や応募の段階でのやりとりが丁寧で、安心できたから。
9. その他（具体的に御記入ください。）

II 次に、このアーティスト・イン・レジデンス事業に参加された御感想や御意見をお尋ねします。

**Q5 このアーティスト・イン・レジデンス事業で、あなた御自身が行った活動についてどのように思われますか。（〇は各項目ひとつずつを選択）**

	1 たいへん 満足	2 まあ 満足	3 少し 不満足	4 まったく 不満足	5 実施して いない
（記入見本）	1	2	3	4	5
1. 芸術作品の創作活動	1	2	3	4	5
2. 日本の文化芸術に関する研究活動	1	2	3	4	5
3. 創作作品の発表（小規模な展覧会や公演、オープンスタジオ等）	1	2	3	4	5
4. 日本の芸術家との共同創作活動	1	2	3	4	5
5. 講演会やセミナー、シンポジウム、ワークショップ	1	2	3	4	5
6. 日本の芸術家や研究者・学芸員との交流、ネットワークづくり	1	2	3	4	5
7. 地域の住民や子どもたちとの交流	1	2	3	4	5

(3) 「②参加者アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
Q1 activity(運営)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の情報入手経路を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の PDCA に活用し、運営や事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <p>—</p>
Q2・Q3 activity(運営) outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の他の類似事業との比較の有無、比較対象の把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>比較対象となった AIR 事業の内容を調査することによって、採択団体の PDCA や本事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他国と比較の上、日本の AIR 事業を選択した実績をアピール。</li> </ul>
Q4 activity(運営) outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の参加の動機や AIR 事業の選定に際して重視した事項を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の PDCA や本事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本事業に対するニーズをアピール。</li> </ul>
Q5 activity(運営) outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業面に関する参加者の満足度（採択団体の改善ポイント）を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の PDCA や本事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本事業の成果をアピール。</li> </ul>

(3) 「②参加者アンケート調査」

**Q6 このアーティスト・イン・レジデンス事業で、あなたが受けた運営団体からのサポート、施設・設備、時期や期間についてどのように思われますか。(〇は各項目ひとつずつを選択)**

	1 たいへん 満足	2 まあ 満足	3 少し 不満足	4 まったく 不満足	5 受けて いない
(記入見本)	1	2	3	④	5
1. 事業や施設、支援内容、公募や応募に関する情報提供	1	2	3	4	5
2. 来日までのサポートや受入体制	1	2	3	4	5
3. 創作活動、研究活動に対する情報提供やサポート(資金・施設を除く)	1	2	3	4	5
4. 創作活動、研究活動に対する資金援助	1	2	3	4	5
5. 創作活動、研究活動を行う施設、設備	1	2	3	4	5
6. 作品の発表や講演会、ワークショップ等を実施するためのサポート	1	2	3	4	5
7. 日本の芸術家との共同創作活動に対する情報提供やサポート	1	2	3	4	5
8. 生活や滞在に関する情報提供やサポート(資金・施設を除く)	1	2	3	4	5
9. 日当など生活や滞在に対する資金援助	1	2	3	4	5
10. 宿泊・滞在場所などの施設、設備	1	2	3	4	5
11. レジデンス事業の実施時期	1	2	3	4	
12. レジデンス期間の長さ	1	2	3	4	

**Q7 このアーティスト・イン・レジデンス事業について改善してほしいことがあれば自由に御記入下さい。  
Q6で実施時期や期間について3もしくは4を選ばれた方は、希望される時期や期間を御記入ください。**

**Q8 このアーティスト・イン・レジデンス事業への参加に際して、創作活動や研究活動の他に、実施することが条件となっていた活動はありますか。該当するものをお選び下さい。(〇はいくつでも可)**

- |                                     |                    |
|-------------------------------------|--------------------|
| 1. 芸術作品の制作                          | 2. 制作した作品の寄贈       |
| 3. 小規模の展覧会や公演、オープンスタジオ              | 4. 講演会やセミナー、シンポジウム |
| 5. 地域の住民や子どもたちを対象にしたワークショップや交流プログラム |                    |
| 6. その他(具体的に _____ )                 |                    |

**Q9 (Q8でどれかをお選びになった方へ)では、それらの活動に取り組むことによって、御自身の創作活動や研究活動にどのような影響がありましたか。良かったことだけでなく障害となったことがあれば、それもあわせて御記入下さい。**

**Q10 総合的にみて、このアーティスト・イン・レジデンス事業についてどのように思われますか。(〇はひとつを選択)**

1. たいへん満足                      2. まあ満足                      3. 少し不満足                      4. まったく不満足

(3) 「②参加者アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
Q6・Q7 activity(運営) outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運営面に関する参加者の満足度（採択団体の改善ポイント）を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の PDCA や本事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本事業の成果をアピール。</li> </ul>
Q8・Q9 activity(運営) outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>創作活動、研究活動以外の活動の条件とその影響を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の PDCA や本事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本事業の成果をアピール。</li> </ul>
Q10 activity(運営) outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の総合満足度を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の PDCA や本事業の改善につなげる。ある程度のサンプル数が集まれば、満足層、不満足層に分けて、他の設問とクロス集計・分析が可能。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本事業の成果をアピール。</li> </ul>

(3) 「②参加者アンケート調査」

**Q11 このアーティスト・イン・レジデンス事業に参加して、あなた自身の活動やお仕事にどのような成果があったと思われますか。(〇はいくつでも可)**

- 1 日本の文化芸術に対する理解が深まり、日本や滞在した都市、地域に対する親近感が高まった。
- 2 芸術家としての芸術家としての創作活動や将来の作品づくりにプラスになった。
- 3 研究者や学芸員として日本の文化芸術に関する理解が進み、将来の研究活動、展覧会企画活動にプラスになった。
- 4 日本の芸術家との交流やコラボレーションを通して、互いのキャリアアップにプラスになった。
- 5 日本の芸術家と、将来、共同で作品創作などに取り組めるきっかけになった。
- 6 日本以外から参加した芸術家や研究者・学芸員との交流やネットワークづくりができた。
- 7 地域の子どもたちや住民との出会いや交流から、自身の芸術活動や研究活動に新たな発見や可能性が生まれた。
- 8 国際的な芸術活動や研究活動に対して、これまでよりも積極的に参加したいと思うようになった。
- 9 その他 (以下の自由記述欄に具体的な内容を御記入ください)

上記の選択肢にとらわれることなく、具体的な内容を簡潔に御記入ください。

**Q12 あなたは、お知り合いの芸術家や研究者、学芸員にこのアーティスト・イン・レジデンス事業への参加を勧めますか。(〇はひとつを選択)**

1. ぜひ勧めたい                      2. まあ勧めたい                      3. あまり勧めない                      4. まったく勧めない

**Q13 あなたは、日本滞在中に知り合った日本の芸術家との共同創作や、日本の文化芸術の自国への紹介に取り組みたいと思いますか。(〇はひとつを選択)**

1. ぜひ取り組みたい      2. まあ取り組みたい      3. あまり取り組みたくない      4. まったく取り組みたくない

**Q14 (Q13で1または2を選択された方へ) 具体的なアイデアやプランがあれば御記入下さい。**

**Q15 では、このアーティスト・イン・レジデンス事業を継続することで、どのような効果が期待できると思われますか。(〇は各項目ひとつずつを選択)**

	1 大いに できる	2 ある程度 できる	3 あまり できない	4 まったく できない
(記入見本)	1	2	3	4
1. 日本の文化芸術に対する理解を促進し、日本に対する親近感を醸成すること	1	2	3	4
2. 国際的な視点から芸術家の創作活動、作品創造に対して貢献すること	1	2	3	4
3. 日本の文化芸術の水準の向上と海外発信、芸術家等の国際交流を促進すること	1	2	3	4
4. 創造的人材の交流・滞在によって地域や住民に新たな活力を創出すること	1	2	3	4
5. 文化芸術を通じた国際的な相互理解を促進すること	1	2	3	4

**Q16 Q11の5項目以外に期待できることがあれば自由に御記入下さい。**

(3) 「②参加者アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
Q11 activity(運営) outcome(成果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者自身が感じる本事業への参加の効果、エピソードを把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の PDCA や本事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本事業の定性的な効果やエピソードから AIR 事業の必要性をアピール。</li> </ul>
Q12・Q13・Q14 outcome(成果) Impact(波及効果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業の総合的な成果、将来への発展の可能性を把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択団体の PDCA や本事業の改善につなげる。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本事業による波及効果の可能性をアピール。</li> </ul>
Q15・Q16 outcome(成果) Impact(波及効果)	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者からみた補助事業を継続した場合の outcome (成果)、impact (波及効果) の見込みを把握。</li> </ul> <p><b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2～3年の実績に基づいて、事業の目的や内容の見直しに活用。</li> </ul> <p><b>【事業・施策のアピール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本事業に対する期待をアピール。</li> </ul>



(3) 「②参加者アンケート調査」

評価指標の位置付け	収集した情報・データの目的、活用方法
Q17・Q18 activity(運営)	<b>【目的】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>参加者の AIR 経験を把握。</li></ul> <b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>過去に満足した AIR 事業の内容を調査することによって、採択団体の PDCA や本事業の改善につなげる。</li></ul> <b>【事業・施策のアピール】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>—</li></ul>
Q19・Q20・Q21 output(結果)	<b>【目的】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>参加者の属性を把握。</li></ul> <b>【分析の視点・PDCA への活用方法】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>—</li></ul> <b>【事業・施策のアピール】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>—</li></ul>

(4) 「③採択団体、及び参加者インタビュー調査」

【採択団体対象】 インタビュー調査項目（文化庁担当者、専門家が訪問してインタビューを行い記入）

I 文化庁の補助によってどのような成果（outcome）があったか、具体的なエピソードを交えてお答え下さい。

- 1 アーティスト・イン・レジデンス事業の実施や運営の面でどのような成果や効果がありましたか。
- 2 招へいた芸術家の創作活動や作品創造、作品発表の面では、どのような成果や効果がありましたか。
- 3 国内の芸術家との共同創作活動に取り組まれた場合、どのような成果や効果がありましたか。
- 4 招へいた研究者や学芸員のリサーチ活動、講演会やセミナー等の面では、どのような成果や効果がありましたか。
- 5 外国人芸術家や研究者・学芸員が滞在し、地域住民と交流することで、地域にとってどのような影響や効果があったと思われますか。
- 6 日本の文化芸術に関する理解の促進、日本の文化芸術活動の水準の向上や海外への発信、文化芸術を通じた国際的な相互理解といった面でどのような成果や効果があったと思われますか。
- 7 では、事業を実施する上で、現在、問題点や課題となっていることは何ですか。

II この事業を継続した場合、補助事業による中長期的な波及効果（impact）についてお答え下さい。

- 8 日本の文化芸術に対する理解の促進や、日本に対する親近感の醸成に効果があると思われますか。それは何故ですか。
- 9 芸術家の創作活動や将来の芸術作品の創造に対して、日本が国際的な貢献を果たすことは可能だと思われますか。
- 10 日本の文化芸術の水準の向上や海外でのプレゼンスアップ、海外との交流の促進などに對して、アーティスト・イン・レジデンス事業の継続はどのような波及効果をもたらすと思われますか。
- 11 創造的人材の交流や滞在は、地域や住民にどのような活力をもたらすとお考えですか。
- 12 国際的な相互理解の促進に対して、文化芸術やアーティスト・イン・レジデンス事業はどのような効果をもたらすと思われますか。
- 13 アーティスト・イン・レジデンス事業、あるいは、その他の事業も含め、今後どのような事業を展開する予定ですか。将来のビジョンも含めて教えて下さい。

(4) 「③採択団体、及び参加者インタビュー調査」

【参加者（芸術家・研究者・学芸員）対象】（文化庁担当者、専門家が訪問してインタビューを行い記入）

I アーティスト・イン・レジデンス事業への参加で得られた経験や御自身の活動への影響についてお答え下さい。

- 1 今回のアーティスト・イン・レジデンス事業への参加をされたきっかけ、滞在先として選んだ理由を教えてください。
- 2 今回の滞在中、あなたの創作活動や作品、芸術表現に対して、最もインパクトのあった経験は何ですか。それは今後のあなたの芸術家としての活動にどのような影響や効果を与えられますか。
- 3 日本に滞在中に実施したリサーチ活動で、最も大きな成果は何ですか。それは今後の研究活動や学芸活動にどのような影響や効果を与えられますか。
- 4 今回の滞在中、日本の文化芸術について発見したこと、理解が深まったことはどのような点ですか。あるいは、日本の芸術家や研究者等との交流からどんなインスピレーションを得ましたか。
- 5 あなたが滞在中の地域、住民や子どもたちとの交流で、どのようなことが印象に残っていますか。
- 6 あなたはまた日本に来て、創作活動や研究活動を行ってみたいですか。母国の友人にそれを勧めたいですか。それは何故ですか。
- 7 今回の滞在中、不自由に思ったり、不満に感じたりしたことはありますか。こうしたら、もっと魅力的なアーティスト・イン・レジデンス事業になれるというような提案やアイデアはありますか。
- 8 では、今後の活動予定や将来のビジョンについてお聞かせ下さい。今回の滞在中が、そのことになにがしかの影響を与えたとすれば、そのことも含めてお話しいただけますか。
- 9 最後に、今回のアーティスト・イン・レジデンス事業に関連して、その他、特に伝えておきたいことがあれば、教えてください。

(5) 「④訪問調査記入フォーム」

【訪問調査の項目】（文化庁担当者、専門家が、インタビューや観察結果等に基づいてコメントを記入）

I 事業の実施状況について（評価できる点、課題と思われる点を含め、気がついたことを記入）

- 1 芸術家の創作活動、作品発表等に対する支援の内容や方法について
- 2 研究者や学芸員のリサーチ活動への支援の内容や方法について
- 3 スタジオや居住スペースなど芸術家や研究者、学芸員の創作、滞在活動の環境条件について
- 4 展覧会や演奏会、講演会・セミナー・ワークショップなどの内容と、地域住民との交流について
- 5 招へいした外国人芸術家と国内芸術家との共同制作の成果、もしくは将来の可能性について
- 6 外国人芸術家や研究者、学芸員が滞在する上で魅力的だと考えられる地域の特性、逆に不具合が想定されること
- 7 採択団体の運営体制やスタッフの対応など
- 8 その他

II 補助事業による成果（outcome）や波及効果（impact）について

- 9 「日本の文化芸術に対する理解の促進、日本に対する親近感の醸成」への寄与の有無、内容、可能性
- 10 「芸術家の創作活動、作品創造への日本の国際的な貢献」への寄与の有無、内容、可能性
- 11 「日本の文化芸術の水準向上と海外発信、芸術家の国際交流の促進」への寄与の有無、内容、可能性
- 12 「創造的人材の交流・滞在中の地域や住民の新たな活力の創出」への寄与の有無、内容、可能性
- 13 「文化芸術を通じた国際的な相互理解の促進」への寄与の有無、内容、可能性
- 14 その他、中長期的な視点からみた本事業の成果（outcome）や波及効果（impact）

(5) 「④訪問調査記入フォーム」

【総括コメント】（文化庁担当者、専門家が、インタビューや観察結果等に基づいてコメントを記入）

Ⅲ 採択団体や参加者へのインタビュー調査、事業の観察結果等に基づいた総合的な評価結果

1 事業の実施状況、成果（outcome）について

2 本事業の成果（outcome）や波及効果（impact）について

3 補助事業について見直しや改善が求められること

Ⅳ 訪問調査概要

1. 訪問先

事業名： \_\_\_\_\_

採択団体名： \_\_\_\_\_

施設名： \_\_\_\_\_

2. 訪問日時： \_\_\_\_\_

3. 面会者

採択団体： \_\_\_\_\_

参加者（芸術家、芸術団体等）：

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

その他（ボランティア・地域住民等）：

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

### 3. 様式例【Ⅱ】の検討

#### (1) 様式例【Ⅱ】の記入フォーム

	調査指標	調査項目
output 結果	•活動実績(招へい者数、滞在日数、展覧会等の開催回数、招へい者数、パブリシティ件数等)	①ア Q5 「補助対象事業」の活動実績 ①ア Q6 招へい者の年齢、性別のデータ ①ア Q7 招へい者の活動地域のデータ ①ア Q8 「補助対象事業」のメディアでの実績 ②ア Q19~21 招へい者の専門分野、活動地域、年齢のデータ
outcome 成果	•外国人芸術家の創作活動・作品に与えた効果:AE	①ア Q9 文化庁の補助による「補助対象事業」の成果 ①ア Q10 文化庁の戦略目標に対する「補助対象事業」の達成度 ②ア Q5 事業面に関する招へい者の満足度 ②ア Q6・7 運営面に関する招へい者の満足度 ②ア Q8・9 創作活動、研究活動以外の活動の条件とその影響 ②ア Q10 招へい者の総合満足度 ②ア Q11 招へい者自身が感じる参加への効果、エピソード ②ア Q12~14 事業の総合的な成果、将来への発展の可能性 ②ア Q15・16 招へい者からみた補助事業を継続した場合の outcome (成果)、impact (波及効果) の見込み ①イ Q2 招へい者の創作活動や作品発表の成果や効果 ①イ Q6 日本の文化芸術に関する理解の促進、日本の文化芸術活動の水準の向上や海外への発信、文化芸術を通じた国際的な相互理解 ①訪 Q4 招へい者の活動状況と地域住民との交流状況
	•外国人芸術家・研究者・学芸員の日本の文化芸術に対する理解促進に与えた効果:ABD	①ア Q9 文化庁の補助による「補助対象事業」の成果 ①ア Q10 文化庁の戦略目標に対する「補助対象事業」の達成度 ②ア Q5 事業面に関する招へい者の満足度 ②ア Q6・7 運営面に関する招へい者の満足度 ②ア Q8・9 創作活動、研究活動以外の活動の条件とその影響 ②ア Q10 招へい者の総合満足度 ②ア Q11 招へい者自身が感じる参加への効果、エピソード ②ア Q12~14 事業の総合的な成果、将来への発展の可能性 ②ア Q15・16 招へい者からみた補助事業を継続した場合の outcome (成果)、impact (波及効果) の見込み ①イ Q2 招へい者の創作活動や作品発表の成果や効果 ①イ Q4 招へい者のリサーチ活動、講演会やセミナーの成果や効果 ①イ Q6 日本の文化芸術に関する理解の促進、日本の文化芸術活動の水準の向上や海外への発信、文化芸術を通じた国際的な相互理解 ①訪 Q4 招へい者の活動状況と地域住民との交流状況
	•国内の芸術家・芸術団体の海外進出の機会の増大:BE	①ア Q9 文化庁の補助による「補助対象事業」の成果 ①ア Q10 文化庁の戦略目標に対する「補助対象事業」の達成度 ②ア Q5 事業面に関する招へい者の満足度 ②ア Q6・7 運営面に関する招へい者の満足度 ②ア Q8・9 創作活動、研究活動以外の活動の条件とその影響 ②ア Q10 招へい者の総合満足度 ②ア Q11 招へい者自身が感じる参加への効果、エピソード ②ア Q12~14 事業の総合的な成果、将来への発展の可能性 ②ア Q15・16 招へい者からみた補助事業を継続した場合の outcome (成果)、impact (波及効果) の見込み ①イ Q3 国内の芸術家との共同創作活動の成果や効果 ①イ Q6 日本の文化芸術に関する理解の促進、日本の文化芸術活動の水準の向上や海外への発信、文化芸術を通じた国際的な相互理解 ①訪 Q4 招へい者の活動状況と地域住民との交流状況 ①訪 Q5 招へい者の国内芸術家との共同制作の成果、将来の可能性

調査結果の概要(イメージ)	評価、改善のポイント(イメージ)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●年度単位での総招へい者とその専門分野、活動地域、年齢、性別の比率、延べ滞在日数</li> <li>●年度単位でのメディアでの実績</li> <li>●採択団体別、地域ブロック別、事業全体の経年変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多様な分野の芸術家、研究者・学芸員がこの事業によって日本に一定期間滞在し、様々な交流が生まれた。主に美術を対象とするAIRが多いため、美術家や美術を専門分野とする研究者・学芸員の数が多いが、演劇や舞踊を専門分野とする招へい者も増加の傾向にある。しかし、音楽を専門分野とする招へい者が少ない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●アンケートの集計により補助による具体的な成果、文化庁の戦略目標に対する達成度、招へい者の満足度等を分析</li> <li>●アンケートの自由記述形式、インタビューや訪問調査の記録によりエピソードを収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●補助により、「創作作品の発表機会を充実することができた」と答えるAIRが多く、「国内の芸術家や観客に与える影響は大きい」というエピソードが報告されている一方で、「創作作品の発表を条件にしてしまうと、日本の文化芸術を理解するためのリサーチなどに十分に時間を割くことができなかった」というエピソードも報告されている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●アンケートの集計により補助による具体的な成果、文化庁の戦略目標に対する達成度、招へい者の満足度等を分析</li> <li>●アンケートの自由記述形式、インタビューや訪問調査の記録によりエピソードを収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●戦略目標に対して、「日本の文化芸術に対する理解を促進し、日本に対する親近感を醸成すること」が大いにあったと答えるAIRが多く、また、「日本の文化芸術に関する理解が進み、将来の研究活動、展覧会企画活動にプラスになった」と答える招へい者が多く、日本の文化芸術に対する理解が非常に促進されたと考えられる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●アンケートの集計により補助による具体的な成果、文化庁の戦略目標に対する達成度、招へい者の満足度等を分析</li> <li>●アンケートの自由記述形式、インタビューや訪問調査の記録によりエピソードを収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●参加の動機として「日本の芸術家や研究者・学芸員との交流やネットワークを形成できるから」と答えた招へい者が多く、また「外国人研究者・学芸員と国内の芸術家との出会いを創出することにより、国内の芸術家の海外進出のきっかけになった」というエピソードが報告されている。</li> </ul>

	調査指標	調査項目
outcome 成果 (続き) i	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内の AIR 事業の拠点(プラットフォーム)の増加、質的向上に与えた効果</li> </ul>	①ア Q8 「補助対象事業」のメディアでの実績 ①ア Q9 文化庁の補助による「補助対象事業」の成果 ①ア Q10 文化庁の戦略目標に対する「補助対象事業」の達成度 ①ア Q13 文化庁の補助による「採択団体の事業や活動全体」への成果 ①ア Q14 文化庁の補助による「採択団体の事業や活動全体」への成果の度合い ②ア Q5 事業面に関する招へい者の満足度 ②ア Q6~7 運営面に関する招へい者の満足度 ②ア Q8・9 創作活動、研究活動以外の活動の条件とその影響 ②ア Q10 招へい者の総合満足度 ②ア Q11 招へい者自身が感じる参加への効果、エピソード ②ア Q12~14 事業の総合的な成果、将来への発展の可能性 ②ア Q15・16 招へい者からみた補助事業を継続した場合の outcome (成果)、impact (波及効果) の見込み ①イ Q1 事業の実施や運営面での成果や効果 ①イ Q6 日本の文化芸術に関する理解の促進、日本の文化芸術活動の水準の向上や海外への発信、文化芸術を通じた国際的な相互理解 ①訪 Q4 招へい者の活動状況と地域住民との交流状況
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民の外国人芸術家の創作活動・作品に対する興味、理解の促進に与えた効果: CF</li> </ul>	①ア Q9 文化庁の補助による「補助対象事業」の成果 ①ア Q10 文化庁の戦略目標に対する「補助対象事業」の達成度 ②ア Q5 事業面に関する招へい者の満足度 ②ア Q6・7 運営面に関する招へい者の満足度 ②ア Q8・9 創作活動、研究活動以外の活動の条件とその影響 ②ア Q10 招へい者の総合満足度 ②ア Q11 招へい者自身が感じる参加への効果、エピソード ②ア Q12~14 事業の総合的な成果、将来への発展の可能性 ②ア Q15・16 招へい者からみた補助事業を継続した場合の outcome (成果)、impact (波及効果) の見込み イ②Q5 地域住民との交流 ①訪 Q4 招へい者の活動状況と地域住民との交流状況
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民の文化芸術活動の活性化に与えた効果 (ボランティア、NPO)</li> </ul>	①ア Q9 文化庁の補助による「補助対象事業」の成果 ①ア Q10 文化庁の戦略目標に対する「補助対象事業」の達成度 ②ア Q5 事業面に関する招へい者の満足度 ②ア Q6・7 運営面に関する招へい者の満足度 ②ア Q8・9 創作活動、研究活動以外の活動の条件とその影響 ②ア Q10・招へい者の総合満足度 ②ア Q11・招へい者自身が感じる参加への効果、エピソード ②ア Q12~14 事業の総合的な成果、将来への発展の可能性 ②ア Q15~16 招へい者からみた補助事業を継続した場合の outcome (成果)、impact (波及効果) の見込み イ②Q5 地域住民との交流 ①訪 Q4 招へい者の活動状況と地域住民との交流状況
impact 波及効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>(外国人芸術家や研究者・学芸員を通じた)日本に対する理解、親密度の促進に与えた効果</li> </ul>	①ア Q11 文化庁の戦略目標に対する「補助対象事業」への見込み ①ア Q13 文化庁の補助による「採択団体の事業や活動全体」への成果 ①ア Q14 文化庁の補助による「採択団体の事業や活動全体」への成果の度合い ②ア Q15・16 招へい者からみた補助事業を継続した場合の outcome (成果)、impact (波及効果) の見込み ①イ Q8 日本の文化芸術に対する理解の促進や、日本に対する親近感の醸成への効果 ①訪 Q9 「日本の文化芸術に対する理解の促進、日本に対する親近感の醸成」への寄与の有無、内容、可能性

調査結果の概要(イメージ)	評価、改善のポイント(イメージ)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートの集計により補助による具体的な成果、文化庁の戦略目標に対する達成度、招へい者の満足度等を分析</li> <li>● アンケートの自由記述形式、インタビューや訪問調査の記録によりエピソードを収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 補助により、「運営スタッフの増強を図ることができた」と答える AIR が最も多く、「専門のスタッフを配置することができた」「アーカイブ資料の整備を行うことができた」などのエピソードが報告されており、海外発信拠点形成事業の質的向上に与えた効果は非常に大きい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートの集計により補助による具体的な成果、文化庁の戦略目標に対する達成度、招へい者の満足度等を分析</li> <li>● アンケートの自由記述形式、インタビューや訪問調査の記録によりエピソードを収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 戦略目標に対して「創造的人材の交流・滞在によって地域や住民に新たな活力を創出すること」が大いにあったと答えた AIR は、地方に多く、都市部には少なかった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートの集計により補助による具体的な成果、文化庁の戦略目標に対する達成度、招へい者の満足度等を分析</li> <li>● アンケートの自由記述形式、インタビューや訪問調査の記録によりエピソードを収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 戦略目標に対して「創造的人材の交流・滞在によって地域や住民に新たな活力を創出すること」が大いにあったと答えた AIR は、地方に多く、都市部には少なかった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートの集計により補助による日本の文化芸術に対する理解や親近感の醸成への波及効果、国際的な文化交流への波及効果、日本の文化芸術水準の向上への波及効果、地域への波及効果等を分析</li> <li>● インタビューや訪問調査の記録によりエピソードや今後の可能性を収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AIR 事業を継続することで「日本の文化芸術に対する理解を促進し、日本に対する親近感を醸成すること」を大いに期待できると答える招へい者が多かった。</li> </ul>

	調査指標	調査項目
impact 波及効果 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際的な文化交流(芸術家・研究者・学芸員のモビリティ)の活性化に与えた効果</li> </ul>	①ア Q11 文化庁の戦略目標に対する「補助対象事業」への見込み ①ア Q13 文化庁の補助による「採択団体の事業や活動全体」への成果 ①ア Q14 文化庁の補助による「採択団体の事業や活動全体」への成果の度合い ②ア Q15・16 招へい者からみた補助事業を継続した場合の outcome(成果)、impact(波及効果)の見込み ①イ Q9 日本の国際的な文化交流の活性化への効果 ①イ Q12 国際的な相互理解の促進への効果 ①訪 Q13 「文化芸術を通じた国際的な相互理解の促進」への寄与の有無、内容、可能性
	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIR 事業を通じた国際的な芸術表現・作品に関する質的向上、発展(日本の貢献度)</li> </ul>	①ア Q11 文化庁の戦略目標に対する「補助対象事業」への見込み ①ア Q13 文化庁の補助による「採択団体の事業や活動全体」への成果 ①ア Q14 文化庁の補助による「採択団体の事業や活動全体」への成果の度合い ②ア Q15・16 招へい者からみた補助事業を継続した場合の outcome(成果)、impact(波及効果)の見込み ①イ Q10 日本の文化芸術の水準の向上や海外でのプレゼンスアップ、海外との交流の促進などに対する波及効果 ①イ Q12 国際的な相互理解の促進への効果 ①訪 Q10 「芸術家の創作活動、作品創造への日本の国際的な貢献」への寄与の有無、内容、可能性
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の文化芸術に関する国際的な発信度の向上</li> </ul>	①ア Q11 文化庁の戦略目標に対する「補助対象事業」への見込み ①ア Q13 文化庁の補助による「採択団体の事業や活動全体」への成果 ①ア Q14 文化庁の補助による「採択団体の事業や活動全体」への成果の度合い ②ア Q15・16 招へい者からみた補助事業を継続した場合の outcome(成果)、impact(波及効果)の見込み ①イ Q10 日本の文化芸術の水準の向上や海外でのプレゼンスアップ、海外との交流の促進などに対する波及効果 ①イ Q12 国際的な相互理解の促進への効果 ①訪 Q11 「日本の文化芸術の水準向上と海外発信、芸術家の国際交流の促進」への寄与の有無、内容、可能性
	<ul style="list-style-type: none"> <li>創造的人材の定住・交流の促進</li> </ul>	①ア Q11 文化庁の戦略目標に対する「補助対象事業」への見込み ①ア Q13 文化庁の補助による「採択団体の事業や活動全体」への成果 ①ア Q14 文化庁の補助による「採択団体の事業や活動全体」への成果の度合い ②ア Q15・16 招へい者からみた補助事業を継続した場合の outcome(成果)、impact(波及効果)の見込み ①イ Q11 創造的人材の交流や滞在及び地域や住民への効果 ①訪 Q12 「創造的人材の交流・滞在を通じた地域や住民の新たな活力の創出」

調査結果の概要(イメージ)	評価、改善のポイント(イメージ)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートの集計により補助による日本の文化芸術に対する理解や親近感の醸成への波及効果、国際的な文化交流への波及効果、日本の文化芸術水準の向上への波及効果、地域への波及効果等を分析</li> <li>● インタビューや訪問調査の記録によりエピソードや今後の可能性を収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AIR 事業を継続することで「日本の文化芸術の水準の向上と海外発信、芸術家等の国際交流を促進すること」を大いに期待できると答える採択団体が多く、「文化庁が支援している AIR 事業として、日本の AIR の認知度が向上した結果、海外からの AIR から共同プロジェクトを持ちかけられるなど、国際交流がより活性化した」というエピソードが報告されており、国際交流に大きく貢献したと考えられる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートの集計により補助による日本の文化芸術に対する理解や親近感の醸成への波及効果、国際的な文化交流への波及効果、日本の文化芸術水準の向上への波及効果、地域への波及効果等を分析</li> <li>● インタビューや訪問調査の記録によりエピソードや今後の可能性を収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AIR 事業を継続することで「日本の文化芸術の水準の向上と海外発信、芸術家等の国際交流を促進すること」を大いに期待できると答える採択団体が多かった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートの集計により補助による日本の文化芸術に対する理解や親近感の醸成への波及効果、国際的な文化交流への波及効果、日本の文化芸術水準の向上への波及効果、地域への波及効果等を分析</li> <li>● インタビューや訪問調査の記録によりエピソードや今後の可能性を収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AIR 事業を継続することで「日本の文化芸術の水準の向上と海外発信、芸術家等の国際交流を促進すること」を大いに期待できると答える採択団体が多く、「自国のフェスティバルで、日本のアーティストを紹介したいと考えており、また、日本との交流の拠点として、AIR とのネットワークを発展させたいと考えている。」という招へい者のエピソードが報告されている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートの集計により補助による日本の文化芸術に対する理解や親近感の醸成への波及効果、国際的な文化交流への波及効果、日本の文化芸術水準の向上への波及効果、地域への波及効果等を分析</li> <li>● インタビューや訪問調査の記録によりエピソードや今後の可能性を収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AIR 事業を継続することで「創造的人材の交流・滞在によって地域や住民に新たな活力を創出すること」を大いに期待できると答える採択団体が多かった。</li> </ul>

	調査項目
制度や仕組みの見直し	①ア Q12 補助事業の仕組みの改善や変更の要望 ①ア Q15 採択団体の抱える問題点や課題、将来への展望 ①イ Q1 採択団体の抱える問題点や課題 ①イ Q13 採択団体の将来への展望
採択団体の特徴	①ア Q1 採択団体の事業や活動全体の目的 ①ア Q2 採択団体の事業や活動全体の概要 ①ア Q3 採択団体の組織体制(スタッフ数) ①ア Q4 採択団体の財務計画と実績
	②ア Q1 招へい者の情報入手経路 ②ア Q2・3 招へい者の他の類似事業との比較 ②ア Q4 招へい者の参加の動機や AIR 事業の選定に重視した事項 ②ア Q5 事業面に関する招へい者の満足度 ②ア Q6・7 運営面に関する招へい者の満足度 ②ア Q8・9 創作活動、研究活動以外の活動の条件とその影響 ②ア Q10 招へい者の総合満足度 ②ア Q11 招へい者自身が感じる参加への効果、エピソード ②ア Q12~14 事業の総合的な成果、将来への発展の可能性 ②ア Q17・18 招へい者の AIR 経験①訪 Q1・2 招へい者への支援の内容や方法
	イ②Q1 招へい者の参加の動機 イ②Q2・3 招へい者の滞在経験とその影響や効果 イ②Q4 招へい者の日本の文化芸術への理解とその影響と効果 イ②Q5 招へい者の地域との交流 イ②Q6 招へい者の日本の文化芸術への興味や愛着 イ②Q7 招へい者の感じる事業の問題点、改善点 イ②Q8 招へい者の将来のビジョン、また、滞在経験がどのような効果をもたらしたか イ②Q9 招へい者の事業全体に関するコメント
	①訪 Q3 事業の環境条件 ①訪 Q4 招へい者の活動状況と地域住民との交流状況 ①訪 Q5 招へい者の国内芸術家との共同制作の成果、将来の可能性 ①訪 Q6 地域の特性 ①訪 Q7 採択団体の運営状況やスタッフの対応

調査結果の概要(イメージ)	評価、改善のポイント(イメージ)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートの集計により制度や仕組みの見直しの要望や採択団体の抱える問題点や課題、将来への展望を分析</li> <li>● インタビューにより具体的な内容や今後の可能性を収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● (例)「募集や審査、内定通知の時期や期間」の改善を希望する採択団体が多く、「(採択団体の)招へい者の募集や審査に一定の時間を要するため」という声がある。</li> <li>● (例)「外国人芸術家、外国人研究者・学芸員の最低滞在期間」の改善を希望する採択団体もあり、この最低滞在期間の条件により、AIR 事業に申請のできない芸術ジャンルもあると考えられる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各採択団体の規模や特徴、事業・活動内容を把握するための基礎データとして集計</li> </ul>	



### 第3部 国内外の参考事例と提言



## 1. 国内参考事例

### (1) アサヒビール株式会社によるメセナ活動の事業評価

#### 【評価主体】

アサヒビール株式会社 社会環境部

#### 【評価概要】

アサヒビール株式会社は、メセナ活動として先駆的な芸術活動やアート NPO の支援をしており、社会貢献活動の評価指標とは別にメセナ活動評価制度を新たに開発するなど、積極的に評価に取り組んでいることで知られている。

主なメセナ活動として、アサヒビールロビーコンサート、アサヒ・アート・フェスティバル、アサヒ・アート・コラボレーション、アートノバ、アサヒビール音楽キャラバン、アサヒビール大山崎山荘美術館の運営、アサヒビール芸術文化財団などがある。現在、目標達成度評価、個別施策評価、協働 NPO による評価、アンケートによる評価を実施している。

#### 【評価目的】

アサヒビール株式会社のメセナ活動の目標設定とプログラムの検証や改善を目的として評価を実施している。また、この評価の取組は、メセナ活動のパートナーや支援先の選定をする際に、その決定の理由を明確にする材料として活用されることも意図されている。

#### 【評価方法】

目標達成度評価では、各事業の評価指数(目標値)を設定し、これに基づいて担当者が実績を自己評価している。また、個別施策評価では、「芸術活動支援先評価表」という12項目200点満点の評価表に基づいて、担当者が事前評価と事後評価を実施している。これらの評価の取組は、第三者機関などに委託するのではなく、社会環境部の担当者が実施することが基本姿勢とされている。そして、協働 NPO による評価では、協働先の NPO に「協働 NPO からの評価表」という12項目を4段階で評価表に記入してもらい(またはヒアリング)評価を受け、また、コンサートの来場者やプログラムの参加者に満足度を4段階で評価してもらうアンケートを実施している。

#### 【評価項目】

##### ① 個別施策評価「芸術活動支援先評価表」12項目200点満点

- 芸術面での総合評価
- この支援が新しい芸術創造に寄与するか
- この支援が新しい芸術ソフト開発に寄与するか
- この支援が若手芸術家の発掘支援となるか
- この支援が芸術への市民参加を促進することに寄与するか
- この支援が芸術アクセスの方法を多様化することに寄与するか
- この支援が芸術の社会的認知を拡大することに寄与するか
- この支援が芸術 NPO の振興に寄与するか
- この支援が芸術インフラ整備に寄与するか
- この支援が地域における芸術活動の支援となるか

- この支援が地域における芸術ネットワークの発展に寄与するか
- 企業価値面での総合評価

## ②「協働 NPO からの評価表」 12項目4段階評価

- 目標は達成できたか
- アサヒビールとの間で、協働することに意味があったか
- アサヒビールとの間で、役割分担はうまくいったか
- 事業の発展に可能性はあるか
- 自組織の発展に寄与したか
- 先駆的な活動として創造性を発揮できたか
- 市民の参加を促進することができたか
- 社会的認知を拡大できたか
- 地域の芸術文化の発展に寄与したか
- 地域のネットワークづくりに寄与したか
- 芸術文化インフラの整備に寄与したか
- 新たな課題は発見できたか

## (2) (公財)セゾン文化財団の助成事業と事業評価

### 【評価主体】

(公財)セゾン文化財団

### 【評価概要】

セゾン文化財団は、現代演劇と現代舞踊を対象に、「芸術家への直接支援」と「パートナーシップ・プログラム」の2つの助成事業を実施している。

「芸術家への直接支援」では、若手、中堅の劇作家、演出家、または振付家の創造活動を複数年にわたって支援しており、「パートナーシップ・プログラム」では、舞台芸術の人材育成のプログラムや情報交流のシンポジウム、また、現代演劇や現代舞踊の国際交流において重要な意義をもつと思われる2年以上の継続プロジェクトを支援している。そして、それらの助成対象事業の活動(公演、ワークインプログレス、ワークショップ、シンポジウム等)を評価する「 Grant 評価」とその助成事業(プログラム)を評価する「プログラム評価」、さらに、演劇や舞踊の状況の変化を検証するために「環境評価」を実施している。

なお、企業メセナでは、企業にとってメセナ活動がどのような価値や意義があるかということが評価に反映される場合があるが、セゾン文化財団は、芸術の振興を主目的とする民間の助成財団であるため、企業メセナとは評価の基準が異なる点が特徴である。

### 【評価目的】

「Grant 評価」では、主に助成対象者の目標達成度の見極めや助成先のニーズの情報収集、助成対象の芸術家や芸術団体への継続助成決定の根拠の確立を目的としており、「プログラム評価」では、プログラム(助成事業)の検証や改善を目的としている。

### 【評価方法】

セゾン文化財団では、助成の選考を「事前評価」とし、5つの選考基準を事前評価の基準

としている。そして、助成申請時に、事業の目的、達成目標を含む2年もしくは3年の計画書の提出を求めており、助成決定時には、その計画書をもとに面談を行う。

事業が開始されてからは、財団のPD(プログラム・ディレクター)及びPO(プログラム・オフィサー)、外部の評価員が助成先の活動をモニタリングしており、また、定期的に助成先と進捗状況を確認するためにミーティングをしている。外部の評価員は、助成対象の芸術家や芸術団体の公演やワークインプロGRESSなどを訪れ、作品のレポートを提出することが義務づけられている。

「 Grant 評価」は、作品毎のレポート、年度末レポート、最終年度レポートに基づき行われ、「プログラム評価」は、助成対象事業の評価の集計に加え、対象領域の状況を反映した「環境評価」とともに実施される。また、助成終了の3年後に、外部の評価員が訪問調査を行い、助成の作品面やマネジメント面に及ぼしたインパクトやプログラムの改善に向けた提言についてインタビューし、「プログラム評価」に反映させる場合もある。

## 【評価項目】

### ① 選考基準(事前評価)

- 独創性
- 将来性
- 適時性
- 影響力
- 実現性

### ① 作品毎のレポート(期中評価)

- 作成日、題名、上演団体名、観覧日時、会場、上演時間
- 作品の評価/変化 (芸術性、現代演劇・舞踊界における位置)
- 今後注目すべき点
- その他のコメント

### ② 年度末レポート(期中評価)

- 本年度の成果、変化
- 認められた影響

### ③ 最終年度レポート(事後評価)

- 3年間の成果、変化
- 認められた影響

## 2. 海外参考事例

### (1) 英国アーツカウンシルの芸術性評価スキーム／Artistic Assessment Scheme

#### 【評価主体】

アーツカウンシル・イングランド

#### 【評価概要】

英国のアーツカウンシル・イングランドが、National Portfolio Funding(全国戦略に基づいた助成)の助成金支給対象の団体の実施する展覧会や公演などの作品の芸術性を評価するために推進しているスキーム。このスキームでは、芸術家、キュレーター、芸術監督、評論家、ジャーナリスト、大学教授など、約200名の調査員が訪問調査を実施。National Portfolio Funding の2012年度の助成金支給対象の団体数は、696団体で、調査員一人当たりの年間訪問数は、平均15件程度である。

#### 【評価目的】

芸術性評価スキームは、National Portfolio Funding の助成決定の根拠の一つを確立することを目的としている。National Portfolio Funding の助成決定は、総合的な評価により行われているため、芸術性評価だけで助成が決定されることはなく、また、調査員には、助成の決定の責務はない。アーツカウンシル・イングランドでは、各地域事務所に配属されている Relationship Manager(担当官)が、助成金支給対象の団体との連絡窓口として各団体の活動をモニタリングしており、Relationship Manager は各団体の活動を考慮し、調査員からの評価レポートを解釈することが役割とされている。

#### 【評価方法】

英国のアーツカウンシル・イングランドでは、調査員を雇用し、訪問調査を実施しており、各助成金支給対象の団体に、年間3～5回程度、毎回、異なる調査員が派遣されている。調査員は、助成金支給対象の団体が実施している展覧会や公演などを見学後、規定の評価レポートのフォームに記入し、約1週間以内に、アーツカウンシル・イングランド本部の芸術性評価チームに提出しなければならない。ただし、教育プログラムやアウトリーチなどは対象とされていない。

調査員の訪問日時は、各団体の展覧会や公演のスケジュールに応じて、Relationship Manager から本部の芸術性評価チームに伝えられ、本部の芸術性評価チームが調整を行う。また、調査員は一般の観客と同じように見学されることが求められているため、本部の芸術性評価チームは各団体に調査員の訪問日時を伝えるが、各団体との個別の面会などは設定していない。ただし、調査員が作品に関して各団体に質問などをしたい場合は、調査員から各団体に連絡をして面会することが可能である。

本部の芸術性評価チームに提出された評価レポートは、各団体と Relationship Manager に同時に送られる。各団体は、評価レポートの内容を修正することができないが、事実関係などに間違いがある場合は、本部の芸術性評価チームに報告することができる。

#### 【評価項目】

評価レポートのフォームは、8つの設問で構成されている。これらの設問以外に、調査員

が各団体の活動や作品についてどのくらいの知識や見識を持っているか、また、過去にどのくらいの作品を見たことがあるかなどを記入する欄がある。

- A) 作品のコンセプトと完成度(出来栄)の評価
- B) 作品の持つ影響力の評価
- C) 各団体のプログラムの中での作品の位置付けの評価(キュレーションやプログラミングなどを含む)
- D) 作品を構成する様々な芸術性の要素の評価(例、演出、脚本、振付、デザインなど)
- E) 制作のレベル(仕上がり)の評価(例、照明、音響、レイアウトなど)
- F) 観客の反応の評価
- G) その他、気がついたこと
- H) カスタマーケア(オプション)

## (2) エジンバラ国際フェスティバル協会のエジンバラ・フェスティバル評価研究／Edinburgh Festivals Impact Study

### 【調査主体】

エジンバラ国際フェスティバル協会 委託機関: BOP コンサルティング

### 【調査概要】

世界三大演劇フェスティバルの一つとして有名なエジンバラ国際フェスティバル、エジンバラ・フェスティバル・フリンジなどを含むエジンバラの12のフェスティバルの評価レポート。

### 【調査目的】

エジンバラでは、一年を通じて12のフェスティバルが実施されており、それらのフェスティバルを横断的に評価する新しい評価手法を確立するために、従来から実施されている個々の経済的効果の評価に加え、社会的、文化的、メディア、環境的効果の幅広い視点を取り入れた調査が実施された。また、各フェスティバルが独自に実施している評価手法を発展させることも意図されている。

### 【調査方法】

#### ① 評価の枠組みの考案

- 12のフェスティバルの活動範囲を整理
- 12のフェスティバルのステークホルダーを整理
- 各フェスティバルが独自に実施している評価の取組や、英国内で実施された評価手法に関する調査研究をレビュー
- 12のフェスティバルを横断的に評価するためのロジックモデルを構築
- 12のフェスティバルから期待される効果を整理
- 評価指標の考案

#### ② データの収集方法

- 観客や参加者向けアンケート
- 芸術家や芸術団体向けアンケート
- ジャーナリスト向けアンケート

- ボランティア向けアンケート
- 教育機関向けアンケート
- 各フェスティバル向けアンケート(基礎データ:収支予算、スタッフ数、イベント数等)

### ③ データの収集時期

- フェスティバル開催期間及び開催期間外

#### 【評価指標】

評価への視点	評価指標
1. 文化・芸術への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 観客や参加者の数</li> <li>● 観客や参加者の意識の変化</li> </ul>
2. 都市の魅力的な場づくりとメディアの効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の住民の地域プライドの向上</li> <li>● エジンバラのイメージの向上</li> <li>● スコットランドの文化的アイデンティティの認知度の向上</li> </ul>
3. 文化の多様性とコミュニティの形成への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域のコミュニティの結束力の向上</li> <li>● 英国以外の文化的背景を持つ住民との交流</li> <li>● 自己と他者の文化の理解度の向上</li> </ul>
4. 生活の質の向上や福祉への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 観客や参加者の生活の充実度(幸福度)</li> <li>● 子どもの感情、精神、社会性の発達</li> </ul>
5. 雇用や職業的スキル向上への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ボランティアの個人のスキルの向上</li> <li>● ボランティアの社会との結びつきの向上</li> </ul>
6. エジンバラやスコットランドの経済全体への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 観客や参加者の数(セグメンテーション)</li> <li>● 観客や参加者、芸術家、ジャーナリスト、フェスティバルのスタッフの支出</li> <li>● 地域の供給と収入の相互作用</li> </ul>
7. スポンサーやステークホルダーのマーケティング効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フェスティバルの観客や参加者などのターゲットグループへの達成度</li> <li>● フェスティバルとスポンサーのブランド・アイデンティティとの融合性</li> </ul>
8. 資源の枯渇や気候変動への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フェスティバルの電気、ガス、水の使用量</li> <li>● ゴミの排出量</li> <li>● 公共交通機関の使用状況(CO2の排出量)</li> </ul>

### (3) 英国遺産局の歴史的な遺産のある環境の地域活性化の効果／The Impact of Historical Environment Regeneration

#### 【調査主体】

英国遺産局 委託機関:AMION コンサルティング

#### 【調査概要】

歴史的な遺産のある環境が地域活性化を通じて都市や町に与える経済的、社会的、環境的效果の可能性を分析した評価レポート。英国での事例をケーススタディとして紹介。

#### 【調査目的】

歴史的な遺産のある環境が主導する地域活性化の成果や効果の評価指標を確立することを目的としている。このレポートでは、歴史的な遺産を保存することの付加価値をその環境の経済的な価値から算出するのではなく、歴史的な遺産のある環境が主導する地域活性化

により生じた経済活動の活性化や市民プライドの向上などに焦点を当てている。

## 【調査方法】

### ① 評価の枠組みの考案

- 調査研究の範囲の立案、関連文献の考察
- 既存のケーススタディの選出
- 評価の視点からケーススタディの分析の枠組みの考案
- 歴史的な遺産のある環境のエリアの役割の考察(ケーススタディの分析)
- 歴史的な遺産のある環境から生ずる経済的、社会的、環境的効果に関するデータの収集。具体的には、インタビューやアンケート調査を実施
- 歴史的な遺産のある環境が主導する地域活性化により生じた経済的、社会的、環境的効果の可能性の分析(インタビューやアンケート、ケーススタディの分析)

### ② データの収集方法

- 既存のケーススタディや2次データの使用
- 歴史的な遺産の所有者や保存会へのインタビュー、訪問調査
- 地域住民、地域の雇用者、訪問者への街頭アンケートや電話アンケート

## 【調査結果】

### ① 歴史的な遺産のある環境の地域での役割の考察

- 歴史的な遺産のある環境の地域と地域の人気度の関係性
- 歴史的な遺産のある環境のエリアとショッピングやレジャーエリアの関係性

### ② 歴史的な遺産のある環境が主導する地域活性化により生じた経済的、社会的、環境的効果の評価指標

評価への視点	評価指標
1. 経済的な効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の企業の総売上高</li> <li>● GVA(粗付加価値)効果</li> <li>● 地域の雇用の数</li> <li>● 地域のパブリックセクターの投資額</li> </ul>
2. 社会的な効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の文化遺産の認知度</li> <li>● 地域の景観の変化</li> <li>● 市民プライドの向上</li> <li>● 地域の活性化</li> <li>● 社会生活との関連性(訪問の動機:友人と会うため、飲食のため、ショッピングのためなど)</li> <li>● 地域住民のコミュニティへの関与</li> <li>● 地域の安全と犯罪の低下率</li> <li>● 地域への移住、雇用、訪問の動機</li> <li>● 地域の地域活性化計画との関連性</li> </ul>
3. 環境的な効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の景観</li> <li>● 歴史的な遺産(建造物)の活用(再利用)</li> </ul>

(4) リバプール市の欧州文化首都<sup>※</sup>のリバプールの経験／Creating an Impact: Liverpool's experience as European Capital Culture

【調査主体】

リバプール市 委託機関:リバプール大学

【調査概要】

石炭や鉄鋼業、造船業などの主幹産業の衰退により、荒廃してしまったリバプールが、創造都市への再出発を試み、2008年に欧州文化首都を開催。欧州文化首都がリバプールに与えた成果や効果を、経済的、社会的、文化的、環境的視点から測定した評価レポート。準備段階から開催後までの約5年間の経過を調査。

【調査目的】

欧州文化首都がリバプール市に与えた経済的、社会的、文化的効果を測定、分析することで、文化・芸術の成果や効果の評価のためのモデルを確立することを目的としている。また、この調査は、2012年のロンドン・オリンピックの評価の分析に活用される予定である。

【調査方法】

① 評価の枠組みの考案

- 5つの調査対象分野の設定
- 5つの調査対象分野から評価指標を整理

② データの収集方法と分析方法

- 欧州文化首都に関連する主要なステークホルダーへのインタビュー
- 1996年から2010年までのリバプールのメディア露出への効果の2次データ分析
- 2000年から2010年までのリバプールのビジネスへの効果の2次データ分析
- リバプールの住民の経験に焦点を当て、定性的データによる地域研究
- 特例の分野にフォーカスした約30の調査研究の実施
- リバプール市の基礎データの分析(2次データ分析)

【評価指標】

評価の視点	評価指標
1. 文化・芸術へのアクセスと参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 観客や参加者等の数</li> <li>● 観客や参加者等の満足度</li> <li>● 観客の属性(地域、人種、年齢、雇用状況等)</li> <li>● ボランティアの数</li> <li>● 文化・芸術への関心度</li> <li>● 文化・芸術への参加率</li> </ul>
2. 経済と観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域への訪問者数</li> <li>● ホテルへの宿泊者数</li> <li>● 英国外からの文化芸術の関係者の訪問者数</li> <li>● 小売業、観光業の雇用者数</li> <li>● 地域の主要なアトラクションへの訪問者数</li> </ul>

<sup>※</sup> 欧州文化首都(European Capital of Culture)は、欧州連合より指定されたEU加盟国の都市が、1年間に渡り、文化行事を催すプログラムで、1985年に「欧州文化都市(European City of Culture)」としてスタート。欧州文化首都に指定された多くの都市は、都市再生のモデルとして広く研究されている。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公共交通機関(バス、電車、飛行機)の需要量</li> <li>● ビジネス分野での認知度、効果</li> </ul>
3. 文化・芸術の活気と持続性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リバプールの文化芸術セクターの基礎データ</li> <li>● 観客や参加者の数</li> <li>● 文化芸術セクターの収入</li> <li>● メディアへの露出の実績</li> <li>● 観客や参加者の欧州文化首都に関する評価</li> <li>● 芸術家や芸術団体の欧州文化首都に関する評価</li> <li>● 創造産業の基礎データ</li> <li>● 地域の創造産業の事業者数、雇用者数</li> </ul>
4. イメージと認知	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 欧州文化首都に関するメディアへの露出の実績(テーマ別に集計:地域イメージ、経済、文化・芸術、社会問題、マネジメントなど)</li> <li>● インターネットへの露出の実績</li> <li>● 欧州文化首都としてのリバプールの認知度(地域別に集計:リバプール、イングランド北西部、イングランド全体)</li> <li>● リバプールに関するメディアへの露出の実績(テーマ別に集計:地域イメージ、経済、文化・芸術、社会問題、マネジメントなど)</li> <li>● 地域のイメージ(地域別に集計:リバプール、イングランド北西部、イングランド全体)</li> </ul>
5. ガバナンス(運営)と欧州文化首都開催までのマネジメントプロセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 欧州文化首都の収支予算</li> <li>● 環境への配慮</li> <li>● 地域内外のネットワークの構築</li> <li>● スポンサーシップの誘致</li> <li>● 英国内のステークホルダーの見解</li> <li>● 英国外のステークホルダーの見解</li> <li>● リバプールの住民の見解</li> <li>● イングランド北西部の住民の見解</li> </ul>

(5) 国際アーツカウンシル文化機関連盟の芸術家の国際的な移動を支援するプログラム／  
Artists' International Mobility Programs

【調査主体】

国際アーツカウンシル文化機関連盟 委託者:ジュディス・ステインズ

【調査概要】

アーティスト・イン・レジデンス・プログラムを含む、芸術家の国際的な“mobility(移動)”を支援するプログラムの包括的評価レポートで、2004年に世界各国のアーツカウンシル及び政府機関を結ぶネットワーク会議で発表された。

【調査目的】

芸術家の国際的な“mobility(移動)”を支援する世界の代表的な政策、戦略、プログラムを類型学的に分類し、芸術家、芸術団体、政府機関などの主要な立場の人々の異なる見解について考えることを目的としている。また、芸術家の国際的な“mobility(移動)”プログラムを発展させるための best practice の指標を示している。

## 【調査方法】

- ① 芸術家の国際的な“mobility(移動)”を表す政策やプログラムの名称の整理
- ② 芸術家の国際的な“mobility(移動)”に関する世界の代表的な政策の目的の整理
- ③ 芸術家の国際的な“mobility(移動)”に関する世界の代表的なプログラムを分類
  - A) 国レベルのアーツカウンシル及び文化機関の“mobility”プログラム 11件  
例:Arts Council England, Canada Council for the Arts
  - B) 上記以外の政府に関連する文化機関の“mobility”プログラム 10件  
例:L’Association française d’action artistique (AFAA), Goethe-Institute
  - C) 超国家レベルの文化機関の“mobility”プログラム 10件  
例:European Union, UNESCO
  - D) 多国籍の文化機関の“mobility”プログラム 16件  
例:Arts International, Asia-Europe Foundation
  - E) 2国間及び2地域間の“mobility”プログラム 13件  
例:American-Scandinavian Foundation, Daiwa Anglo-Japanese Foundation
  - F) アーティスト・イン・レジデンスのディレクトリー 6件  
例:Artist-in-Residence Worldwide Guide, Res Artis
  - G) 上記以外で、国際的なネットワークの構築を目的としたプログラム 7件  
例:Balkan Express, Young Arab Theatre Fund
  - H) 上記以外で、文化・芸術の振興を目的としたプログラム 8件  
例:Creative Exchange, Prince Claus Fund

## 【評価指標】 \* 芸術家の国際的な“mobility(移動)”プログラム

- A) 透明性:門戸が広く開かれ、また、公募要項や審査過程が明確であること
- B) 専門性:専門的な審査員が置かれ、審査基準が公表されていること
- C) 志向性:アーティストの創造的なプロセスがプログラムの中心とされていること
- D) 柔軟性:アーティストの自主性が優先されていること
- E) 向上性:啓発の機会を持ち、プログラムを改善に取り組んでいること

### 3. 有効な評価手法の確立に向けた提言

我が国の文化政策に関する有効な評価手法の確立に向け、文化政策や文化芸術の助成事業に関する専門家による調査研究会での検討や国内・海外の参考事例の調査結果に基づき、実施体制、評価サイクル、人材育成、パートナーシップ、調査研究機能という5つの視点から、次のとおり提言をとりまとめた。

#### (1) 文化政策の評価に関する実施体制

文化政策の評価を継続的に実施するためには、各施策の評価の実施体制を整備する必要があると考えられる。施策の成果や効果をより適切かつ効率的に把握し、円滑な PDCA サイクルを構築するため、以下の作業工程7項目の実施体制について、外部との連携を含め、整えていく必要がある。

- a. アンケート調査票の発送、配布、回収
- b. アンケート回収データの集計、分析、考察、報告
- c. インタビュー調査や訪問調査の調査員の任用
- d. インタビュー調査や訪問調査の調整、派遣、報告
- e. 様式例Ⅰによる採択団体別の評価結果の集約、採択団体へのフィードバック
- f. 様式例Ⅰの結果の全体集計、様式例Ⅱへの統合、分析、考察
- g. 様式例Ⅱによる事業別の評価結果の集約、文化政策部会へのフィードバック

上記7項目のうち、体制の検討が重要かつ急務であるのは「c. インタビュー調査や訪問調査の調査員の任用」だと考えられる。その参考事例として、英国のアーツカウンシル・イングランドの「芸術性評価スキーム」では、National Portfolio Funding(全国戦略に基づいた助成)の助成対象団体の実施する展覧会や公演等の作品の芸術性を評価するために、全国の地域事務所に助成対象団体の窓口となる Relationship Manager(担当官)を配置し、また、芸術家、キュレーター、芸術監督、評論家、ジャーナリスト、大学教授等の約200名の調査員を各団体の展覧会や公演等に派遣している。

上記の文化政策の評価を継続的に行うためには、以下の3つの実施体制が考えられる。

- 独立行政法人日本芸術文化振興会(プログラムディレクター、プログラムオフィサー)による日本版アーツカウンシルの試行の進捗状況を踏まえつつ、充実を図ること
- 文化庁や文化施設を所管する独立行政法人における実施体制を充実・強化すること

また、これらの作業をすべて文化庁や日本芸術文化振興会の中で完結させるのではなく、その一部を芸術系大学やアートマネジメントに関する講座やコース等を設置する大学や大学院、文化政策に関する調査研究を行う民間のシンクタンクなどと協力して実施する方法なども検討すべきだと考えられる。

#### (2) 事前評価と事後評価の整合性、連続性

事前評価(補助金交付申請書・要望書の審査)と事後評価には一定の整合性が必要だと考えられる。評価に対する基本的な考え方や評価基準を共有し、事前評価の際に課題となった点について、事後評価で実績や成果を確認するためにも、事前、事後の評価体制の連続性が求

められる。そのため、事後評価を行う体制には、一定の比率で事前評価を行う各施策（助成事業）の審査委員からも任用すべきだと考えられる。

また、本調査研究による様式例Ⅰと様式例Ⅱは、採択団体の事業や施策のモニタリングと事後評価に主眼を置いたものであるが、様式例Ⅰで収集したデータや調査結果は、採択団体が継続して申請した場合、当該団体の事前評価（補助金交付申請書・要望書の審査）の参考資料としても有効だと考えられる。ただし、それらは申請年度の2年前の実績をベースとしたものである点に留意が必要である。

### (3) 文化政策の評価に関する専門スタッフの人材育成

前述した評価の実施体制のうち、採択団体へのインタビュー調査や訪問調査では、若手の批評家やジャーナリスト、アートマネジメント人材を登用することが考えられる。そのことで、活動現場ならではの知見や政策形成に必要な知見や言語を共有する機会をつくり、中長期的に文化芸術の振興に必要な人材育成を促進することが期待できる。

その際、インタビュー調査や訪問調査で、評価に必要な情報を的確に収集するためには、文化芸術全般や文化政策全般の知見、インタビュアーとしての技術の習得や経験の蓄積が必要である。また、調査を担当する人材によって、それらの知見、技術、経験に大きな差がないことが、公正な評価を行うための前提条件でもある。

さらに、アンケート調査の集計結果、インタビュー調査の結果を多角的に分析するためには、データを読み、解釈し、論理的に有意な結論を導くための知識や経験も必要である。そのため、普段からこうした実務を行っている民間団体（例えば企業メセナ協議会や民間の助成財団、シンクタンク等）との連携により、評価の専門的な人材育成に向けた教育や研修を実施することが重要である。

### (4) 採択団体とのパートナーシップの形成

助成の基本的な考え方として、支援する側（文化庁）と支援される側（採択団体）、評価する側と評価される側という関係ではなく、共通の目標に向かう対等な立場としてパートナーシップを形成する必要がある。そのためには、本調査の「評価の流れ」で記述したとおり、例えば、「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」では、劇場・音楽堂が実施したアンケート調査を文化庁が集計し、その結果を劇場・音楽堂にフィードバックしたり、あるいは訪問調査で明らかとなった採択団体の課題を採択団体との間で共有したりすることが重要である。

こうしたパートナーシップを形成することで、文化庁の施策のPDCAサイクルの確立だけでなく、劇場や音楽堂等の採択団体のPDCAサイクルの確立に貢献することが可能である。

それらに加え、インタビュー調査や訪問調査を通じ、採択団体との直接的な対話を含めコミュニケーションが活性化することで、文化庁は、各施策の対象領域の状況や課題、採択団体の抱える悩みや問題点を理解することに結びつき、一方の採択団体は、文化庁の施策や事業の理念、目的、目標をより理解することが可能になると考えられる。

このように、文化庁の各施策の評価とPDCAサイクルを確立する中で、文化庁と採択団体との相互理解を向上させることは、現状の施策や事業の課題や改善点の発見、次の新しい施策

や事業の開発へとつながるものと考えられる。

#### (5) 調査研究機能(シンクタンク機能)の強化

様式例Ⅰで収集した膨大なデータや様式例Ⅱの各施策の分析結果は、日本の文化政策の現状を把握し、将来の方向性を検討する上で、極めて有効なリソースである。例えば、補助事業を行った劇場や音楽堂、芸術団体などの公演や展覧会の件数や観客数などの実績、観客や参加者の満足度などを経年分析すれば、当該分野の動向を客観的に捉えたり、文化庁の各施策の成果、効果を把握したりする基礎データになると考えられる。

さらに、各施策の領域における主要な劇場・音楽堂や芸術団体と思われるところが申請をしなかった理由をヒアリングすることや、事業に参加しなかった市民の声をヒアリングするなど、本調査研究による様式例Ⅰ、様式例Ⅱによる評価では把握が難しい外部環境のデータの収集と分析から、多角的に施策や事業の改善に取り組むことも可能であろう。

文化庁の中で各施策がどのような役割や機能を果たしたのかを把握するためには、そうしたデータや情報に加え、文化芸術を取り巻く環境変化なども分析する必要がある。例えば芸術団体や文化施設、自治体文化行政の動向、課題、ニーズなどを把握するための情報やデータの持続的な収集、分析などを行うためにも、評価体制の確立とあわせ外部の専門機関とも連携したシンクタンク機能の強化が必要だと考えられる。



文化政策の評価手法に関する調査研究  
報告書

---

発行 2012年3月

委託 文化庁長官官房政策課  
〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2  
TEL 03-5253-4111(代)  
FAX 03-6734-3811

受託 株式会社ニッセイ基礎研究所  
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7  
TEL 03-3512-1883  
FAX 03-5211-1084

\*無断複写・転載はお断りします。

---

